

令和8年度 起工第321号

田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）

図面リスト

図面番号	図 面 名 称	縮尺（A1）	図面番号	図 面 名 称	縮尺（A1）
A-00	図面リスト	NON	S-01	構造細目共通図 （1）	NON
A-01	建築工事特記仕様書 （1）	NON	S-02	構造細目共通図 （2）	NON
A-02	建築工事特記仕様書 （2）	NON	S-03	構造細目共通図 （3）	NON
A-03	建築工事特記仕様書 （3）	NON	S-04	構造細目共通図 （4）	NON
A-04	建築工事特記仕様書 （4）	NON	S-05	構造細目共通図 （5）	NON
A-05	建築工事特記仕様書 （5）	NON	S-06	構造細目共通図 （6）	NON
A-06	建築工事特記仕様書 （6）	NON	S-07	回転貫入鋼管杭工法 設計施工仕様書 （1）	NON
A-07	建築工事特記仕様書 （7）	NON	S-08	回転貫入鋼管杭工法 設計施工仕様書 （2）	NON
A-08	建築工事特記仕様書 （8）	NON	S-09	ボーリング柱状図	1/50
A-09	建築工事特記仕様書 （9）	NON	S-10	伏図 （1）	1/50
A-10	建築工事特記仕様書 （10）	NON	S-11	伏図 （2）	1/50
A-11	位置図	NON	S-12	軸組図 （1）	1/50
A-12	全体配置図	1/200	S-13	軸組図 （2）	1/50
A-13	工事区分一覧表・求積図	1/50	S-14	部材リスト	1/30
A-14	敷地面積求積図	1/50	S-15	架構配筋図	1/30
A-15	法検討表 1	NON	S-16	部分配筋図	図示
A-16	法検討表 2	NON	AE-01	建築電気設備工事特記仕様書	NON
A-17	法検討表 3	NON	AE-02	全体配置図	1/200
A-18	仕上表	NON	AE-03	配置図	1/50
A-19	配置図	1/50	AE-04	電灯分電盤結線図・照明器具姿図	NON
A-20	平面図	1/50	AE-05	電灯設備 平面図	1/50
A-21	立面図	1/50	AE-06	動力制御盤結線図	NON
A-22	断面詳細図	1/50	AE-07	動力設備 平面図	1/50
A-23	雑詳細図	図示	-	-	-
A-24	展開図・天井伏図・建具配置図	1/50	AM-01	建築機械設備工事特記仕様書	NON
A-25	建具表・建具標準図	図示	AM-02	全体配置図	1/200
A-26	外構撤去図	1/50	AM-03	配置図	1/50
A-27	外構図	1/50	AM-04	空気調和設備 機器表	NON
A-28	外構詳細図 1	図示	AM-05	空気調和設備 平面・断面図	1/50
A-29	外構詳細図 2	図示	AM-06	給水設備 平面図	1/50
A-30	（参考）仮設計画図	1/50	-	-	-

[illegible]

4

地業工事

○鋼杭地業

材料
鋼杭の材料 ○ 図示による (4. 4. 3)

工法
特定埋込杭工法 (4. 3. 5) (4. 4. 4)
・ 中掘り拡大根固め工法
○ 回転圧入による埋込み工法
・ 平成13年国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持方式でα=250を採用できる工法
・ 平成13年国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持方式のうちα、β、γが以下の値を採用できる工法
α = ()、β = ()、γ = ()

継手 (4. 4. 3) (4. 4. 5) (7. 2. 5)
杭の継手の工法
・ 溶接継手
溶接材料
・ 標準仕様書 7. 2. 5 (1) (2) による

○機械式継手 (4. 3. 8) (4. 4. 6)
杭頭の処理等
○ 処理する ・ 処理しない
処理方法 (切断に伴う補強方法含む)
○ 図示による

・ 場所打ちコンクリート杭地業 (4. 5. 4) (5. 2. 1)
材料その他
鉄筋の種類

種類の記号	呼び径 (mm)	備考
・ SD295		
・ SD345		
・		

帯筋の加工及び組立 (4. 5. 4)
・ 図示による

鉄筋の最小かぶり厚さ (4. 5. 4)
・ 100mm

鉄筋かごの補強 (4. 5. 4)
・ 図示による

組み立てた鉄筋の節ごとの継手 (4. 5. 4) (5. 3. 4)
※重ね継手
重ね継手の長さ
※標準仕様書 表5. 3. 2による

主筋の基礎底盤への定着長さ (4. 5. 4) (5. 3. 4)
・ 図示による

セメントの種類 (4. 5. 4)
※ 高炉セメントB種

コンクリートの設計基準強度 (F_c) (4. 5. 4)
・ 図示による

コンクリートの種別 (4. 5. 4) (表4. 5. 1)
・ A種 ・ B種 ・ 評定等の内容による

スランブ (4. 5. 4)
※21cm ・ 18cm ・ () cm

構造体強度補正值 (S) (4. 5. 4)
※3N/mm²
・ 図示による ・ 評定等の内容による

鋼材部分の材料
・ 図示による

工法 (4. 5. 1) (4. 5. 4~4. 5. 6)
・ アースドリル工法
・ リバース工法
・ オールケーシング工法

・ 場所打ち鋼管コンクリート杭工法
鋼管の種類 ・ SKK400 ・ SKK490
・ 拡底杭工法
・

杭の支持層への掘入れ長さ
・ 図示による

杭の水平方向の位置ずれ精度
・ 杭径の1/4かつ100mm以下

孔壁の確認 (超音波測定器による)
・ 行う
測定箇所
・ 試験杭 () 箇所、本杭 () 箇所

・ 砂利地業 (4. 6. 2)
材料
・ 再生クラッシュラン ・ 切込砂利 ・ 切込砕石

砂利地業の厚さ (4. 6. 3)
※ 60mm

範囲
・ 基礎下、基礎梁下、土に接するスラブ下、土間コンクリート下
・ 図示による

・ 砂地業 (4. 6. 2)
材料
・ シルト ・ 山砂 ・ 川砂 ・ 砕砂

砂地業の厚さ (4. 6. 3)
※ 60mm

範囲
・ 図示による

○管コンクリート地業

捨コンクリートの厚さ (4. 6. 4)
※ 50mm

範囲 (4. 6. 4)
○ 基礎下、基礎梁下、土に接するスラブ下
・ 図示による

コンクリートの種類 (4. 6. 4) (6. 14. 1)
※ 普通コンクリート

標準仕様書 表6. 2. 1以外のコンクリートを用いる場合 (4. 6. 4) (6. 14. 1)
・ 図示による

設計基準強度 (4. 6. 4) (6. 14. 1)
※ 18N/mm²

スランブ (4. 6. 4) (6. 14. 1)
※ 15cm又は18cm

防湿層 (4. 6. 5)
・ 適用する

材料 (4. 6. 2)
※ ポリエチレンフィルム厚さ0. 15mm以上

範囲 (4. 6. 5)
・ 建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下 (ピットを除く)
・ 図示による

材料 (4. 7. 2)
固化材の種類 ・ セメント固化材

工法 (4. 7. 3)
方式
※ 機械攪拌方式
改良体の設計基準強度 (F_c)、改良体長さ、改良率、改良体幅
・ 図示による

固化材の配合量及び水固化材比を決定するための対象とする地層
・ 図示による

室内配合試験における一軸圧縮試験の供試体数
・ 図示による

特殊な地盤等での試験施工
・ 図示による

改良工事完了後の試験
一軸圧縮試験の検査対象、コア採取方法、供試体数、検査方法
・ 図示による

六価クロム溶出試験
・ 適用する ・ 適用しない

・ 地盤改良 (深層混合処理工法)

材料 (4. 8. 2)
固化材の種類 ・ セメント固化材

工法 (4. 8. 3)
方式
※ 原位置混合方式 ・

改良体の設計基準強度 (F_c)、改良対象土、改良範囲、改良厚さ
・ 図示による

固化材の配合量を決定するための対象とする地層
・ 図示による

室内配合試験における一軸圧縮試験の供試体数
・ 図示による

改良工事完了後の試験
一軸圧縮試験の検査対象、コア採取方法、供試体数、検査方法
・ 図示による

六価クロム溶出試験
・ 適用する ・ 適用しない

・ 地盤改良 (浅層混合処理工法)

5

鉄筋工事

○鉄筋

鉄筋の種類等 (5. 2. 1)

種類の記号	呼び径 (mm)	備考
○ SD295	○ D10～D22	
・ SD345	・ D19以上	
・		
・		

鉄線の形状等 (5. 2. 2)

種類	種類の記号	鉄線の形状、網目寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位
・ 溶接金網			

鉄筋の折曲げ形状及び寸法 (5. 3. 2)
○ 鉄筋の折曲げ角度が90°未満の折曲げ内法直径 (D)
(4 D) 以上

鉄筋の継手の方法等 (5. 3. 4)

部 位	継手の方法	呼び径 (mm)
柱及び梁主筋	○ ガス圧接 ・ 機械式継手	○ D 1 9、D 2 2
	・ 溶接継手 ・ 重ね継手	
耐力壁の鉄筋	○ 重ね継手	○ D 1 3、D 1 6
基礎、耐圧スラブ、土圧壁	○ 重ね継手 ・ ガス圧接	○ D 1 3
上記以外 (外構等)	○ 重ね継手	○ D 1 0

継手位置 (5. 3. 4)
○ 図示による

柱及び梁主筋の重ね継手の長さ (5. 3. 4)
○ 図示による

耐力壁の重ね継手の長さ (5. 3. 4)
※ 標準仕様書 5. 3. 4 (3) (7) による
・ 図示による

・ 先組み工法等で、柱及び梁の主筋のうち、隣り合う継手を同一箇所 に設ける場合
・ 図示による

鉄筋の定着長さ (5. 3. 4)
※ 標準仕様書 表5. 3. 4による
・ 図示による

標準仕様書 5. 3. 4 (5) (4) の場合の折曲げ定着の方法 (5. 3. 4)
※ 標準仕様書 図5. 3. 3により5. 3. 4 (5) (4) を全て満足する
・

機械式定着工法 (5. 3. 4)
・ 適用する ○ 適用しない
適用箇所 ・ 図示による
種類 ・ 図示による

・ 溶接金網

○加工

○継手及び定着

6

コンクリート工事

○コンクリートの種類

コンクリートの類別 (6. 2. 1) (表6. 2. 1)
※ I 類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート)
・ II 類 (JIS A 5308に適合したコンクリート)

○普通コンクリート (6. 2. 1～6. 2. 4) (表6. 2. 2)

設計基準強度 (N/mm ²)	スランブ (cm)	適用箇所
○ F _c 2 4	※ 15又は18 ・	基礎、基礎梁、土間スラブ
○ F _c 2 4	※ 18 ・	柱、梁、スラブ、壁
○ F _c 1 8	※ 15又は18 ・	捨てコン、外構、舗装
・	・	

・ 軽量コンクリート (6. 2. 1) (6. 10. 2)

・ 建築基準法第37条第二号の規定に基づき認定を受けたコンクリート (6. 2. 1)
適用箇所 ()

○構造体コンクリートの仕上り (6. 2. 5) (表6. 2. 4)

種 別	適用箇所
・ A種	・ 図示による ・
○ 種	○ 図示による ・
○ 種	○ 図示による ・
・ c種	・ 図示による ・

コンクリートの仕上げの平たんさ (6. 2. 5) (表6. 2. 5)

種 別	適用箇所
○ 種	・ 図示による ○ 外壁、内壁、柱、梁、スラブ
○ 種	・ 図示による ○ 上記以外の範囲
・ c種	・ 図示による ・

○セメント (6. 3. 1)
種類
※ 普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種
適用箇所 (※ 下記以外全て ・)
・ 高炉セメントB種
適用箇所 ()
・ フライアッシュセメントB種
適用箇所 ()
・ 普通エコセメント
適用箇所 ()

○鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (溶接金網を含む)

最小かぶり厚さ (目地底から算出を行う) (5. 3. 5)
※ 標準仕様書 表5. 3. 6による
柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無
・ 有り 適用箇所 ()
主筋のかぶり厚さを径の1. 5倍以上確保する
軽量コンクリートの適用の有無
・ 有り 適用箇所 ()
・ 最小かぶり厚さに加える厚さ () mm

耐久性上不利な箇所の有無 (塩害等を受けるおそれのある部分等)
・ 有り 適用箇所 ()
・ 最小かぶり厚さに加える厚さ () mm

・ 図示による

各部配筋 (5. 3. 7)
○ 図示による

抜取試験 (5. 4. 10) (5. 4. 11)
※ 超音波探傷試験 標準仕様書 5. 4. 10 (4) (a) による

○引張試験
試験方法等 ○ 1組の作業班が1日に行った圧接箇所を1ロットとし、1ロットに対して3本の抜き取り試験を行う。試験方法：JIS Z3120

工法 (5. 5. 3)
適用箇所
・ 図示による
平成12年建設省告示第1463号に適合する性能 (5. 5. 3)
・ A級

機械式継手の種類 (5. 5. 3)
・ 図示による

鉄筋相互のあき
・ 評定等の内容による ・ 図示による

施工完了後の継手部の試験 (5. 5. 5)
外観試験
試験項目及び合否判定
※ 標準仕様書 表5. 5. 1～表5. 5. 31による
・ 図示による ・

外観試験で不合格となった場合の措置 (5. 5. 6)
※ 標準仕様書 5. 5. 6 (1) による
・ 図示による

・ 超音波測定試験
試験対象
・ 図示による ・
超音波測定試験で不合格となった場合の措置 (5. 5. 6)
・ 図示による

工法 (5. 6. 3)
適用箇所
・ 図示による
平成12年建設省告示第1463号に適合する性能 (5. 6. 3)
・ A級

溶接継手の工法 (5. 6. 3)
・ 図示による

鉄筋相互のあき (5. 6. 3)
・ 図示による

○コンクリートの割合

○打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地 (6. 6. 4)
打継ぎの位置
梁及びスラブ
※ スパンの中央又は端から1/4の付近
・ 図示による

柱及び壁
※ スラブ、壁梁又は基礎の上端
・ 図示による

目地の寸法 (6. 6. 4) (6. 8. 1) (9. 7. 3)
※ 標準仕様書 9. 7. 3 (1) (7) による
・ 図示による

ひび割れ誘発目地の位置、形状 (6. 8. 1)
・ 図示による

○打増し厚さ (打放し仕上げ部) (6. 8. 1)
打増し厚さ
○ 打放し仕上げの打増し厚さ (外部に面する部分に限る)
○ 20mm
・ 打放し仕上げの打増し厚さ (内部に面する部分に限る)
・ 10mm ・ 20mm

打増し範囲
○ 図示による

○型枠 (6. 8. 2)
せき板の材料
※ 標準仕様書 6. 8. 2 (1) (7)、(4) による
・ 合板 (厚さ：※ 12mm ・)
・
・ 断熱材を兼用した型枠
使用箇所
・ 図示による

・ MCR工法用シート (6. 8. 2)
適用箇所
・ 図示による

スリーブの材質・規格等 (6. 8. 2)
○ 図示による

型枠の最小存置期間 (6. 8. 4)
・ セメントの種類が普通エコセメントの場合 ()

・ 軽量コンクリート (6. 10. 1)
適用箇所
・ 図示による

種類 (6. 10. 2) (表6. 10. 1)
・ 1種 ・ 2種
気乾単位容積重量
() t/m³

スランブ
※ 21cm

・ 寒中コンクリート (6. 11. 1)
適用期間
・ 図示による

構造体強度補正值 (S) (6. 11. 2)
・ 標準仕様書 6. 11. 2 (3) (7) による
・ 積算温度を基に定める ()

・ 暑中コンクリート
スランブ
※ 21cm

構造体強度補正值 (S) (6. 12. 2)
※ 標準仕様書 表6. 12. 1による

・ マスコンクリート (6. 13. 1)
適用箇所
・ 図示による

セメントの種類 (6. 13. 2)
・ 普通ポルトランドセメント
・ 中廣熱ポルトランドセメント
・ 低熱ポルトランドセメント
・ 高炉セメントB種
・ フライアッシュセメントB種
・ シリカセメント

混和材料 (6. 13. 2)
・ 混和剤
混和剤の種類
※ 標準仕様書 6. 13. 2 (2) (7) による

・ 混和材
混和材の種類
※ 標準仕様書 6. 13. 2 (2) (4) による

スランブ (6. 13. 2)
※ 15cm ・

構造体強度補正值 (s) (6. 13. 2)
※ 標準仕様書 表6. 13. 1による ・

工事年度
令和8年度
起工 321号

発注部署
宗像市 都市管理部 建築課

図面番号
A-02

工事名
田熊雨水ポンプ整備工事 (建築工事)

図面名
建築工事特記仕様書 (2)

縮尺
NOSCALE

令和7年版

6コンクリート工事

○無筋コンクリート

コンクリートの種類
※普通コンクリート
設計基準強度
※18(N/mm2)
スランプ
※15cm又は18cm
適用箇所
※標準仕様書 6.14.1(4)による
・図示による
・標準仕様書 表6.2.1以外のコンクリートを用いる場合
()

・流動化コンクリート

・高流動コンクリート

適用箇所(部位、部材)
・図示による
材料及び割合
スランプフロー
・図示による
空気量
※4.5%
単位粗骨材かさ容積
※0.580m³/m³以上

7鉄骨工事

・鉄骨製作工場

鉄骨製作工場の加工能力
・国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場
又は同等以上の能力のある工場
()グレード以上
・監督職員の承認する工場

・施工管理技術者

鉄骨製作工場における施工管理技術者
・適用する

・鋼材

種類等
種類の記号適用箇所(主要な部分)規格
・JISによる
・JISによる
・JISによる
・JISによる
・JISによる
・JISによる
・JISによる

形状及び寸法
・図示による
板厚方向に引張力を受ける鋼材の試験
・行う(適用箇所:)・行わない

・高力ボルト

高力ボルトの種類
・トルシア形高力ボルト
・JIS形高力ボルト
・溶融亜鉛めっき高力ボルト
・建築基準法に基づき認定を受けた高力ボルト

ボルトの寸法
ねじの呼び・図示による
ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・図示による
摩擦面の性能及び処理
・すべり試験
試験の方法等
・図示による
・溶融亜鉛めっき面の摩擦面の処理方法
※標準仕様書7.12.5(1)④、(4)による

JIS形高力ボルトの締付け(本締め)
ナット回転法の場合で、ボルトの長さがねじの呼びの5倍を超える場合の回転量
・図示による

・普通ボルト

ボルト及びナットの材料
※標準仕様書 表7.2.3による
ボルトの形状及び寸法
ねじの呼び・図示による

ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・図示による

母屋又は剛継の取付けに使用するボルトの孔径
※ねじの呼び径+1.0mm

・アンカーボルト

種類
・構造用アンカーボルト
・ABR400・ABR490
・建方用アンカーボルト
・SS400
・アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度
※標準仕様書 表7.2.3による
ボルトの繰端距離、ボルト間隔、ゲージ等
・図示による

溶接材料

溶接材料
※標準仕様書 7.2.5(1)、(2)による
・図示による

・ターンバックル

種類
建築用ターンバックルボルト
※羽子板ボルト
建築用ターンバックル胴
※割付式
・ねじの呼び等
・図示による

・床構造用のデッキプレート

・スタッド

・柱底均しモルタル

・鉄骨の仮組

・溶接作業を行う技能資格者

・溶接接合

・溶接部の試験

・錆止め塗装

・耐火被覆

材質、形状及び寸法(7.2.1)

・デッキプレート単独の構法
・デッキプレートとコンクリートとの合成スラブとする構法
・

鉄骨部材への溶接方法
・図示による

種類等(7.2.8)

呼び名呼び長さ(mm)適用箇所
・16
・19
・22

調合等(7.2.9)(表7.2.5)

・標準仕様書7.2.9(1)によるモルタル
・無収縮モルタル
無収縮モルタルの材料、調合等
※標準仕様書7.2.9(2)による

仮組の実施(7.3.10)

・する
仮組を行う範囲
・図示による

技量付加試験(7.6.3)

・行う・行わない
試験の要領・図示による

開先形状(7.6.4)

・図示による

鋼製エンドタブを切断する箇所及び切断範囲(7.6.7)

・図示による
切断面の仕上げ
※標準仕様書7.6.7(1)①、②による
低応力高サイクル疲労を受けする部位
・図示による
スカラップの形状
・図示による

溶接部の外観試験(7.6.12)

平成12年建設省告示第1464号第二号に関する試験
試験方法等
・「実合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル
(鉄骨製作管理技術者登録機構)」3.5.2 受入検査による。
※抜き取り検査②・抜き取り検査①

JASS 6 付則 6の付表3「溶接」に関する試験
試験方法等
・JASS 6 10.4 [受入検査]。溶接部の外観検査(1)～(5)による。
ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の採取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。

完全溶込み部の超音波探傷試験(7.6.12)

・適用する・適用しない
工場溶接の場合
A00L※レベルⅡ・レベルⅠ

節・全て
検査水準※第6水準

塗料の範囲(7.8.2)

耐火被覆材の接着する面の塗装範囲
・図示による
耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲
※標準仕様書7.8.2(1)による
・図示による

下記以外の塗料の種類は、18章による
・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の錆止め塗料の種類
※A種・Ba種(7.8.4)(表18.3.1)
・耐火被覆が接着する面の塗料の種類

種類、材料、工法等(7.9.2～7.9.8)

種類材料・工法耐火性能(時間)適用箇所(部位・部分)
・耐火材吹付け
・乾式吹付け
ロックウール
・半乾式吹付け
ロックウール
・湿式
ロックウール
・
・耐火板張り
・繊維混入けい酸
カルシウム板
・
・耐火材巻付け
・
ロックウール
・
・ラス張り
モルタル塗り
・耐火塗料

・アンカーボルトの設置等

構造用アンカーボルトの形状及び寸法(7.10.3)

・図示による
構造用アンカーボルトの保持及び埋込み
※適切な鋼製アンカーフレーム等を設置して固定する方法
・図示による

建方用アンカーボルトの保持及び埋込み方法(7.10.3)(表7.10.1)

種類・A種・B種

柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種類(7.10.3)(表7.10.2)

厚さ・mm
種別※A種

・軽量形鋼構造

ボルト接合方法(7.11.2)

・普通ボルト接合

8コンクリートブロック、ALCパネル及び押出成形セメント板工事

・補強コンクリートブロック造

材料(8.2.4)

適用箇所ブロックの種類断面形状及び圧縮強さによる区分正味厚さ(mm)モジュール呼び寸法(mm)備考
長さ高さ

モルタルの調合(容積比)(8.2.3)

※ブロックの区分が A(08)、B(12)、C(16)の場合で、目地幅が10mm程度の場合
※標準仕様書 表8.2.1による

各部の配筋(8.2.5)

・図示による

目地仕上げ(8.2.7)

・押し目地仕上げ・化粧目地仕上げ

まぐさを受ける開口部両側のブロックにおいて、モルタル又はコンクリートで充填するブロックの範囲(8.2.8)

・図示による

・コンクリートブロック
横壁及び隅

材料(8.3.2)(表8.3.1)

適用箇所ブロックの種類断面形状及び圧縮強さによる区分正味厚さ(mm)モジュール呼び寸法(mm)備考
長さ高さ

※標準仕様書 表8.3.1
※空洞ブロックC(16)

適用箇所が隅の場合で化粧有りのブロック
・適用する(適用箇所:)・適用しない

モルタルの調合(容積比)(8.2.3)(8.3.3)

※ブロックの区分が A(08)、B(12)、C(16)の場合で、目地幅が10mm程度の場合
※標準仕様書 表8.2.1による

鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状(8.3.4)

・図示による

各部の配筋(8.3.4)

・図示による

・ALCパネル

材料、構法(8.4.2～8.4.5)(表8.4.2～表8.4.4)

パネルの区分用途形状表面加工(N/m²)厚さ(mm)幅及び長さ(mm)耐火性能(時間)構法の種別
・外壁用
・一般
・平
・100
・図示による
・有(1)
・A種
・外壁用
・コーナー
・意匠
・
・100
・図示による
・有(1)
・B種
・間仕切壁用
・一般
・平
・100
・図示による
・有(1)
・C種
・間仕切壁用
・コーナー
・意匠
・
・100
・図示による
・有()
・無
・F種
・床版用
・
・
・100
・図示による
・
・無

パネル相互の接合部に挿入する耐火目地材(8.4.2)

・図示による

・外壁パネル構法(8.4.3)

耐火圧性能()
耐震性能()
パネル幅
・300mm未満(・図示による)
パネルの短辺小口相互の接合部、出隅及び入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取り合い部の伸縮目地の目地幅
※10～20mm・図示による
伸縮目地への耐火目地材の充填
・適用する・適用しない

間仕切壁パネル構法(8.4.3)(8.4.4)

耐火性能()
パネル幅
・300mm未満(・図示による)
パネルの短辺小口相互の接合部、出隅及び入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取り合い部の伸縮目地の目地幅
※10～20mm・図示による
伸縮目地への耐火目地材の充填
・適用する・適用しない

屋根及び床パネル構法(8.4.3)(8.4.5)

耐火圧性能()
耐震性能()
パネル幅
・300mm未満(・図示による)

・押出成形セメント板(ECP)

材料、構法(8.5.2～8.5.4)(表8.5.1)(表8.5.2)

パネルの種類形状厚さ(mm)幅(mm)工法の種別備考
・外壁パネル
・F(フラットパネル)
・50・60
・D(デザインパネル)
・50・60
・T(タイルベースパネル)
・60
・A種
・B種
・C種
・間仕切壁パネル
・F(フラットパネル)
・50・60
・D(デザインパネル)
・50・60
・T(タイルベースパネル)
・60
・B種
・C種
・外壁パネル工法
耐風圧性能()
耐震性能()
・間仕切壁パネル工法
耐震性能()
耐火構造以外の目地及び隙間の処理(8.5.3)(8.5.4)
※パネルの製造所の仕様による
パネル幅の最小限度(8.5.3)(8.5.4)
・300mm未満(・図示による)
パネルの相互の目地幅(8.5.3)(8.5.4)
パネル幅
900mm以下の場合900mmを超える場合
長辺の目地幅※10mm以上※15mm以上
短辺の目地幅※15mm以上※15mm以上

出隅及び入隅のパネル接合部の伸縮目地の目地幅(8.5.3)(8.5.4)

※15mm程度(シーリング材を充填)・図示による

清堀及び開口部の措置(8.5.5)

やむを得ず設備開口等を設ける場合のパネルの開口寸法等の限度
・図示による

9防水工事

○アスファルト防水

屋根保護防水(9.2.2)(9.2.3)(表9.2.3～表9.2.6)

防水層の種類

種別施工箇所断熱材絶縁用シート
・A-1
・A-2
・A-3
・B-1
・B-2
・A1-1
・A1-2
・A1-3
・B1-1
・B1-2
※ポリエチレンフィルム
厚さ0.15mm以上又は
フラットヤーンクロス
70g/m²程度
※フラットヤーンクロス
70g/m²程度

※保証年数が10年保証の製品を使用すること。

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ(9.2.2)

※標準仕様書 表9.2.3及び表9.2.4による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分・R種・N種
厚さ・mm以上
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ(9.2.2)

※標準仕様書 表9.2.5及び表9.2.6による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分・R種・N種
厚さ・mm以上
押え金物の材質及び形状寸法(9.2.2)

※アルミニウム製L-30×15×2.0mm程度

立上り部への断熱材及び絶縁用シートの設置(表9.2.4)(表9.2.6)

・適用する・適用しない

屋根露出防水(9.2.2)(9.2.3)(表9.2.7)(表9.2.8)

防水層の種類

種別施工箇所断熱材仕上塗料
種類使用量
・D-1
・D-2
・D1-1
・D1-2
・
※製造所の仕様による

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ(9.2.2)

※標準仕様書 表9.2.8による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分・R種・N種
厚さ・mm以上
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ(9.2.2)

※標準仕様書 表9.2.7及び表9.2.8による
・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分・R種・N種
厚さ・mm以上
押え金物の材質及び形状寸法(9.2.2)

※アルミニウム製L-30×15×2.0mm程度

絶縁工法及び断熱絶縁工法の脱気装置の種類及び設置数量(9.2.3)

種類※アスファルトルーフィング類の製造所の指定
設置数量※アスファルトルーフィング類の製造所の指定
・個

屋内防水(9.2.2)(9.2.3)(表9.2.9)

防水層の種類

種別施工箇所種別施工箇所
・E-1
・E-2

令和8年度起工
災害査定
起工 321号

田熊雨水ポンプ場整備工事(建築工事)

発注部署
宗像市 都市管理部 建築課
河川名
図面名
建築工事特記仕様書(3)
令和7年版
A-03
縮尺
NOSCALE

9

防水工事

保護層

・設ける（・図示による・）
・設けない
E-1の工程3を行う場合の部位
※貯水槽、浴槽等の常時水に接する部位

(9.2.3)
(表9.2.9)

施工

防水層の下地のモルタル塗り
・適用する（施工範囲・図示による・）
・適用しない
防水層の下地、立上りコンクリート打放し仕上げ
※標準仕様書 表6.2.4のB種
絶縁断熱工法のルーフレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置
・図示による

(9.2.4)
(9.2.4)
(9.2.4)
(9.2.4)

保護層等の施工

平場の保護コンクリートの厚さ
こて仕上げ ※80mm 以上
床タイル張り ※60mm 以上
立上り部の保護工法
・乾式保護材
乾式保護材の材料
・コンクリート押え
・モルタル押え（屋内等）
・れんが押え（・図示による・）
れんがの材料
・JIS R 1250（普通れんが及び化粧れんが）

(9.2.5)
(9.2.5)
(9.2.5)
(9.2.2)
(9.2.2)

屋上排水溝の設置

・図示による

(9.2.5)

改質アスファルトシート防水

防水層の種類

(9.3.2)(9.3.3)(表9.3.1～表9.3.3)

種別	施工箇所	断熱材	防湿用シート	仕上塗料	
				種類	使用量
・AS-T1				・	※製造所の仕様による・
・AS-T2					
・AS-T3					
・AS-T4					
・AS-J1					
・AS1-T1		種類・	・設ける		
・AS1-J1		厚さ mm	・設けない		

改質アスファルトシートの種類及び厚さ

※標準仕様書 表9.3.1から表9.3.3による

(9.3.2)

粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ

※標準仕様書 表9.3.2及び表9.3.3による

(9.3.2)

部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ

※標準仕様書 表9.3.2及び表9.3.3による

(9.3.2)

押え金物の材質及び形状寸法

※アルミニウム製L-30×15×2.0mm程度

(9.3.2)

屋根露出防水絶縁工法、屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量

種類
※改質アスファルトシートの製造所の指定

(9.3.3)

設置数量

※改質アスファルトシートの製造所の指定
・個

防水層の種類

(9.4.2～9.4.4)(表9.4.1)(表9.4.2)

種別	施工箇所	可塑剤移行防止シートの材質	断熱材	歩行の仕様	仕上塗料	
					種類	使用量
・S-F1				※非歩行用 ・軽歩行用	・	※製造所の仕様による・
・S-F2				・非歩行用 ・軽歩行用		
・S-M1				※非歩行用 ・軽歩行用	・	※製造所の仕様による・
・S-M2				・非歩行用 ・軽歩行用		
・SI-F1			種類・		・	※製造所の仕様による・
・SI-F2						
・SI-M1						
・SI-M2						
・SI-M2		※発泡ポリエチレンシート				

屋内防水層の種類

(9.4.2～9.4.4)(表9.4.3)

種別	施工箇所	保護層		
		平場のモルタル塗り		立上り部の保護モルタル塗り厚さ
		塗厚(mm)	工法	
・S-G1	・	・	・床塗り ・下地モルタル塗り	・

ルーフィングシートの種類及び厚さ

※標準仕様書 表9.4.1から表9.4.3による

(9.4.2)

固定金具の材質及び形状

材質
※防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面及び両面に樹脂を積層加工したもの

厚さ

※0.4mm以上

建築防水

接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量

種類
※ルーフィングシートの製造所の仕様
設置数量
※ルーフィングシートの製造所の仕様
・個
断熱工法（SI-M1、SI-M2の場合）の防湿用フィルム
・設置する
・設置しない
接着工法の場合のP・Cコンクリート部材防水下地の目地処理
・行う（・図示による・）
・行わない
P・Cコンクリート下地の入隅部の増張り（S-F1、SI-F1の場合）
・行う（・図示による・）
・行わない
機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
建築基準法に基づく風圧力に対応した工法
・図示による

(9.4.3)
(表9.4.2)
(9.4.4)
(9.4.4)
(9.4.4)
(9.4.4)

防水層の種類

(9.5.3)(表9.5.1)(表9.5.2)

種別	施工箇所	仕上塗料		保護層
		種類	使用量	
・X-1		・	※製造所の仕様による・	
○X-2	屋上（図示）	・	※製造所の仕様による・	
・Y-1	※地下外壁防水			
・Y-2	※屋内防水			

※保証年数が10年保証の製品を使用すること。

ウレタンゴム系塗膜防水 X-1（絶縁工法）の脱気装置の種類及び設置数量

種類
※主材料の製造所の仕様
設置数量
※主材料の製造所の仕様
・個

(9.5.3)

防水層の下地（壁及び天井）

※コンクリート打放し仕上げ（標準仕様書 表6.2.4の B種）
・

(9.6.4)

下地処理

コンクリートの打継箇所の処理
※標準仕様書9.6.4(2)(7)による
標準仕様書9.6.4(2)(4)及び(4)以外の下地処理
・図示による

(9.6.4)

材料

種類及び施工箇所
※下表以外は、標準仕様書 表9.7.1による
ただし、外壁タイル接着剤張り目地の場合のシーリングは11章に、カーテンウォール目地の場合のシーリングは17章による。

(9.7.2)

施工箇所		シーリング材の種類（記号）
仕上げを行わない施工箇所（・）		

シーリング材の目地寸法

※標準仕様書9.7.3(1)による
・

(9.7.3)

接着性試験

※簡易接着性試験
・引張接着性試験

(9.7.5)

ケイ酸質系塗布防水

防水層の下地（壁及び天井）

※コンクリート打放し仕上げ（標準仕様書 表6.2.4の B種）
・

(9.6.4)

下地処理

コンクリートの打継箇所の処理
※標準仕様書9.6.4(2)(7)による
標準仕様書9.6.4(2)(4)及び(4)以外の下地処理
・図示による

(9.6.4)

材料

種類及び施工箇所
※下表以外は、標準仕様書 表9.7.1による
ただし、外壁タイル接着剤張り目地の場合のシーリングは11章に、カーテンウォール目地の場合のシーリングは17章による。

(9.7.2)

施工箇所		シーリング材の種類（記号）
仕上げを行わない施工箇所（・）		

シーリング材の目地寸法

※標準仕様書9.7.3(1)による
・

(9.7.3)

接着性試験

※簡易接着性試験
・引張接着性試験

(9.7.5)

シーリング

石材の割付け

・図示による

(10.1.3)

天然石

(10.2.1)(表10.2.1)(表10.2.2)

施工箇所	岩石の種類	形状及び寸法	表面仕上げの種類	バフ仕上げの有無	備考
	・	・図示による			

テラズブロック

(10.2.1)(表10.2.1)(表10.2.2)

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状による区分	仕上げ面による区分	寸法(mm)	表面仕上げの種類	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・平もの ・役もの	・片面 ・両面			

テラズタイル

(10.2.1)(表10.2.1)(表10.2.2)

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分(mm)	表面仕上げの種類	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12	・300×300 ・400×400		

その他の材料

(10.2.3)

・セメントモルタル
・取付け用モルタル
※専門工事業者の指定する製品
・既設の目地モルタル
※専門工事業者の指定する製品
・透湿性吸水防止剤
※専門工事業者の指定する製品
・石裏面処理材
※専門工事業者の指定する製品
・裏打ち処理材
※専門工事業者の指定する製品
・金物の固定に使用する充填材等
※専門工事業者の指定する製品

・外壁湿式工法

受金物

材質、形状及び寸法
・図示による

(10.2.2)

アンカーの材質及び寸法

材質：※SS400
寸法：
あと施工アンカーの種類、材質及び寸法
種類：
材質：
寸法：
上記以外の金物の材質、形状及び寸法
・図示による

(10.2.2)

ドレンパイプの材質

・樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き 25～35φ
・

(10.2.3)

石材の厚さ

・ mm (25mm以上)

(10.3.2)

石裏面処理

・適用する
・適用しない

(10.3.3)

裏打ち処理

・適用する
・適用しない

(10.3.3)

下地ごしらえ

※あと施工アンカー・横筋流し工法
・流し筋工法
・あと施工アンカー工法

(10.3.3)

目地

一般目地
目地幅
・ mm (6～10mm)
シーリング材
・適用する（標準仕様書9.7による）
・適用しない
伸縮調整目地
位置
※標準仕様書 表11.1.1による
・図示による
シーリング材の目地寸法
※幅・深さとも10mm以上
・図示による

(10.3.3)
(9.7.3)(10.3.3)

受金物

材質、形状及び寸法
・図示による

(10.2.2)

アンカーの材質及び寸法

材質：※SS400
寸法：
あと施工アンカーの種類、材質及び寸法
種類：
材質：
寸法：
上記以外の金物の材質、形状及び寸法
・図示による

(10.2.2)

石材の厚さ

・ mm (20mm以上)

(10.4.2)

石裏面処理

・適用する
・適用しない

(10.4.3)

裏打ち処理

・適用する
・適用しない

(10.4.3)

下地ごしらえ

※あと施工アンカー・横筋流し工法
・あと施工アンカー工法

(10.4.3)

目地

一般目地
目地幅
・ mm (6～10mm)
シーリング材
・適用する（標準仕様書9.7による）
・適用しない
伸縮調整目地
位置
※6m程度ごと
・図示による
シーリング材の目地寸法
※幅・深さとも10mm以上
・図示による

(10.4.3)
(9.7.3)(10.4.3)

外壁乾式工法

外壁乾式工法的方式による金物の種類、形状、寸法等

※標準仕様書 表10.2.4による
方式
・スライド方式
・ロッキング方式
・図示による

(10.2.2)

アンカーの材質及び寸法

材質：※ステンレス（SUS304）製
寸法：
あと施工アンカーの種類、材質及び寸法
種類：
材質：
寸法：
上記以外の金物の材質、形状及び寸法
・図示による

(10.2.2)

石材の厚さ

・ mm (30mm以上)

(10.5.2)

だぼ用の穴の位置

※標準仕様書10.5.2(7)による
・図示による
裏打ち処理
・適用する
・適用しない
建築基準法に基づく風圧力に対応した工法
・図示による

(10.5.3)

目地

目地幅
・ mm (8mm以上)

(10.5.3)

シーリング材

・適用する（※標準仕様書9.7による
・図示による）
・適用しない

石材の厚さ

床（ mm）
階段（ mm）

(10.6.2)(10.6.3)

床石張り

浸透性吸水防止剤
・適用する
・適用しない
石裏面処理
・適用する
・適用しない
裏打ち処理
・適用する
・適用しない
階段張り
石裏面処理
・適用する
・適用しない
目地
一般目地
目地幅
屋外
・ mm (4mm以上)
屋内
・ mm (3～6mm)
シーリング材
・適用する
・適用しない
伸縮調整目地
位置
※床面積30㎡程度ごと、細長い通路の場合6m程度ごと及び他部材との取り合い部
・図示による
シーリング材の目地寸法
※幅・深さとも10mm以上
・図示による

(10.6.2)
(10.6.2)
(10.6.2)(10.6.3)
(10.6.2)(10.6.3)

・外壁空積工法

受金物

材質、形状及び寸法
・図示による

(10.2.2)

アンカーの材質及び寸法

材質：※SS400
寸法：
あと施工アンカーの種類、材質及び寸法
種類：
材質：
寸法：
上記以外の金物の材質、形状及び寸法
・図示による

(10.2.2)

石材の厚さ

・ mm (20mm以上)

(10.4.2)

石裏面処理

・適用する
・適用しない

(10.4.3)

裏打ち処理

・適用する
・適用しない

(10.4.3)

下地ごしらえ

※あと施工アンカー・横筋流し工法
・あと施工アンカー工法

(10.4.3)

目地

一般目地
目地幅
・ mm (6～10mm)
シーリング材
・適用する（標準仕様書9.7による）
・適用しない
伸縮調整目地
位置
※6m程度ごと
・図示による
シーリング材の目地寸法
※幅・深さとも10mm以上
・図示による

(10.4.3)
(9.7.3)(10.4.3)

外壁乾式工法

外壁乾式工法的方式による金物の種類、形状、寸法等

※標準仕様書 表10.2.4による
方式
・スライド方式
・ロッキング方式
・図示による

(10.2.2)

アンカーの材質及び寸法

材質：※ステンレス（SUS304）製
寸法：
あと施工アンカーの種類、材質及び寸法
種類：
材質：
寸法：
上記以外の金物の材質、形状及び寸法
・図示による

(10.2.2)

石材の厚さ

・ mm (30mm以上)

(10.5.2)

だぼ用の穴の位置

※標準仕様書10.5.2(7)による
・図示による
裏打ち処理
・適用する
・適用しない
建築基準法に基づく風圧力に対応した工法
・図示による

(10.5.3)

目地

目地幅
・ mm (8mm以上)

(10.5.3)

シーリング材

・適用する（※標準仕様書9.7による
・図示による）
・適用しない

石材の厚さ

床（ mm）
階段（ mm）

(10.6.2)(10.6.3)

床石張り

浸透性吸水防止剤
・適用する
・適用しない
石裏面処理
・適用する
・適用しない
裏打ち処理
・適用する
・適用しない
階段張り
石裏面処理
・適用する
・適用しない
目地
一般目地
目地幅
屋外
・ mm (4mm以上)
屋内
・ mm (3～6mm)
シーリング材
・適用する
・適用しない
伸縮調整目地
位置
※床面積30㎡程度ごと、細長い通路の場合6m程度ごと及び他部材との取り合い部
・図示による
シーリング材の目地寸法
※幅・深さとも10mm以上
・図示による

(10.6.2)
(10.6.2)
(10.6.2)(10.6.3)
(10.6.2)(10.6.3)

・床及び階段の石張り

石材の厚さ

床（ mm）
階段（ mm）

(10.6.2)(10.6.3)

床石張り

浸透性吸水防止剤
・適用する
・適用しない
石裏面処理
・適用する
・適用しない
裏打ち処理
・適用する
・適用しない
階段張り
石裏面処理
・適用する
・適用しない
目地
一般目地
目地幅
屋外
・ mm (4mm以上)
屋内
・ mm (3～6mm)
シーリング材
・適用する
・適用しない
伸縮調整目地
位置
※床面積30㎡程度ごと、細長い通路の場合6m程度ごと及び他部材との取り合い部
・図示による
シーリング材の目地寸法
※幅・深さとも10mm以上
・図示による

(10.6.2)
(10.6.2)
(10.6.2)(10.6.3)
(10.6.2)(10.6.3)

・内壁空積工法

受金物

材質、形状及び寸法
・図示による

(10.2.2)

アンカーの材質及び寸法

材質：※SS400
寸法：
あと施工アンカーの種類、材質及び寸法
種類：
材質：
寸法：
上記以外の金物の材質、形状及び寸法
・図示による

(10.2.2)

石材の厚さ

・ mm (20mm以上)

(10.4.2)

石裏面処理

・適用する
・適用しない

(10.4.3)

裏打ち処理

・適用する
・適用しない

(10.4.3)

下地ごしらえ

※あと施工アンカー・横筋流し工法
・あと施工アンカー工法

(10.4.3)

目地

一般目地
目地幅
・ mm (6～10mm)
シーリング材
・適用する（標準仕様書9.7による）
・適用しない
伸縮調整目地
位置
※標準仕様書 表11.1.1による
・図示による
シーリング材の目地寸法
※幅・深さとも10mm以上
・図示による

(10.4.3)
(9.7.3)(10.3.3)

受金物

材質、形状及び寸法
・図示による

(10.2.2)

アンカーの材質及び寸法

材質：※SS400
寸法：
あと施工アンカーの種類、材質及び寸法
種類：
材質：
寸法：
上記以外の金物の材質、形状及び寸法
・図示による

(10.2.2)

石材の厚さ

・ mm (20mm以上)

(10.4.2)

石裏面処理

・適用する
・適用しない

(10.4.3)

裏打ち処理

・適用する
・適用しない

(10.4.3)

下地ごしらえ

※あと施工アンカー・横筋流し工法
・あと施工アンカー工法

(10.4.3)

目地

一般目地
目地幅
・ mm (8mm以上)
シーリング材
・適用する（※標準仕様書9.7による
・図示による）
・適用しない

(10.4.3)
(9.7.3)(10.3.3)

・隔て板

伸縮調整目地及び
ひび割れ誘発目地

位置
※標準仕様書10.5.3(2)による
石材の取付け
・図示による
石材の裏面の補強用モルタル
・適用する
・適用しない
目地
目地幅
・ mm (8mm以上)
シーリング材
・適用する（※標準仕様書9.7による
・図示による）
・適用しない
石材の厚さ
※40mm

(10.5.3)
(10.5.3)
(10.5.3)
(10.5.3)
(10.7.3)

・伸縮調整目地及び
ひび割れ誘発目地

位置
※標準仕様書 表11.1.1による
・図示による
寸法
※標準仕様書 9.7.3(1)による

(11.1.3)
(9.7.3)(11.1.3)

見本張り
・行う
○行わない
試験張り
・行う
○行わない

(11.1.4)

材料等

(11.2.2)

施工箇所	種類	形状寸法(mm)	吸水率による区分		うわぐすり		役物		色		耐凍害性		耐滑り性	備考
			I類	II類	III類	施す	無す	有り	無し	標準	特注	有り		
段鼻	床用	150×60	○	・	・	○	・	・	○	○	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

張付け用材料等

・現場調合モルタル
○概調合モルタル
施工
下地モルタル塗りのコンクリート素地面の下地処理方法
・目荒し工法（標準仕様書15.3.4(4)による）
・MCR工法（標準仕様書6.8による）

(11.2.3)
(11.2.6)

壁タイル張りの工法

内外装タイル
・密着張り
・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル
・マスク張り
・モザイクタイル張り

(表11.2.3)

材料等

(11.3.2)

施工箇所	種類	形状寸法(mm)	吸水率による区分		うわぐすり		役物		色		耐凍害性		耐滑り性	備考
			I類	II類	III類	施す	無す	有り	無し	標準	特注	有り		
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

接着剤のホルムアルデヒド放散量

※F☆☆☆☆
外装タイルにおける目地詰め
・行う
・行わない
目地のシーリング材
打継ぎ目地
※ポリウレタン系シーリング材
ひび割れ誘発目地
※ポリウレタン系シーリング材
伸縮調整目地
※変成シリコーン系シーリング材
その他の目地
※変成シリコーン系シーリング材

(11.3.3)
(11.3.3)(11.3.5)
(11.3.4)

施工

下地調整塗材塗りを行うコンクリート素地面の下地処理方法
・目荒し工法（標準仕様書15.3.4(4)による）
・MCR工法（標準仕様書6.8による）

(11.3.5)

工事年度

令和8年度
起立
起工 321号

発注部署

宗像市 都市管理部 建築課

図面番号

A-04

工事名

田熊雨水ポンプ整備工事（建築工事）

図面名

建築工事特記仕様書（4）

令和7年版

縮尺

NOSCALE

・表面仕上げ

(表12.2.1)

・施工一般

(表12.2.1)

・製材

(表12.2.1)(表12.2.2)

・造作用集成材

(表12.2.1)(表12.2.2)

・造作用単板積層材

(表12.2.1)(表12.2.2)

見え掛り面の仕上げる程度
※ブレーナー加工仕上げ
施工箇所（・図示による）
超自動機械かんな掛け仕上げ
施工箇所（・図示による）
サンダー掛け仕上げ
施工箇所（・図示による）

ホルムアルデヒド放散量
※標準仕様書JIS A 908(1)のいずれかによる

JAS 1083-5に基づく下地用製材

施工部位	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理
		※2級	※A種・B種	
		※2級	※A種・B種	

JAS 1083-6に基づく広葉樹製材

施工部位	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理
		※上小節	※A種・B種	
		※1等	※10%以下 ・A種・B種	
		※1等	※10%以下	

JAS 1083-7以外の製材

施工部位	寸法(mm)	材質の品質	含水率	防虫処理
		（ ） 造作材の場合 (※A種・B種)	※A種・B種	・行う ・行わない
		（ ） 造作材の場合 (※A種・B種)	※A種・B種	・行う ・行わない

JAS 1152に基づく造作用集成材

施工部位	品名	樹種名	寸法(mm)	見付け材面	見付け材面の品質
					※1等・2等
					※1等・2等

JAS 1152に基づく化粧ばり造作用集成材

施工部位	品名	樹種名	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面	見付け材面の品質
		化粧薄板: 芯材:				※1等・2等
		化粧薄板: 芯材:				※1等・2等

JAS 1152以外の造作用集成材

施工部位	樹種名	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率
				※15%以下
				※15%以下

JAS 1152以外の化粧ばり造作用集成材

施工部位	樹種名	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率
	化粧薄板: 芯材:				※15%以下
	化粧薄板: 芯材:				※15%以下

JAS 0701に基づく造作用単板積層材

施工部位	品名	寸法(mm)	表面の品質 (表面の化粧加工)	防虫処理
			・有り(加工: 天然木化粧加工 塗装加工) ・無し(等級: 1等・2等・3等)	・行う ・行わない

JAS 0701以外の造作用単板積層材

施工部位	寸法(mm)	表面の品質 (表面の化粧加工)	含水率	防虫処理
		・有り(加工: 天然木化粧加工 塗装加工) ・無し()	※14%以下	・を行う ・を行わない

合板等

接合具等

・ JAS 3079に基づく直交集成板(CLT)

施工部位	品名	強度等級 (曲げ性能)	種類	接着性能 (使用環境)	樹種名	寸法(mm)

・ JAS 0233に基づく普通合板

施工部位	品名	厚さ(mm)	接着の程度	板面の品質	防虫処理
		※5.5	※1類・2類	広葉樹 ※2等以上 針葉樹 ※C-D以上	・行う ・行わない

・ JAS 0233に基づく構造用合板

施工部位	品名	厚さ(mm)	等級	単板の樹種名	板面の品質	保存処理	防虫処理	強度等級
		※12	※2級以上 ・1級		・ ※C-D以上		・行う ・行わない	
		※12	※2級以上 ・1級		・		・行う ・行わない	

接着の程度 常時湿潤状態となる場所での使用
※特類
その他の場合
※1類以上

・ JAS 0233に基づく化粧ばり構造用合板

施工部位	品名	厚さ(mm)	単板の樹種名	防虫処理
				・行う ・行わない

接着の程度 常時湿潤状態となる場所での使用
※特類
その他の場合

・ JAS 0233に基づく天然木材化粧合板

施工部位	化粧ばりに使用する単板の樹種名	厚さ(mm)	接着の程度	防虫処理
			・1類・2類	・行う ・行わない

・ JAS 0233に基づく特殊加工化粧合板

施工部位	品名	厚さ(mm)	接着の程度	表面性能	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理
			・1類・2類			・オーバーレイ ・プリント ・塗装	・行う ・行わない

・ JIS A5908に基づくパーティクルボード

施工部位	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	厚さ(mm)
		※13タイプ	※耐水性I(Mタイプ)又は耐水性II(Pタイプ)	※15

・ JAS 0360に基づく構造用パネル

施工部位	品名	厚さ(mm)

JIS A5905に基づくミディアムデンシティファイバーボード(MDF)

施工部位	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分

造作材の化粧面の釘打ち
※隠し釘打ち ・釘頭埋め木 ・つぶし頭釘打ち ・釘顕現
諸金物の形状、寸法及び材質
※標準仕様書JIS A 908(2)の(7)による
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆
未れんが用接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆

不燃材料等の部材

内部間仕切り軸組及び床組

窓、出入口その他

床板張り

壁及び天井地下

長尺金属板葺き

折板葺き

木材への防腐・防蟻処理
・工場における薬剤の加圧注入処理による防腐・防蟻処理

適用部材	保持処理性能区分
	・K2 ・K3 ・K4
	・K2 ・K3 ・K4

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部材	薬剤の種類	処置の方法
	JIS K 1571に適合する表面処理用木材保水剤又は同等品	※薬剤の製造所の仕様による
	JIS K 1571附属書Aに基づく表面処理用木材保水剤(種類:)	※薬剤の製造所の仕様による

・薬剤の接着剤への混入による防腐・防蟻処理
適用部材:()

・合板等の加圧注入処理等による防腐・防蟻処理
適用部材:()

不燃材料、準不燃材料又は難燃材料
・不燃材料 (使用箇所:)
・準不燃材料 (使用箇所:)
・難燃材料 (使用箇所:)

間仕切軸組に用いる木材
・製材 ※杉又は松
・(材質:)

床組に用いる木材
・製材 ※杉又は松
・(材質:)

窓、出入口その他に用いる木材
・製材 吊元枠、水掛りの下枠及び敷居 ※ひのき
その他
・ ※松又は杉
・(材質:)

縁甲板及び上がりまちに用いる木材
・製材 ※ひのき
・(材質:)

壁及び天井地下に用いる木材
・製材 ※杉又は松
・(材質:)

土質工事

土工

基礎工

鉄鋼工事

材料
製法による区分
形状による区分
寸法による区分
産地
没物瓦の種類
雷止め瓦の使用

JIS A 5208に基づく凍害試験
瓦棟木 材質 ※杉
寸法 ※幅21×高さ15(mm)以上
補修強化心材 材質 ※杉
寸法 ※幅40×高さ30(mm)以上
瓦葺結用釘又はねじ 種類
長さ
補修等に使用する金物等 材質
ステンレス製
溶融亜鉛めっき処理

14

金属工事

・軽量鉄骨天井下地

材料

野縁等の種類

屋外 ※25形 ・19形

屋内 ※19形 ・25形

形状及び寸法

・屋外の場合

野縁受、つりボルト、インサートの間隔及び周辺部端からの距離

・図示による

野縁の間隔

・図示による

工法

・つりボルトの間隔が900mmを超える場合の補強方法

・図示による

・天井のふとところが3.0mを超える場合の補強方法

・図示による

・天井下地材における耐震性を考慮した補強

補強箇所、補強方法

・図示による

・屋外の軒、ピロティ等の天井における耐風圧性を考慮した補強

補強箇所、補強方法

・図示による

・軽量鉄骨壁下地

スタッド、ランナ等の種類

※標準仕様書 表14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類

・図示による

スタッドの高さが5.0mを超える場合

・図示による

出入口及びこれに準ずる開口部の補強

※標準仕様書14.5.4(5)による

・図示による

・金属成形板張り

種別

・図示による

表面処理

・図示による

取付け用下地

※標準仕様書14.4 による

・図示による

伸縮調整継手

・設ける（施工箇所

・図示による

・設けない

・アルミニウム製笠木

部材の種類

・250形 ・300形 ・350形

表面処理 種別（

）種

笠木の固定金具の工法等

建築基準法に基づく風圧力に対応した工法

・図示による

・ラス系下地

下地の種類

・通気構法（ ・二層下地 ・単層下地 ）

・直張り工法

（ ・ラスモルタル下地 ・ラスシートモルタル下地 ）

外張断熱工法で断熱材の外側に野縁を施工する形式の通気構法を行う場合

・図示による

材料

ラス材及び補強用ラス

材料記号（※K

）

種類及び単位面積当たりの質量

・二層下地通気構法

・波形ラス（W700） ・こぶラス（K800）

・力骨付きラス（BP700）

・単層下地通気構法

※リプラスC（RC800）に裏打ち材と一体化したラス

・

ラスシートの山高、山ピッチ、質量及び溶接ピッチによる区分

耐力壁以外

・LS1 ・LS2 ・LS3 ・LS4

耐力壁

※LS4

・

ステーブルの形状及び寸法

リプラス

※L925TS以上（リプラスC（RC800）の場合）

・

波形ラス

※L1019JS以上（波形ラス（W700）の場合）

・

施工

二層下地通気構法

換気口部の措置 ※講ずる

・講じない

直張り工法（ラスシートモルタル下地の場合）

建築基準法に基づく耐力壁として使用する場合のラスシートの施工

・図示による

・せっこうボード

その他のボード下地

材料

せっこうボード、せっこうラスボード及び木質系セメント板の種類及び厚さ

せっこうボード 種類（

） 厚さ（ mm）

せっこうラスボード 種類（

） 厚さ（ mm）

木質系セメント板 種類（

） 厚さ（ mm）

・こまい下地

建築基準法に基づく耐力壁の指定

・無し ・有り（

）

・木ずり下地

材料

木ずり用小幅板の材種 ※杉（心去り材）

○モルタル塗り

モルタル ・現場調合材料 ○既調合材料

（15.3.2）

規制目地材

・設ける

施工箇所（

）形状（ ・図示による

）

○設けない

床の目地

・設ける

目地割 ※2㎡程度（最大目地間隔3m程度）

種類 ※押し目地

○設けない

外装タイル張り下地等の下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験

・行う

・行わない

建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量

※F☆☆☆☆

（15.6.2）

材料

・薄付け仕上塗材

（表15.6.1）（その1）

呼び名	仕上げる形状	工法	吸放湿性	防火材料
・外装薄塗材Si	・砂壁状	・吹付け		・適用する
	・ゆず肌状	・ローラー塗り		・適用しない
・可とう形外装薄塗材Si	・砂壁状	・吹付け		・適用する
	・ゆず肌状	・ローラー塗り		・適用しない
・外装薄塗材E	・砂壁状	・吹付け		・適用する
	・ゆず肌状	・こて塗		・適用しない
	・平たん状	・ローラー塗り		
	・凹凸状	・さざ波状		
	・着色骨材砂壁状			
・可とう形外装薄塗材E	・砂壁状	・吹付け		・適用する
	・ゆず肌状	・こて塗		・適用しない
	・平たん状	・ローラー塗り		
	・凹凸状	・さざ波状		
・防水形外装薄塗材E	・ゆず肌状	・吹付け		・適用する
	・さざ波状	・ローラー塗り		・適用しない
	・凹凸状	・さざ波状		
	・外装薄塗材S	・砂壁状		・吹付け
				・適用しない
・内装薄塗材C	・凹凸状	・吹付け		・適用する
・内装薄塗材L	・平たん状	・こて塗		・適用しない
	・ゆず肌状	・ローラー塗り		
	・さざ波状	・さざ波状		
・内装薄塗材Si	・砂壁状じゅらく	・吹付け		・適用する
・内装薄塗材E	・ゆず肌状	・こて塗		・適用しない
	・平たん状	・ローラー塗り		
	・凹凸状	・さざ波状		
・内装薄塗材W	・京壁状じゅらく	・吹付け		・適用する
	・ゆず肌状	・こて塗り		・適用しない
	・平たん状			・適用する
	・凹凸状			・適用しない

・薄付け仕上塗材

呼び名	仕上げる形状	工法	吸放湿性	防火材料
・外装厚保塗材C	・吹放し	・吹付け		・適用する
	・凸部処理	・こて塗り		・適用しない
	・平たん状			
	・凹凸状			
・外装厚塗材Si	・吹放し	・吹付け		・適用する
・外装厚塗材E	・凸部処理	・こて塗り		・適用しない
	・平たん状	・ローラー塗り		
	・凹凸状	・ひき起こし		
・内装厚塗材C	・吹放し	・吹付け		・適用する
	・凸部処理	・こて塗り		・適用しない
	・平たん状			
	・凹凸状	・ひき起こし		
	・ひき起こし	・かき落とし		
・内装厚塗材L	・平たん状	・こて塗り		・適用する
	・凹凸状			・適用しない
	・ひき起こし			
・内装厚塗材G	・平たん状	・こて塗り		・適用する
	・凹凸状			・適用しない
	・ひき起こし			
	・かき落とし			
・内装厚塗材Si	・吹放し	・吹付け		・適用する
・内装厚塗材E	・凸部処理	・こて塗り		・適用しない
	・平たん状	・ローラー塗り		
	・凹凸状	・ひき起こし		

外装厚塗材Oにおける上塗材がセメントスタッコ以外の場合

（

）

外装厚塗材Si、外装厚塗材Eにおける上塗材の適用

・適用する

・適用しない

○外壁用塗膜防水材

種類等

：アクリルゴム系1成分形

製造所

：エスケー化研KK（レナエクセレントA＋弾性スーパーセラタイトF）同等以上

保証年数

：10年保証

その他

：施工仕様はメーカー仕様による。

16

建具工事

・複層仕上塗材

（表15.6.1）（その3）

呼び名	仕上げる形状	工法	吸放湿性	防火材料
・複層塗材OE	・凸部処理	・吹付け		・適用する
・複層塗材RE	・凹凸状	・ローラー塗り		・適用しない
・複層塗材Si	・かき落とし			
・複層塗材E	・ゆず肌状			
・可とう形複層塗材OE	・凸部処理	・吹付け		・適用する
	・凹凸状	・ローラー塗り		・適用しない
・防水形複層塗材OE	・凸部処理	・吹付け		・適用する
・防水形複層塗材RE	・凹凸状	・ローラー塗り		・適用しない
・防水形複層塗材E	・ゆず肌状			
・吹付け用軽量塗材	・砂壁状	・吹付け		・適用する
				・適用しない
・こて塗用軽量塗材	・平たん状	・こて塗り		・適用する
				・適用しない

複合仕上塗材の上塗材

（15.6.2）（表15.6.2）

樹脂

・アクリル系 ・シリカ系 ・ポリウレタン系

・アクリルシリコン系 ・ふっ素系

外観

・つや有り ・つや無し ・メタリック

溶媒

・溶剤系 ・弱溶剤系 ・水系

下地の種類

・標準仕様書15.10.1による場合以外の下地への適用

（

）

（15.10.1）

材料

既調合しっくい

色しっくい

・適用する

・適用しない

現場調合しっくい

調査及び塗厚

既調合しっくい ※標準仕様書15.10.3(1)による

（15.10.3）（表15.10.1～表15.10.4）

現場調合しっくい ※標準仕様書15.10.3(2)による

既調合しっくいの上塗り仕上げ工法

・押え仕上げ ・なで切り仕上げ ・パターン仕上げ

（15.10.4）（表15.10.5）

材料

土壁用ののりの種類 ※つのまた ・ふのり ・ぎんなんそう ・粉末海藻

砂壁用ののりの種類 ※ふのり ・つのまた ・こんにゃくのり ・にかわ

・合成高分子系混和剤

（15.11.2）

色土の種類

・土物仕上げ（

）

・大津仕上げ（

）

色砂の種類

・天然砂と岩石の砕砂

・人工的に着色・製造したもの

調査 下塗りの調査

※標準仕様書 表15.11.2による

（15.11.3）

塗厚 ※標準仕様書 表15.11.8による

・

（15.11.4）

建築基準法に基づく耐力力の指定がある場合

・図示による

工程 こまい壁 ※A種 ・B種

（15.11.5）（表15.11.9）

（15.11.7）

土物仕上げの工法

・土物仕上げ工法

・水こね土物1工法 ・水こね土物2工法

・のりさし土物工法 ・のりこね土物工法

・砂壁仕上げ工法

・切返し仕上げ工法

ちりじゃくり

・図示による

・

（15.11.8）

大津仕上げの工法

・普通大津仕上げ工法 ・大津みがき仕上げ工法

ちりじゃくり

・図示による

・

（15.12.2）

ロックウールのホルムアルデヒド放散量

※F☆☆☆☆

接着剤のホルムアルデヒド放散量

※F☆☆☆☆

仕上げ吹付け厚さ（mm）

・図示による

・

（15.12.3）

○防火戸

・建具表による

・防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸について、連動させる装置等

○建具表による

（16.1.3）

○見本の制作等

建具見本の製作

・行う（建具符号：

） ○行わない

（16.1.4）

特殊な建具の仮組

・行う（建具符号：

） ○行わない

（16.1.4）

・防犯建物部品

・適用する（適用箇所： ・建具表による

）

・適用しない

（16.1.6）

・アルミニウム製建具

性能値等（建具符号、枠の見込み寸法は建具表による）

耐風圧性等級、気密性等級、水密性等級

※外部に面する建具の種別は標準仕様書 表16.2.1、表16.2.2による

・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・E種

・建具表による

・図示による

・防音ドア、防音サッシ

遮音性の等級（

）

・断熱ドア、断熱サッシ

断熱性の等級（

）

（16.2.2）

表面処理

外部に面する建具

種別

・BB-1種 ・BB-2種

着色

・標準色 ・特注色

（表14.2.1）

（16.2.4）

屋内の建具

種別

・BC-1種 ・BC-2種

着色

・標準色 ・特注色

（表14.2.1）

15

左官工事

・ラス系下地

下地の種類

・通気構法（ ・二層下地 ・単層下地 ）

・直張り工法

（ ・ラスモルタル下地 ・ラスシートモルタル下地 ）

外張断熱工法で断熱材の外側に野縁を施工する形式の通気構法を行う場合

・図示による

材料

ラス材及び補強用ラス

材料記号（※K

）

種類及び単位面積当たりの質量

・二層下地通気構法

・波形ラス（W700） ・こぶラス（K800）

・力骨付きラス（BP700）

・単層下地通気構法

※リプラスC（RC800）に裏打ち材と一体化したラス

・

ラスシートの山高、山ピッチ、質量及び溶接ピッチによる区分

耐力壁以外

・LS1 ・LS2 ・LS3 ・LS4

耐力壁

※LS4

・

ステーブルの形状及び寸法

リプラス

※L925TS以上（リプラスC（RC800）の場合）

・

波形ラス

※L1019JS以上（波形ラス（W700）の場合）

・

施工

二層下地通気構法

換気口部の措置 ※講ずる

・講じない

直張り工法（ラスシートモルタル下地の場合）

建築基準法に基づく耐力壁として使用する場合のラスシートの施工

・図示による

・せっこうボード

その他のボード下地

材料

せっこうボード、せっこうラスボード及び木質系セメント板の種類及び厚さ

せっこうボード 種類（

） 厚さ（ mm）

せっこうラスボード 種類（

） 厚さ（ mm）

木質系セメント板 種類（

） 厚さ（ mm）

・こまい下地

建築基準法に基づく耐力壁の指定

・無し ・有り（

）

・木ずり下地

材料

木ずり用小幅板の材種 ※杉（心去り材）

○モルタル塗り

モルタル ・現場調合材料 ○既調合材料

（15.3.2）

規制目地材

・設ける

施工箇所（

）形状（ ・図示による

）

○設けない

床の目地

・設ける

目地割 ※2㎡程度（最大目地間隔3m程度）

種類 ※押し目地

○設けない

外装タイル張り下地等の下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験

・行う

・行わない

建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量

※F☆☆☆☆

（15.6.2）

材料

・薄付け仕上塗材

（表15.6.1）（その1）

呼び名	仕上げる形状	工法	吸放湿性	防火材料
・外装薄塗材Si	・砂壁状	・吹付け		・適用する
	・ゆず肌状	・ローラー塗り		・適用しない
・可とう形外装薄塗材Si	・砂壁状	・吹付け		・適用する
	・ゆず肌状	・ローラー塗り		・適用しない
・外装薄塗材E	・砂壁状	・吹付け		・適用する
	・ゆず肌状	・こて塗		・適用しない
	・平たん状	・ローラー塗り		
	・凹凸状	・さざ波状		
	・着色骨材砂壁状			
・可とう形外装薄塗材E	・砂壁状	・吹付け		・適用する
	・ゆず肌状	・こて塗		・適用しない
	・平たん状	・ローラー塗り		
	・凹凸状	・さざ波状		
・防水形外装薄塗材E	・ゆず肌状	・吹付け		・適用する
	・さざ波状	・ローラー塗り		・適用しない
	・凹凸状	・さざ波状		
	・外装薄塗材S	・砂壁状		・吹付け
				・適用しない
・内装薄塗材C	・凹凸状	・吹付け		・適用する
・内装薄塗材L	・平たん状	・こて塗		・適用しない
	・ゆず肌状	・ローラー塗り		
	・さざ波状	・さざ波状		
・内装薄塗材Si	・砂壁状じゅらく	・吹付け		・適用する
・内装薄塗材E	・ゆず肌状	・こて塗		・適用しない
	・平たん状	・ローラー塗り		
	・凹凸状	・さざ波状		
・内装薄塗材W	・京壁状じゅらく	・吹付け		・適用する
	・ゆず肌状	・こて塗り		・適用しない
	・平たん状			・適用する
	・凹凸状			・適用しない

・薄付け仕上塗材

呼び名	仕上げる形状	工法	吸放湿性	防火材料
・外装厚保塗材C	・吹放し	・吹付け		・適用する
	・凸部処理	・こて塗り		・適用しない
	・平たん状			
	・凹凸状			
・外装厚塗材Si	・吹放し	・吹付け		・適用する
・外装厚塗材E	・凸部処理	・こて塗り		・適用しない
	・平たん状	・ローラー塗り		
	・凹凸状	・ひき起こし		
・内装厚塗材C	・吹放し	・吹付け		・適用する
	・凸部処理	・こて塗り		・適用しない
	・平たん状			
	・凹凸状	・ひき起こし		
	・ひき起こし	・かき落とし		
・内装厚塗材L	・平たん状	・こて塗り		・適用する
	・凹凸状			・適用しない
	・ひき起こし			
・内装厚塗材G	・平たん状	・こて塗り		・適用する
	・凹凸状			・適用しない
	・ひき起こし			
	・かき落とし			
・内装厚塗材Si	・吹放し	・吹付け		・適用する
・内装厚塗材E	・凸部処理	・こて塗り		・適用しない
	・平たん状	・ローラー塗り		
	・凹凸状	・ひき起こし		

外装厚塗材Oにおける上塗材がセメントスタッコ以外の場合

（

）

外装厚塗材Si、外装厚塗材Eにおける上塗材の適用

・適用する

・適用しない

○外壁用塗膜防水材

種類等

：アクリルゴム系1成分形

製造所

：エスケー化研KK（レナエクセレントA＋弾性スーパーセラタイトF）同等以上

保証年数

：10年保証

その他

：施工仕様はメーカー仕様による。

○網戸等

・網戸等

・樹脂製建具

性能値等（建具符号、枠の見込み寸法は建具表による）

（16.3.2）

耐風圧性等級、気密性等級、水密性等級

※外部に面する建具の種別は標準仕様書 表16.3.1、表16.3.2による

・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・E種

・建具表による

・図示による

・防音ドア、防音サッシ

遮音性の等級（ ・T-1 ・T-2）

・断熱ドア、断熱サッシ

※外部に面する建具の断熱性の等級は標準仕様書 表16.3.3Iによる

・H-4 ・H-5 ・H-6 ・H-7 ・H-8

外部に面する建具

日射熱取得性の等級（

）

ガラス ※複層ガラス

・

（16.3.3）

ステンレス製くつずりの仕上げ

※HL

（16.3.4）（表16.2.4）

表面色

・標準色 ・特注色

（16.3.4）

水切り板、ぜん板

・図示による

（16.3.5）（表16.2.5）

木下地の内付け建具

・適用する（建具の製造所の仕様）

・適用しない

（16.3.5）（表16.2.5）

性能値等（建具符号は建具表による）

（16.4.2）

○外部に面する建具の耐風圧性

（表16.2.1）

○S-4 ・S-5 ・S-6

・簡易気密型ドアセット

・耐震ドア

面内変形追随性の等級（

）

・防音ドア、防音サッシ

遮音性の等級（

）

・断熱ドア、断熱サッシ

断熱性の等級（

）

（16.4.2）

ステンレス鋼板の種類

（16.4.3）（表16.6.3）

※SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1

点検口の類のくつずりの材料

・

（16.4.3）

鋼板類の厚さ（mm）

・

（16.4.4）

※標準仕様書 表16.4.2による

・

（16.4.4）

ステンレス製くつずりの仕上げ ※HL

・

（16.4.4）

標準型鋼製建具の有効内法寸法

・建具表による

（16.4.6）（表16.4.5）

性能値等（建具符号は建具表による）

（16.5.2）

・簡易気密型ドアセット

・耐震ドア

面内変形追随性の等級（

）

・防音ドア、防音サッシ

遮音性の等級（

）

・断熱ドア、断熱サッシ

断熱性の等級（

）

（16.5.2）

鋼板の種類

・亜鉛めっき鋼板 ・ビニル被覆鋼板 ・カラー鋼板

・ステンレス鋼板

（16.5.3）

ステンレス鋼板の種類

（16.5.3）（表16.6.3）

※SUS304、SUS430J1L 又はSUS443J1

召合せ、縦小口包み板の材質 ※鋼板

・

（16.5.3）

戸の心材

防音性能を求める場合の充填材

・グラスウール ・ロックウール

・図示による

（16.5.3）

鋼板の厚さ（mm） ※標準仕様書 表16.5.1による

・

（16.5.4）

ステンレス製くつずりの仕上げ

※HL

（16.5.4）（表16.2.4）

標準型鋼製軽量建具の有効内法寸法

・建具表による

（16.5.6）（表16.4.5）

性能値等（建具符号は建具表による）

（16.6.2）

・簡易気密型ドアセット

・外部に面する建具の耐風圧性

（表16.2.1）

・S-4 ・S-5 ・S-6

・耐震ドア

面内変形追随性の等級（

）

・防音ドア、防音サッシ

遮音性の等級（

）

・断熱ドア、断熱サッシ

断熱性の等級（

）

（16.6.2）

ステンレス鋼板の種類

（16.6.3）

※SUS304、SUS430J1L 又はSUS443J1

表面仕上げ ※HL

・

（16.6.4）

ステンレス製くつずりの仕上げ

※HL

・

（16.6.4）（表16.2.4）

ステンレス鋼板の曲げ加工

※普通曲げ ・角出し曲げ

（16.6.5）

令和8年 度 起 工 321号

田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）

宗像市 都市管理部 建築課

令和7年版

A-06

NOSCALE

	工事年度	発注部署		図面番号
	令和8年度 起工 321号	宗像市 都市管理部 建築課		A-08
		河 川 名		
	工事名	図面名		縮尺
	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）	建築工事特記仕様書（8）	令和7年版	NOSCALE

[illegible]

22舗装工事

・透水性アスファルト舗装

・ブロック系舗装

・砂利敷き

舗装の構成

・図示による

(22.7.2)

材料

(22.1.3)(22.7.3)

アスファルト

※再生アスファルト(・60～80

・80～100)

・ストレータアスファルト

(22.7.6)

試験

開粒度アスファルト混合物等の抽出試験

・行う

・行わない

(22.7.2)

舗装の平坦性

※著しい不陸がないもの

・

(22.8.2)(22.8.3)

・コンクリート平板舗装

種類

寸法(mm)

厚さ(mm)

目地材

・普通平板(N)

・300角

※60

・砂

・透水性平板(P)

・

・

・モルタル

・保水性平板(M)

クッション材

・砂

・空練モルタル

(22.8.2)

仕上がり面の平坦性

(22.8.2)

※コンクリート平板間の段差3mm以内

コンクリート平板の割付け

・図示による

(22.8.4)

・インターロッキングブロック舗装

種類

部位

形状、寸法

厚さ(mm)

曲げ強度(N/mm²)

色彩、表面加工等

※普通ブロック(N)

車路

・図示

※80

※5.0

・標準品

・透水性ブロック(P)

・

・

・

・

・保水性ブロック(M)

歩行者用通路

・図示

※60

※3.0

・

・

仕上がり面の平坦性

(22.8.2)

※インターロッキングブロック間の段差3mm以内

インターロッキングブロックの割付け

・図示による

(22.8.4)

・舗石舗装

種類

形状、寸法

厚さ(mm)

割付け

基層(mm)

・小舗石(花こう岩)

・図示

・

・図示

・

・アスファルト混合物(※50

・)

・コンクリート版(※70

・)

・

クッション材

・砂

・空練モルタル

(22.8.2)

仕上がり面の平坦性

(22.8.2)

※舗石間の段差3mm以内

舗石の割付け

・図示による

(22.8.4)

種別

(22.9.2)(表22.9.1)

通路

※A種

・図示による

建築物周囲その他

※B種

・図示による

(

)

23植栽及び屋上緑化工事

・植栽地の確認等

・植栽基盤の整備

・植込み用土

・土壌改良材

・樹木

・支柱

・幹巻き用材料

・芝

・吹付けは種

・地被類

・新植、移植樹木、芝等の枯保証

・屋上緑化

土壌の水素イオン濃度指数(pH)試験

(23.1.1)

・行う

・行わない

電気伝導度(EC)の試験

(23.1.3)

・行う

・行わない

整備内容

(23.2.2)(表23.2.1)(表23.2.2)

植栽

工法

有効土層の厚さ(cm)

整備範囲(面積)

土壌改良材

・樹木

※A種

樹高12m以上

・葉張り部分

・適用する

・B種

(※100

・120

・150)

・植栽部分

・適用しない

・C種

樹高7m以上～12m未満

(※80

・100)

・図示による

・

・D種

樹高3m以上～7m未満

(※60

・80)

・

・

樹高3m未満

(※50

・60)

※芝、地被類

※B種

※20

・

・植栽部分

・適用する

・図示による

・適用しない

・

植栽基盤の排水設備

(23.2.2)

(暗きよ、開きよ、排水層縦穴排水等)

・設ける(・図示による

・)

・設けない

・現場発生土の良質土

・客土

(23.2.3)

種類、指定量

(23.2.3)(23.2.4)

・バーク堆肥

施工箇所

・植栽範囲

・図示による

指定量

植栽基盤面積1m²当たり(・

・

・)

・汚泥発酵肥料(下水汚泥コンポスト)

施工箇所

・植栽範囲

・図示による

指定量

植栽基盤面積1m²当たり(・

・

・)

樹種、寸法、株立数

・図示による

・

(23.3.2)

刈込みものの適用

・適用する(数量:

・)

・適用しない

支柱材の種類

(23.3.2)

※丸太(間伐材)

・真竹

・

防腐処理方法

※加圧式防腐処理丸太材

形式

・添え柱形

・鳥居形

・ハツ掛け形

(23.3.3)

・布掛け形

・ワイヤ掛け形

・地下埋設形

材料

※幹巻き用テープ

・わら

・こも

(23.3.2)

種類

(23.4.2)

※コウライシバ

・ノシバ

芝張りの工法

(23.4.3)

平地

※目地張り

・べた張り

法面

※目地張り

・べた張り

種類等

(23.4.2)

種子の種類

種子の量(g/m²)

備考

※洋芝類

・

・

・

種類等

(23.4.2)

植物の種類

芽立数

径

単位面積当たりの株数

・

・

・

・

・

・

・

・

新植樹木の枯損償の期間

(23.3.4)(23.4.7)

(芝張り、吹付けは種及び地被類を含む)

※引渡しの日から1年

・

・無し

移植樹木の枯損処置を行う期間

(23.3.6)

※引渡しの日から1年

・

・無し

植栽基盤及び材料

(23.5.2)(23.5.3)

・屋上緑化システム

土壌層の厚さ

・図示による

排水層

・軽量骨材(層の厚さ:

・)

・透水排水管

・板状成形品

植込み用土

※改良土

・人工軽量土

・屋上緑化軽量システム

樹木、芝及び地被類

(23.5.3)

樹種、寸法、株立数

・図示による

・

刈込みものの適用

・適用する(数量:

・)

・適用しない

見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等

(23.5.3)

・図示による

・

工法

(23.5.4)

建築基準法に基づく風圧力に対応した工法

・図示による

支柱

(23.5.4)

・設置する(形式

・図示による

・)

かん水装置

(23.5.4)

・設置する(種類

・図示による

・)

工事年度

令和8年度起工

発注部署

宗像市都市管理部 建築課

河川名

河川名

工事名

田熊雨水ポンプ場整備工事(建築工事)

図面名

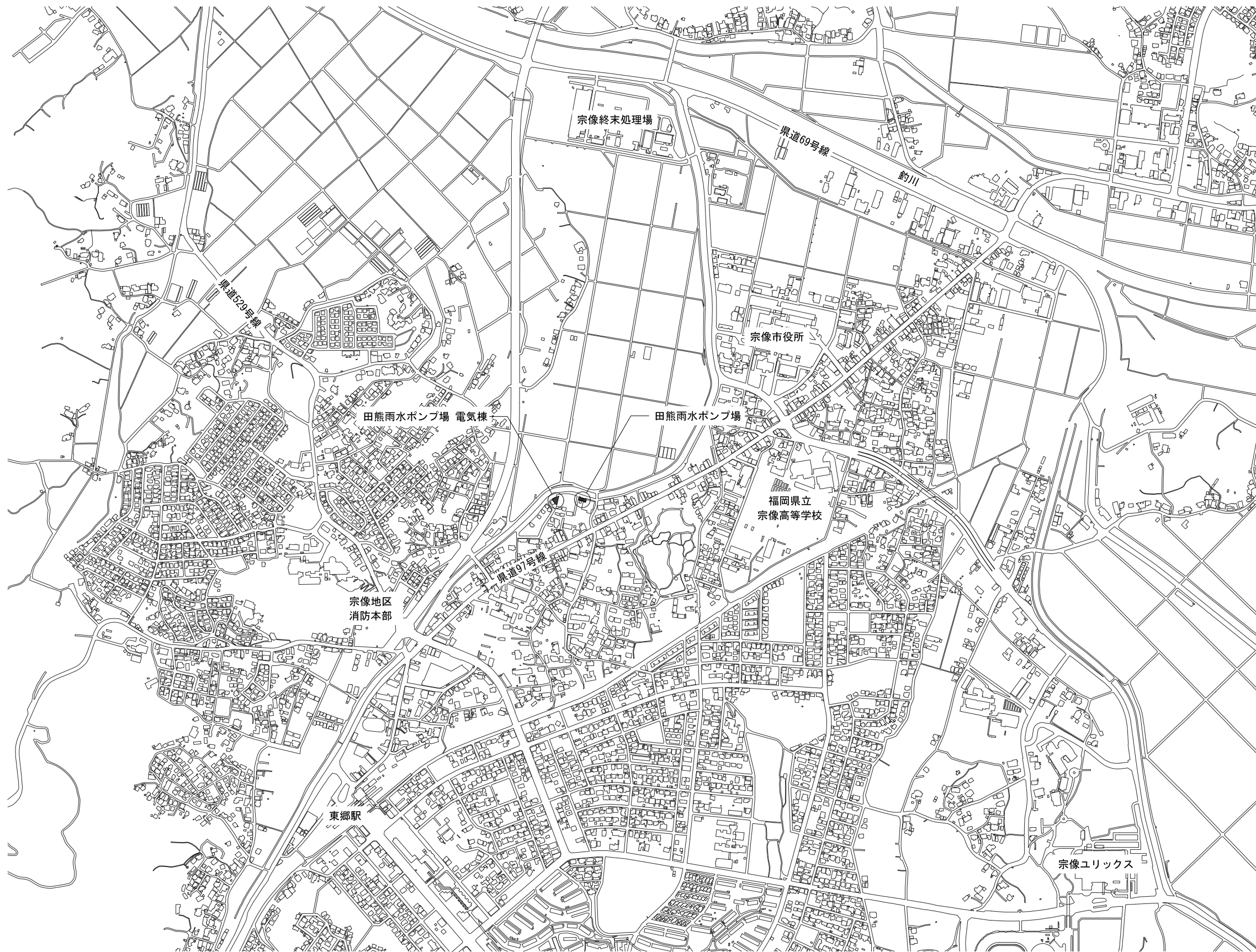
建築工事特記仕様書(10)

縮尺

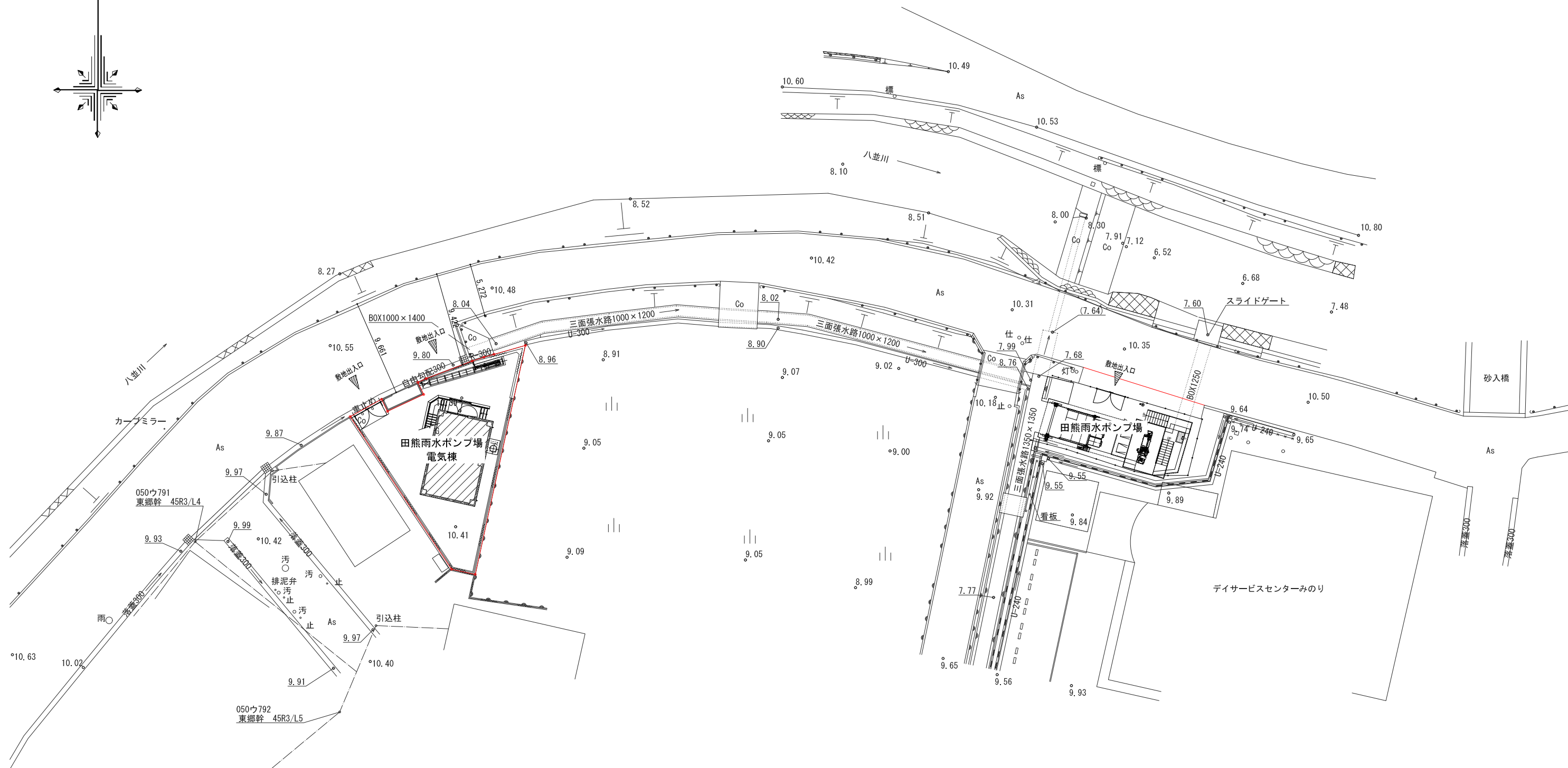
NOSCALE

図面番号

A-10



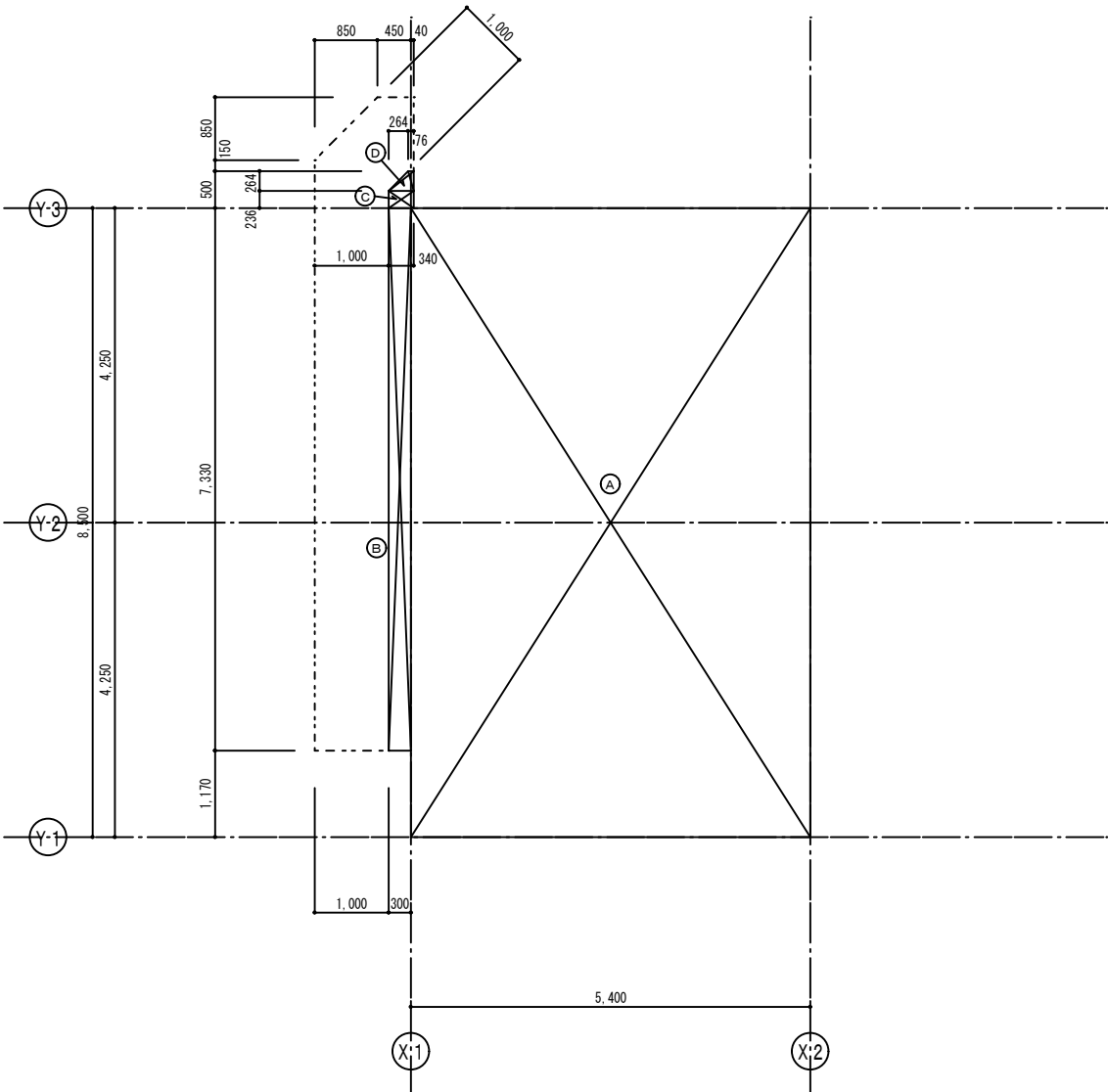
福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	（平成28年）	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	位置図		
縮 尺	NOSCALE	図面番号	A-11



福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	概 算 額 災害査定	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	全体配置図		
縮 尺	(A1) S=1:200 (A3) S=1:400	図面番号	A-12

工事区分一覧表（工事区分の記載事項については区分が不明確になる恐れのあるものについて記入する。）

No.	項 目	場 所	本工事						備 考	記載項目例
			建築工事 ※A工事	建築機械 設備工事 ※AM工事	建築電気 設備工事 ※AE工事	土木工事	プラント機械 設備工事 ※PM工事	プラント電気 設備工事 ※PE工事		
1	土工事 埋戻し 盛土		○							・躯体 ・ポーチ
2	地業工事 砕石、砂利 捨てコンクリート		○							・捨コン ・客土
3	躯体		○							・砂利地業 ・足洗場
4	スリーブ・箱抜		○							・止水板 ・スロープ
5	仕上	内外装特記なき限り	○						仕上表工事区分参照	・スリーブ ・床流し
6	フリーアクセスフロア	電気室						○	床仕上、巾木共	・箱抜 ・花壇
7	無筋コンクリート	ハンドホール	○						床仕上共	・仕上 ・流し台
8	側溝	外部階段	○						側溝内モルタル共	・取合差筋 ・コンロ台
9	鑄鉄製マンホール蓋	ハンドホール	○						受枠共	・マンホール蓋 ・水切棚
10	ステンレス製タラップ	ハンドホール	○							・ハンドホール ・吊戸棚
11	ノンスリップタイル	出入り口床（段鼻）	○							・タラップ ・浴槽
12	ステンレス製手摺	外部階段	○							・ホイストレール ・スノコ
13	アルミ製取外し式手摺	外部出入口	○							・受枠及蓋 ・バランス釜
14	電気盤等基礎	電気室						○		・ドレーン ・防火バン
15	発電機・油庫基礎	屋上	○							・樋 ・安全水槽
16	ルーフドレイン	屋上	○							・換気扇取付枠 ・フード
17	たてどい	外部	○						GL+100まで	・床排水目皿 ・配管トラフ
18	雨水樹	外部	○						別途場内整備工事	・連通管 ・配管ビット
19										・トップライト
20										・ルーフファン
21										・防液堤
22										・床無筋コンクリート
23										・床仕上
24										・機械基礎及差筋
25										・階段室及び段ウラ
26										・側溝
27										・グレーチング
28										・手摺
29										・雨水樹
30										・笠木
31										・ノンスリップ
32										・地下貯油槽外殻

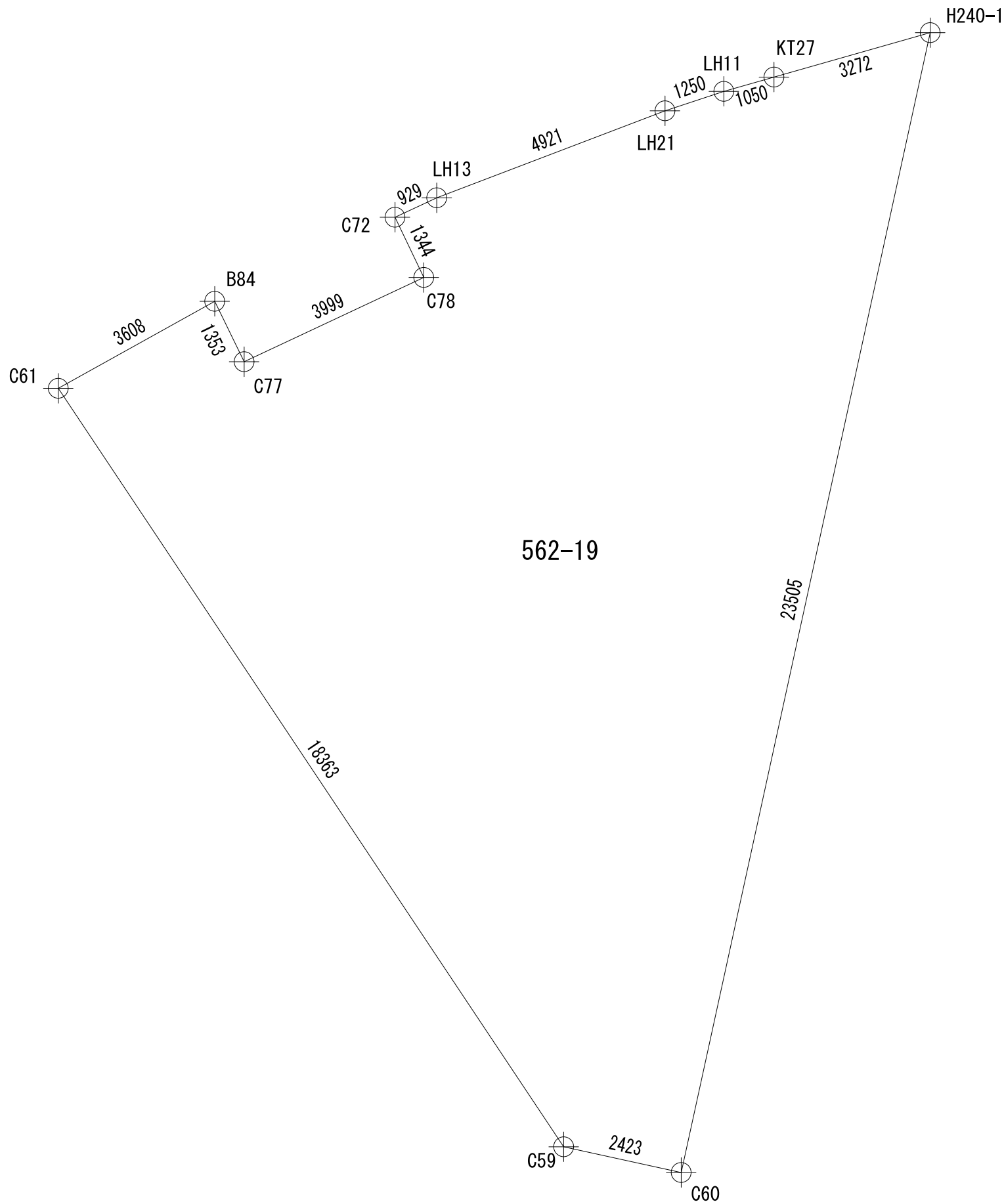
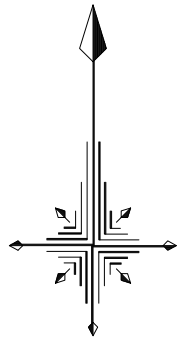


求積図

1階床面積	
A	5.400×8.500=45.900
計	45.90㎡
庇等面積	
B	0.300×7.330=2.199
C	0.340×0.236=0.080
D	(0.340+0.076)×0.264÷2=0.054
計	2.33㎡
延床面積	
1階床面積	=45.90㎡
建築面積	
1階床面積+庇等面積	=48.23㎡

面積表	
	1階
各階床面積	(㎡) 45.90
延床面積	(㎡) 45.90
建築面積	(㎡) 48.23

福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	起工	321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工事箇所	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河川名			
図面の名称	工事区分一覧表・求積図		
縮尺	(A1)S=1:50 (A3)S=1:100	図面番号	A-13



所在	宗像市 田熊一丁目			
地番	562-19			
測点	Xn	Yn	(Xn+1 - Xn-1)*Yn	距離
H240-1	89004.771	-43114.881	951502.3088	23.504
C60	88981.808	-43119.898	967782.9907	2.423
C59	88982.327	-43122.265	-681288.6647	18.362
C61	88997.607	-43132.449	-734675.0038	3.607
B84	88999.360	-43129.296	-23117.30266	1.353
C77	88998.143	-43128.704	-20701.77792	3.998
C78	88999.840	-43125.083	-125450.8664	1.344
C72	89001.052	-43125.665	-69173.56666	0.928
HLH12	89001.444	-43124.823	-92502.74534	4.920
LH12	89003.197	-43120.225	-92536.00285	1.250
LH11	89003.590	-43119.038	-29320.94584	1.049
KT27	89003.877	-43118.028	-50922.39107	3.271
倍面積			-403.967827	
面積			201.9839135	
地積			201.98㎡	

福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	（仮起工） 災害定	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工事名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河川名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	敷地面積求積図		
縮尺	(A1) S=1:50 (A3) S=1:100	図面番号	A-14

建 築 概 要	
建 物 名	田熊雨水ポンプ場 電気棟
敷 地 面 積	2 0 1 . 9 8 m2
構 造・規 模	鉄筋コンクリート造・地上1階
建 築 面 積	4 8 . 2 3 m2
延 べ 面 積	4 5 . 9 0 m2
軒 高 さ	5 . 5 0 0 m
最高の高さ	6 . 2 0 0 m

地 域 ・ 地 区					
審査項目			法令条項		該当事項
			法	令	
都市計画法	都市計画区域・準都市計画		5 5-2		都市計画区域内
	区域区分		7		市街化区域
	地区計画		8		景観計画区域（景観形成一般区域）、屋外広告物地域（普通地域）、住居誘導区域
建築基準法	敷地等と道路の関係		43		接道義務あり
	用途地域		48		第 1 種住居地域
	容積率		52		2 0 0 %
	建ぺい率		53		6 0 %
	高さ制限	斜線制限	56		道路斜線（ $\angle 1.25L$ ）、隣地斜線（立上り20m+ $\angle 1.25L$ ）、北側斜線 適用無し
		日影規制	56の2		5m<A≤10m：5時間、10m<A：3時間（対象施設：建物高さ 10m以上）
	防火・準防火地域内の建築物		61		防火・準防火地域指定なし（22条区域内）

建 築 基 準 法 （ 令 ）					
審査項目		法令条項		チェック	判定
		法	令		
防火・準耐火構造等	地域・規模による構造制限	61	136の2	防火地域 ― 階数（ ） 延べ面積（ m ² ） 構 造（ ） [階数3以上又は延べ面積1 0 0 m ² を超えるもの 耐火] [階数2以下かつ延べ床面積1 0 0 m ² 以下のもの 耐火又は準耐火] 準防火地域 ― 階数（ ） 延べ面積（ m ² ） 構 造（ ） [地上4以上又は延べ面積1, 5 0 0 m ² を超えるもの 耐火] [地上3で延べ床面積1, 5 0 0 m ² 以下のもの又は地上2以下かつ延べ床面積5 0 0 m ² を超え、1, 5 0 0 m ² 以下のもの 耐火又は準耐火]	――
	屋根の構造	22 62	109の8 136の2の2	構 造（ 耐火 ） 屋根材（ 不燃 ） ⊙ 法第22条の区域 [H 1 2 建告第1361号] ・ 法第62条の区域 [H 1 2 建告第1365号] ・ 区域外	○
居室の採光・換気等	居室の採光及び換気	28	20	[別表の計算書による]	――
	換気設備の技術的基準	28	20の2 20の3	居室の換気のための窓その他開口部 [別表の計算書による] 換気方法（ ） 火を使用する室の有無 ・ 有 ― 室名（ ） 、換気方法（ ） ⊙ 無	該当なし
	換気設備（自然換気）	28	20の2 129の2の5	給気口高さ（ m） / 天井高さ（ m） ≤ 1 / 2 排気口高さ（ m） > 給気口高さ（ m）	――
	窓その他開口部を有しない居室等	35	116の2	採光（無窓）居室 ・ 有（室名： ） ・ 無 排煙（無窓）居室 ・ 有（室名： ） ・ 無	――
	無窓居室の主要構造部	35の3	111	構 造（ ） [耐火構造又は不燃材料]	――
階段・廊下	2以上の直通階段（5階以下の階の場合）	35	117 121	居室の床面積 避難階の直上階（ m ² ） > 2 0 0 m ² （準耐火構造又は不燃材料でつくられた建築物の場合 は4 0 0 m ² ） その他の階（ m ² ） > 1 0 0 m ² （準耐火構造又は不燃材料でつくられた建築物の場合は2 0 0 m ² ） ・ 有（直通階段2以上） ⊙ 無	該当なし
	避難階段の設置及び特別避難階段	35	122	地上（ 1 ）階、 地下（ ）階 ・ 避難階段 又は特別避難階段[5階以上、地下2階以下] ・ 特別避難階段 [15階以上、地下3階以下] ⊙ 該当せず（ ）	該当なし

建 築 基 準 法 （ 令 ）					
審査項目		法令条項		チェック	判定
		法	令		
階段・廊下	直通階段・歩行距離	35	117 120 121	【主要構造部が準耐火構造又は、不燃材料で作られている場合】 採光無窓居室：歩行距離（ m） ≤ 3 0 m・（4 0 m：廊下・階段・その他通路の壁及び天井の仕上げを準不燃材料以上） その他の居室：歩行距離（ m） ≤ 5 0 m・（6 0 m：廊下・階段・その他通路の壁及び天井の仕上げを準不燃材料以上） 【2以上の直通階段を設ける場合】 重複距離（ m） ≤ 当該歩行距離の2分の1	—
	階段・踊場の幅 けあげ・踏み面寸法	36	23	直上階居室の合計（ m ² ） > 2 0 0 m ² 地階又は地下工作物の居室の合計（ m ² ） > 1 0 0 m ² ・ 階段幅（ cm） ≥ 1 2 0 cm、 踊場の幅（ cm） ≥ 1 2 0 cm、 けあげ（ cm） ≤ 2 0 cm、 踏面（ cm） ≥ 2 4 cm 上 記 外 ⊙ 階段幅（ 1 0 0 cm） ≥ 7 5 cm、 踊場の幅（ 1 2 0 cm） ≥ 7 5 cm けあげ（ 1 8 cm） ≤ 2 2 cm、 踏面（ 2 5 cm） ≥ 2 1 cm	○
	踊場の位置及び 直通階段の踏幅	36	24	階高（ 4 . 4 m） ・ 4 mまで ⊙ 階高（ 4 . 4 m） ≥ 4 m、 踊場（ 1 ）カ所、踏幅（120 cm） ≥ 1 2 0 cm	○
	階段及び踊場の 手すり等	36	25	階段の幅 ： （ 1 . 2 m） > 3 . 0 m、高さ（ 5 . 5 m） > 1 . 0 m 一般手すり 両側設置 ・ 有 ⊙ 無 中間手すり（幅 > 3 m、ただし高さ1 m以下の階段の部分には適用しない） ・ 設置 ・ 不要 [けあげ：（ cm） ≤ 1 5 cm、踏面：（ cm） ≥ 3 0 cm]	○
	階段に代わる傾斜路	36	26	勾 配（ / ） ≤ 1 / 8 表面仕上材（ ）	—
	廊下幅	35	117 119	その階の床面積の合計（ m ² ） ≥ 2 0 0 m ² （地階の場合、1 0 0 m ² ） 両側居室（ m） ≥ 1 . 6 m 、片側居室（ m） ≥ 1 . 2 m	—
	屋外階段	35	23 121の2	直通階段の幅（ 1 0 0 cm） ≥ 9 0 cm、その他の階段（ cm） ≥ 6 0 cm 直通階段の構造（ RC造 ） [木造以外]	○
	屋上広場・バルコニー 等の手摺	35	117 126	高さ（ m） ≥ 1 . 1 m	—
防火区画・防火戸	面積区画	36	112-1 112-4 112-5	⊙ 耐火建築物 [別表の計算書による・すべて1, 5 0 0 m ² 以内] ・ 外壁耐火 [別表の計算書による・すべて5 0 0 m ² 以内] ・ 不燃構造 [別表の計算書による・すべて1, 0 0 0 m ² 以内]	○
	壁穴区画	36	112-11	居室を有する階数（地上 ） ≥ 3、（地下 ） [吹抜き、階段、昇降機の昇降路、ダクトスペース、その他]	—
	防火区画に接する 部分の構造等	36	112-16 112-17 112-19	9 0 cm以内の壁面等の構造（ 耐火 ） [準耐火構造・H 1 2 建告第1 3 5 8号] 5 0 cm以上突き出した庇、床、袖壁等の構造（ ） 防火戸面積（ m ² ≤ 3 m ² ） ・ 常時閉鎖式 ・ 随時閉鎖式 [防火設備等の構造：S 4 8 建告第2 5 6 3号] [遮煙性能を有する防火設備等の構造：S 4 8 建告第2 5 6 4号] [特定防火設備の構造：H 1 2 建告第1 3 6 9号]	○
	防火区画を貫通する 配管の隙間等の処理	36	112-20	防火区画を貫通する配管と防火区画との隙間（使用材料： ） 防火区画を貫通する配管の構造 ・ 貫通部分から1 m以内の部分の構造（ ） ・ 大臣認定（名称： 、認定番号： ） [貫通する給水管、配電管その他の管の外径：H 1 2 建告第1 4 2 2号]	—
	防火区画を貫通する ダンパーの構造等	36	112-21	A M No.（ 図）による [防火設備の構造：S 4 8 建告第2 5 6 5号] [風道に防火設備を設ける方法：H 1 2 建告第1 3 7 6号]	—
	防火戸その他の 防火設備	2-9の2 2-9の3	109 109の2	延焼のおそれのある部分 ・ 有 [建具表による] ⊙ 無	該当なし

審査項目	法令条項		チェック	判定
	法	令		
排煙	排煙設備の設置	35	126の2	・ 要 ・ 階数3以上で延べ床面積5 0 0 m ² を超える防煙壁による1 0 0 m ² ごとの区画 ・ 有（室名： ） ・ 無 ・ 排煙無窓居室 ・ 延べ床面積1, 0 0 0 m ² 超の建築物で床面積2 0 0 m ² を超の居室（室名： ） ⊙ 不要（ ）

福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	（ <u>通知</u> ）	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	法検討表 1		
縮 尺	NOSCALE	図面番号	A-15

建 築 基 準 法 （令）					
審査項目		法令条項		チェック	判定
		法	令		
排煙	排煙設備の構造	35	126の3	各部分から排煙口までの水平距離（ m ） $\leq 3.0\text{m}$ ・ 手動開放装置の床面からの高さ 壁付 $1.5\text{m} \geq (\text{m}) \geq 0.8\text{m}$ ・ 手動開放装置のうち、手で操作する部分は、天井吊下げ（m）$\leq$ 床面からおおむね 1.8m ・ 防煙区画（m^2）$\leq$ 床面積 500m^2 排煙口面積〔別表計算書による〕 ・ 全て自然排煙 ・ 一部機械排煙〔S45建告第1829号〕	—
	非常照明の設置	35	126の4	・ 設置 ・ 階数が3以上で延べ面積 500m^2 を超える建築物の居室 ・ 延べ面積 $1,000\text{m}^2$ を超える建築物の居室及びこれらの居室から地上に通ずる廊下、階段、その他通路並びにこれらに類する建築物の部分で照明装置の設置を通常要する部分 ・ 採光無窓居室 ○ 不要（m^2）	不要
	非常照明の構造	35	126の5	設置を要する部分（ Lx ）〔S45建告第1830号〕 ・ （電灯の種類：Lx）$\geq 1\text{Lx}$（蛍光灯、LED 2Lx） ・ 予備電源（30分間継続点灯）	—
非常用進入口	非常用進入口の設置	35	126の6	階数（ 1 ） ・ 設置の階〔≥ 3階〕 ・ 代用進入口の間隔（m）$\leq 1.0\text{m}$ ・ 非常用進入口の間隔（m）$\leq 4.0\text{m}$ ○ 不要	不要
	非常用進入口の構造	35	126の7	代用進入口の幅、高さ、大きさ、及び開閉方法 ・ （幅 $\text{cm} \geq 75\text{cm}$、高さ $\text{m} \geq 1.2\text{m}$、大きさ $\text{m} \geq$ 直径 1.0m の円が内接） ・ 開閉方法（引違い・片開き・嵌殺し） ・ ガラスの種類・厚さ（mm） 非常用進入口の幅、高さ、及び下端の床面からの高さ〔S45建告第1831号〕 ・ （幅 $\text{cm} \geq 75\text{cm}$、高さ $\text{m} \geq 1.2\text{m}$、床面からの高さ $\text{cm} \leq 80\text{cm}$） ・ バルコニー（奥行き：$\text{m} \geq 1.0\text{m}$、長さ：$\text{m} \geq 4.0\text{m}$） ・ ガラスの種類・厚さ（$\text{mm}$）	—
敷地内通路	敷地内通路	35	128	○ 該当する ・ 道又は公園、広場その他の区内に通ずる道の幅員（$9.0\text{m} \geq 1.5\text{m}$） ・ 該当しない	○
内装制限	制限を受ける特殊建築物等	35の2	128の4	・ 該当する ・ 自動車車庫 ・ 階数が3以上で、延べ面積 500m^2 を超える建築物 ・ 階数が2で延べ面積 $1,000\text{m}^2$ を超える建築物 ・ 階数が1で延べ面積 $3,000\text{m}^2$ を超える建築物 ・ 火を使用する調理室等 ○ 該当しない（m^2）	該当なし
	特殊建築物等の内装	35の2	128の5	・ 該当する〔H12建告第1439号・H21国交告第225号〕 ・ 地上に通ずる主たる通路の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げを準不燃材料 ・ 居室及び廊下・階段・その他の通路の壁及び天井の室内に面する部分の仕上げは準不燃材料 ○ 該当しない	該当なし
その他	避雷設備	33	129の14	・ 設置 ・ 最高の高さ（m）$> 20\text{m}$ ・ 指定数量の10倍以上の危険物の製造所・貯蔵庫 *消防法（危険物の規制に関する政令；第9条第1項第十九号、第10条第1項第十四号） ○ 不要	不要
	石綿その他の物質の飛散、又は発散に対する衛生上の措置	28の2	20の4～20の8	化学物質を発散する建築材料を使用する居室〔H14国交告第1112、1113、1114、1115、H15国交告第273、274〕 ・ 有 室名（m^3） 換気方式（m^3/h） ○ 無	該当なし
	特定天井及び特定天井の構造	20	39-3	・ 該当する〔H25国交告第771号〕 ・ 居室、廊下その他の人が日常立ち入る場所に設けられている ・ 天井高さ（m）$> 6\text{m}$かつ、その水平投影面積（m^2）$> 200\text{m}^2$ ・ 天井面構成部材等の質量（kg/m^2）$> 2\text{kg}/\text{m}^2$ ・ 腐食、腐朽、その他の劣化の措置方法 室名（m^2） ○ 該当しない	該当なし

消 防 法 （令）					
審査項目		法令条項		チェック	判定
		法	令		
消火設備	消火器具	17	10	延べ面積（ 45.90m^2 ） 地階・無窓階又は3階以上の階の床面積 室名（ m^2 ） ・ 設置〔延べ面積 300m^2 以上又は地階等の部分で床面積 50m^2 以上〕 ○ 不要	○
				宗像地区事務組合火災予防条例 第6条4項 配電盤等の電気設備が設置されている室 室用途（ 1 階 電気室） 室面積（ 45.90m^2 ） ○ 設置〔100m^2 以下ごとに1個の設置〕 - 必要設置個数（1 個） ・ 不要	
	屋内消火栓設備	17	11	延べ面積（ 45.90m^2 ） 構造（耐火） 地階・無窓階・4階以上の階の床面積 室名（ m^2 ） ・ 設置〔耐火構造で延べ面積 $3,000\text{m}^2$ 以上又は地階等の部分で床面積 600m^2 以上〕（主要構造部を耐火構造とし、かつ、壁・天井の仕上げを難燃材料） ○ 不要	不要
	水噴霧消火設備等	17	13～18	発電機室・電気室・ボイラー室等の床面積 室名（電気室） 面積（ 45.90m^2 ） ・ 設置〔発電機室等の部分で床面積 200m^2 以上〕 ・ 緩和申請する（スプリンクラー設備を設置） ○ 不要	不要
	屋外消火栓設備	17	19	地上階の1階又は、1及び2階の部分の床面積の合計（ 45.90m^2 ）、耐火建築物等（耐火）建築物相互の外壁間の中心線からの水平距離が1階にあっては 3m 以下、2階にあっては 5m 以下の部分を有するものは1の建築物とみなす ・ 設置〔耐火建築物で床面積 $9,000\text{m}^2$ 以上〕 ○ 不要	不要
警報設備	自動火災報知器設備	17	21	延べ面積（ 45.90m^2 ） 地階・無窓階・3階以上の階の床面積 室名（ m^2 ） ・ 設置〔延べ面積 $1,000\text{m}^2$ 以上又は地階等の部分で床面積 300m^2 以上〕 ○ 不要	不要
	非常警報設備	17	24	地階の階数（ m^2 ） ・ 設置〔地下の階数3以上〕 ・ 不要	—
避難設備	誘導灯・誘導標識	17	26	〔避難口誘導灯・通路誘導灯〕 地 階 ・ 有 ○ 無 無窓階 ○ 有 ・ 無 ○ 設置 ・ 不要 〔誘導標識〕 ・ 設置 ○ 不要〔誘導灯の有効範囲内〕	○
その他	消防用水	17	27	敷地面積（ 209.01m^2 ） 床面積（ 45.90m^2 ） 耐火建築物等（耐火）建築物相互の外壁間の中心線からの水平距離が1階にあっては 3m 以下、2階にあっては 5m 以下である部分を有するもので、かつ、これらの建築物の床面積を耐火建築物（準耐火建築物、その他）にあっては $15,000\text{m}^2$ （ $10,000\text{m}^2 + 5,000\text{m}^2$ ）でそれぞれ除した商の和が1以上となるものは1の建築物とみなす ・ 設置〔敷地面積が $20,000\text{m}^2$ 以上かつ、耐火建築物で床面積が $15,000\text{m}^2$ 以上〕 ○ 不要	不要
	連結散水設備	17	28の2	地階の床面積合計（ m^2 ） ・ 設置〔地階の床面積の合計 700m^2 以上〕 ・ 不要	
	無窓階		規則5-2	避難上消火活動上有効な開口部〔別表の計算書による〕 ・ 各階共床面積の $1/30$ 以上有り ○ 床面積の $1/30$ 未満の階有り（1 階）	○
	緩和適用条項		32	・ 屋内消火栓設備 ・ 水噴霧消火栓設備等 ・ 屋外消火栓設備 ・ 消防用水 ・ 連結散水設備 ・ 自動火災警報装置	—

審査項目		法令条項		チェック	判定
		法	令		
危険物	危険物の貯蔵・取扱い制限等	10		軽油・重油・潤滑油等の使用量及び保管場所	○
	（危険物の規制に関する政令）			○ 少量危険物 ・ 一般取扱所 室 名（屋上） ・ 貯 蔵 所 - 危険物の量（軽油 980L） - 構造及び仕上（鋼製油庫）	○

福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	（仮起工）	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	法検討表 2		
縮 尺	NOSCALE	図面番号	A-16

関 係 法 令 等				
審査項目		法令条項		該当事項
		法	令	
建築物省エネ 法	新築 / 増改築	19 2-2	9、10	適合性判定
				・ 有 建築物全体の規模 床面積 (45.90 m ²) ≤ 3 0 0 m ²
				○ 無
				地方公共団体の条例
				・ 有 () ○ 無
下水道法、都市計画法、建設リサイクル法、宅地造成等規制法、自然公園法、都市公園法、都市緑地法、景観法、バリアフリー法、騒音規制法、振動規制法、農地法、各種保全地域、関係条例、その他				騒音、振動指定市域 騒音（第2種区域 昼間：60dB 朝夕：50dB 夜間：50dB） 振動（第2種区域 昼間：60dB 夜間：55dB）

そ の 他 確 認 事 項	
項 目	該当事項
防火対象物	防火対象物 第 1 5 項
管廊・別棟との接続	
ポンベハウス等の構造	
条例等による制限の附加の有無	

有窓・無窓・判定表 (消防法施行規則 5の2の1、5の2の2)

階	有効開口部計算式	有効開口部 面積合計㎡	必要開口 (A / 3 0)	階床面積 (A ㎡)	判定 無・有
1F	なし	0.00㎡	1.53㎡	45.90㎡	○無 有

法 検 討 表																
階	番号	室名	計算対象			対象床面積 (㎡)	排煙計算			採光計算				換気計算		
			排煙	採光	換気		必要排煙面積 1/50	計算式 WxH	判定	必要採光面積 1/L	用途別割合 (L)	計算式 WxH	判定	必要換気面積 1/20	計算式 WxH	判定
1 階	一	電気室				45.90 ㎡		※建設省告示第1436号 四-(1)による緩和	—	—	—	—	※非居室	—	—	※非居室

福 岡 県 宗 像 市			
工事年度	令和 8 年	ⓧ 起 工 ⓧ 災 害 定	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事 (建築工事)		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	法検討表 3		
縮 尺	NOSCALE	図面番号	A-17

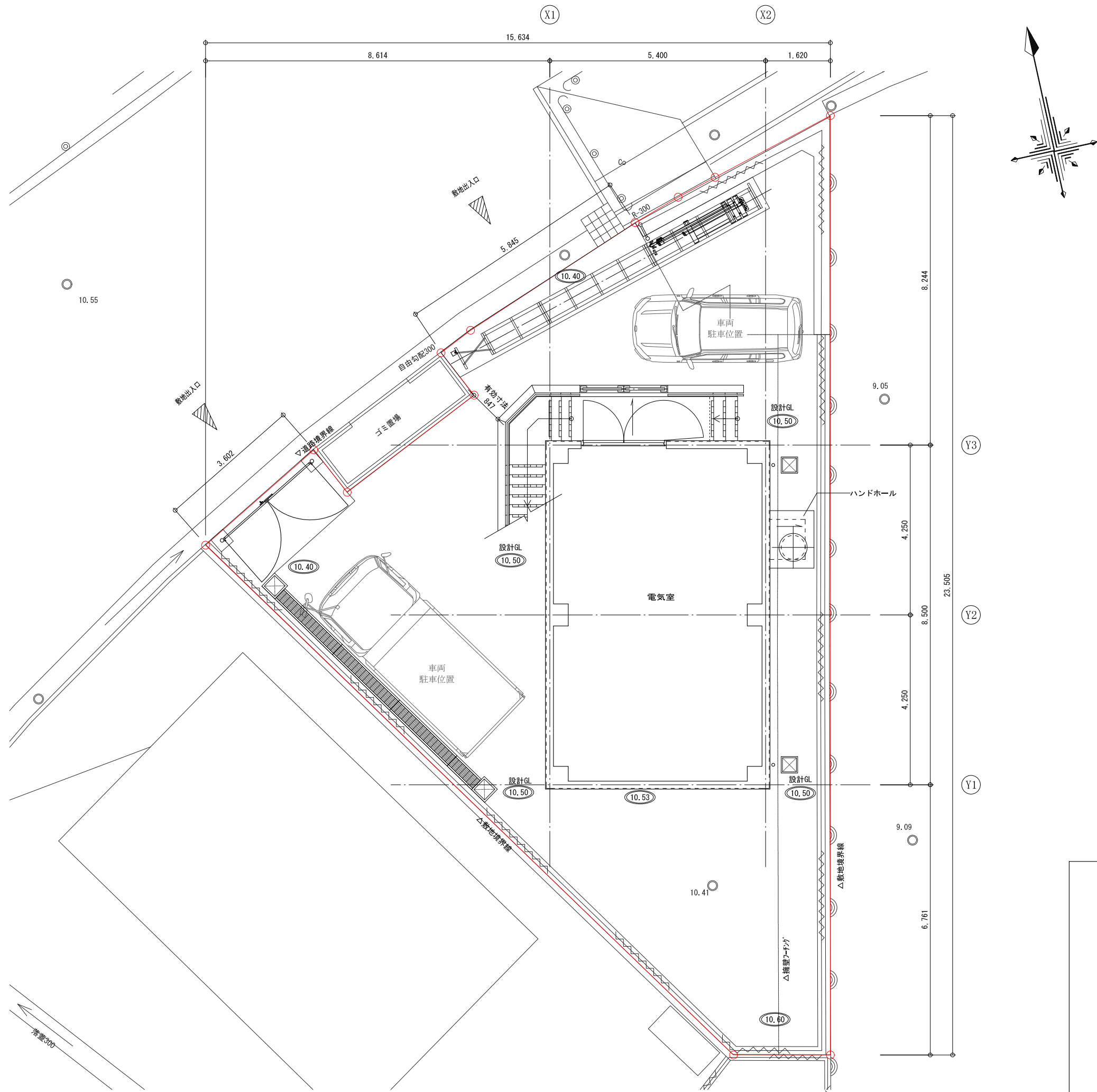
電気棟 仕上表																
共通事項		略 号			外部付属物及び詳細番号			内部付属物及び詳細番号								
1. 外部仕上表及び内、外部付属物の適用分類、詳細番号は、○印のついたものを適用する。	C	コンクリート	複層塗材（E）	合成樹脂エマルション系複層仕上塗材	・ 屋上点検口	・ 5-21-1	・ 図 示	・ くつ洗い流し	・ 8-2-2-1	・ 8-22-2	・ 流し台	・ 6-11-1	・ 図 示	・ カーテンボックス	・ 鋼 製	・ 3-31-1・2
2. 仕上表に記載の詳細番号のうち、(例)1-02-3は建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）を示す。	CB	コンクリートブロック	複層塗材（CE）	ポリマーセメント系複層仕上塗材	・ 屋上管類取り出し口	・ 5-22-1		・ グレーチング	・ 1-21-5		・ フード	・ 6-11-2	・ 図 示	・ ブラインドボックス	・ アルミ製	・ 3-32-5・6・7
3. 特記以外の木、鉄部の塗装はSOPとする。但し、和室回りは除く。	W	木造	複層塗材（RE）	反応硬化合成樹脂エマルション系複層仕上塗材	・ ケーリングタワー基礎	・ 5-22-2	・ 5-22-3		・ 図 示		・ コンロ台	・ 6-11-1	・ 図 示			・ 3-31-3
4. 付属物のうち、室名札、床点検口、揭示板、案内板、ピクトグラフ、階数表示板等は、平面図による。	LGS	軽量鉄骨	複層塗材（Si）	けい酸質系複層仕上塗材	テレビアンテナ基礎			○ 電気用ハンドホール蓋	○ 図 示		・ 流し上排水切り	・ 6-11-3	・ 6-11-4			・ 図 示
5. 付属物のうち、カーテンボックス、ブラインドボックス、ブラインド、天井点検口等は天井伏図による。	GB-R	せっこうボード	CL	クリヤラッカー塗り	・ 屋上換気塔	・ 5-21-2	・ 図 示	・ 文字板	・ 図 示		・ つり戸棚	・ 6-11-5	・ 図 示	・ 壁内揭示板	・ 既製品	
6. PF板、木毛板等打込み箇所は、別図による。	GB-NC（N）	不燃積層せっこうボード（化粧無し：下地張り用）	AE	アクリル樹脂エナメル塗り	・ 煙 突	・ 図 示	・ 7-21-1	・ 戸名板	・ 図 示		・ 水切り棚	・ 6-11-5	・ 図 示	・ 手すり	・ アルミ（図示）	
7. 内壁の見え掛りとなるPF板打込み部分は、GB厚12、5直張り（継目処理工法）とし、塗装は、その部屋の壁面と同様とする。	GB-NC（NT）	不燃積層せっこうボード（化粧有り：トラバーチン模様）	D P	耐候性塗料塗り				・ 郵便受	・ 図 示		・ 脱衣箱	・ 6-32-1			・ ステンレス（図示）	
8. 壁のボード張りは水平方向には原則として継手は設けない。	GB-S	シーリングせっこうボード	EP-G	つや有合成樹脂エマルションペイント塗り	・ タラップ	・ 8-31-1	・ 8-31-2	○ 目 地	・ 図 示	○ 2-02-8、9	・ 天井点検口	・ 3-42-2		・ 階段手すり	・ 7-12-	
9. 天井仕上ボード張りのうち、GB-NC（NT）及びDR（下地GB共）は突付け張りとし、天井回り縁は、アルミ製、天井付き目地とする。	GB-F	強化せっこうボード	EP	合成樹脂エマルションペイント塗り	○ と い	○ 5-31、32、33	・ 図 示				・ 床点検口	・ 既製品			・ アルミ（図示）	
10. 直接地業工事に接する内部床のコンクリート下地には、防湿層としてポリエチレンフィルム厚0.15の敷込みを行う。ただし、床仕上げがビニル床タイル、ビニル床シート及び合成樹脂塗床、床用塗料の場合とする。	ケイカル板	けい酸カルシウム板（タイプ2）	UC	ウレタン樹脂ワニス塗り	○ ルーフドレイン	○ 5-32-1		○ たてどい	○ φ100（カラーVP管） （GL+100マデ）		・ 一般便所	・ 既製品	・ 6-22	○ 吸音壁	○ 2-02-13	
11. 打放し仕上げの出隅部分は、面取りを行う。	DR	ロックウール化粧吸音板	OS	オイルステイン塗り		・ 5-33-1					・ 車椅子使用者用	・ 6-23-1・2・3		・ 断熱材打込み	・ 7-01-1	
13. 特記なき建築工事の梁型の打放し面及び塗装下地面の型枠種別は、梁底面C種、梁側面B種とする。	DR（凹凸）	ロックウール化粧吸音板 凹凸模様	SOP	合成樹脂調合ペイント塗り	・ トップライト	・ 図 示					・ 簡易型便所			・ 押 入	・ 6-46-1	
	DR（軒天）	ロックウール化粧吸音板 軒天井用：トラバーチン模様	NAD	アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り	・ EX P、J金物	・ 既製品					・ オストメイト用便所	・ 6-24-1・2・3・4		・ ホイストレール	・ 図 示	
	DR（軒天凹凸）	ロックウール化粧吸音板 軒天井用：凹凸模様	LE	ラッカーエナメル塗り	・ 笠木兼用避雷導体	・ 図 示					・ 車椅子使用者用	・ 6-25-1		・ クレンガーダー	・ 図 示	
	PF板	押出法ポリスチレンフォーム保温材	WP	木材保護塗料塗り	○ 手すり	・ アルミ（図示）					・ 便房	・ 6-26-1・2・3		・ 搬入口	・ 図 示	
	木毛板	木質系セメント板				○ ステンレス（図示）					・ 6-28-1・2・3・4・5			・ マンホール蓋	・ 図 示	
	TB	テラゾーブロック				・ スチール（図示）					・ 1-21-			・ 室名札	・ 8-43-1	
	外装薄塗材（E）	外装合成樹脂エマルション系薄付け仕上塗材				・ 図 示					・ 8-21-			・ ピクトグラフ	・ 8-44-1	
	内装薄塗材（Si）	内装けい酸質系薄付け仕上塗材				・ 旗 竿					・ 足掛金物	・ 図 示		・ 庁舎案内板	・ 8-42-1	
	内装薄塗材（E）	内装合成樹脂エマルション系薄付け仕上塗材				・ くつきマット	・ 8-21-1・2・3				○ タラップ	○ 8-31-1	・ 8-31-2	・ 各階案内板		
	C（B）	コンクリート打放し（B）									・ 背もたれ付	8-31-3	・ 図 示	・ 下足箱	・ 図 示	
	C（C）	コンクリート打放し（C）														
	M	モルタル														
	軽量吹付	軽量骨材仕上塗材														
	外壁用塗膜防水材（透湿型）	高弾性アクリルゴム系壁面防水化粧材（上塗材：フッ素樹脂塗料）									・ フック	・ U型 図示				
											・ グレーチング受枠	・ 図 示	・ 1-21-5			
											・ 浴室まわり	・ 6-31-				

外部仕上表											
床	巾 木	外 壁	屋 根		パラベット	外部階段		ひさし			備 考
			下地・防水層	押え・仕上		床	手 摺	上 端	は な	軒 天	
出入口前床 ○ コンクリート直均し仕上 （増打 t＝3 0～4 0）	○ コンクリート打放し（B）の上 （増打 t＝2 0） 外壁用塗膜防水材（透湿型）	○ コンクリート打放し（B）の上 （増打 t＝2 0） 外壁用塗膜防水材（透湿型） ※塗装色：5 Y R 9／2	○ コンクリート直均しの上 アスファルト防水（A 1－1） フラットヤークロス P F 板 t＝2 5	○ 押えコンクリート t＝8 0 直均し仕上（溶接金網入り） （既製伸縮目地付）	立上り防水押え ○ 5－0 1－6	路面・蹴込 ○ モルタルこて仕上 最上部床 ○ コンクリート直均し仕上 （増打 t＝3 0～4 0）	○ コンクリート打放し（B）の上 （増打 t＝2 0） 外壁用塗膜防水材（透湿型）			階段裏 ○ コンクリート打放し仕上（C種） （増打 t＝2 0）	ハンドホール ○ 天端：コンクリート直均し仕上 （増打 t＝0～2 0） ○ 側面：コンクリート打放し仕上（B種） （増打 t＝2 0） 建物銘板 W t 5 0 0×H 5 0 0 （ステンレス板 文字シート貼）

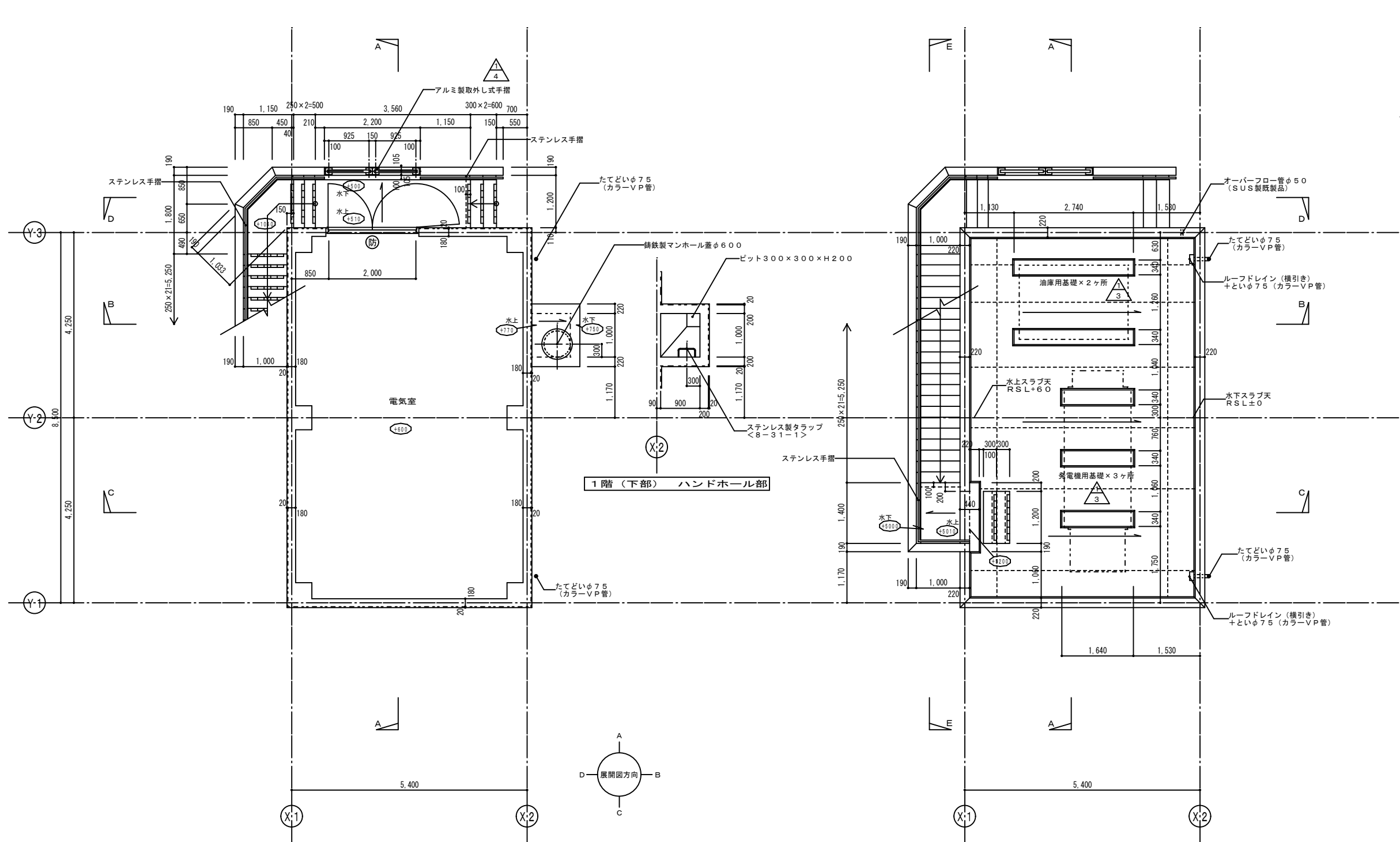
内部仕上表																								
階	室名	床			幅木				腰壁				壁					天井						備考
		下地	仕上	詳細番号	下地	仕上	高さ	詳細番号	下地	仕上	高さ	詳細番号	下地	仕上	詳細番号	柱型仕上	詳細番号	下地	仕上	高さ	詳細番号	梁型仕上	詳細番号	
1F	電気室	C	<フリーアクセスフロア t＝300の上 帯電防止床タイル貼> (PE)	1-02-14	C	<ビニル巾木> (PE)	100	2-11-1					C(B)	EP-G塗	2-02-7	巾木・壁に同じ		C	打放し仕上(C種)	直天	3-01-11	打放し仕上 (側面B種) (底面C種)		<電気盤等基礎> (PE)
その他	ハンドホール	C	無筋コンクリート t＝200～300 直均し仕上	1-01-3									C	打放しのまま	2-02-7			C	打放しのまま	直天	3-01-11			ステンレス製タラップ<8-31-1>、ピット300×300×H200

特記なき限り															
仕 上 材 料 の 厚 さ	材 料 名	種別	壁 (m/m)	天井 (m/m)	備 考	材 料 名	種別	壁 (m/m)	天井 (m/m)	備 考	工 事 区 分 略 号	< > C	： 土木工事		
	GB-R	仕上	12.5	12.5	NM-8619	けい酸カルシウム板 (タイプ2)		12	10	NM-8578		< > AM	： 建築機械設備工事		
		下地	12.5			押出法ポリスチレンフォーム保温材		25	25			< > AE	： 建築電気設備工事		
	GB-NC (N)	下地		9.5	NM-8613	壁紙 紙紙						< > PM	： プラント機械設備工事		
	GB-NC (NT)			9.5	又は同等							< > PE	： プラント電気設備工事		
	DR			12	NM-8599										

福岡県 宗 像 市				
工事年度	令和8年	（仮 起 工）	起工 321号	
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課			
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）			
河 川 名				
工事箇所	宗像市田熊一丁目			
図面の名称	仕上表			
縮 尺	NOSCALE	図面番号	A-18	



福岡県宗像市			
工事年度	令和8年 （仮起工） 起工 321号 （仮着工）		
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	配置図		
縮 尺	(A1) S=1:50 (A3) S=1:100	図面番号	A-19



1階 平面詳細図

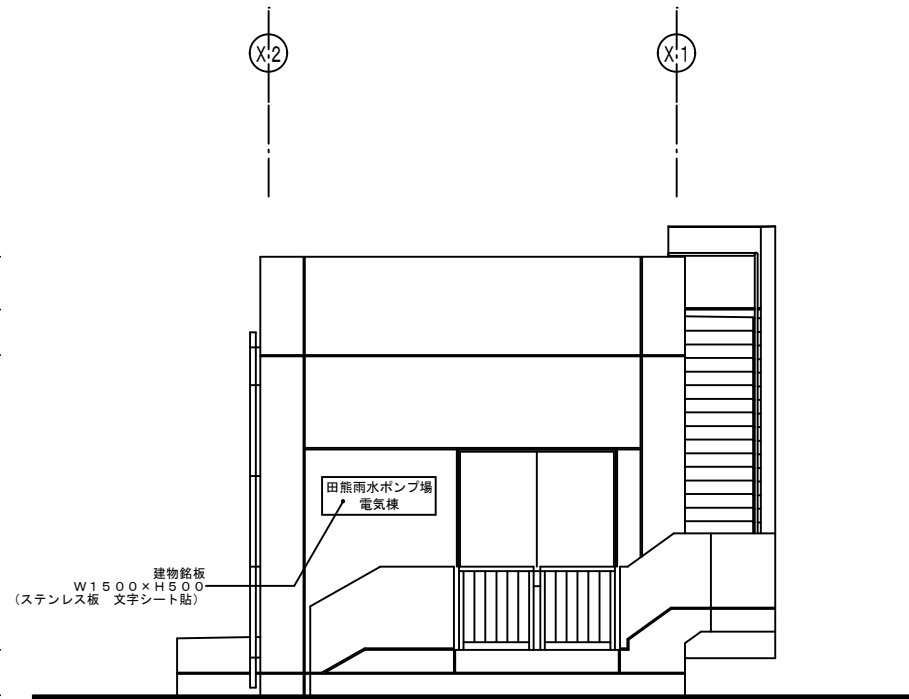
屋階 平面詳細図

凡例
○内の数字は、設計地盤GL（TP+10.500）＝±0とした床仕上レベルとする。
水勾配のある部分においては水上レベルとする。
防 防火設備を示す。

福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	起工 321号	
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	平面図		
縮 尺	(A1) S=1:50 (A3) S=1:100	図面番号	A-20

▽ 最高の高さ=+16.700
▽ +16.300
▽ P R T=+15.600
▽ R S L=+15.000

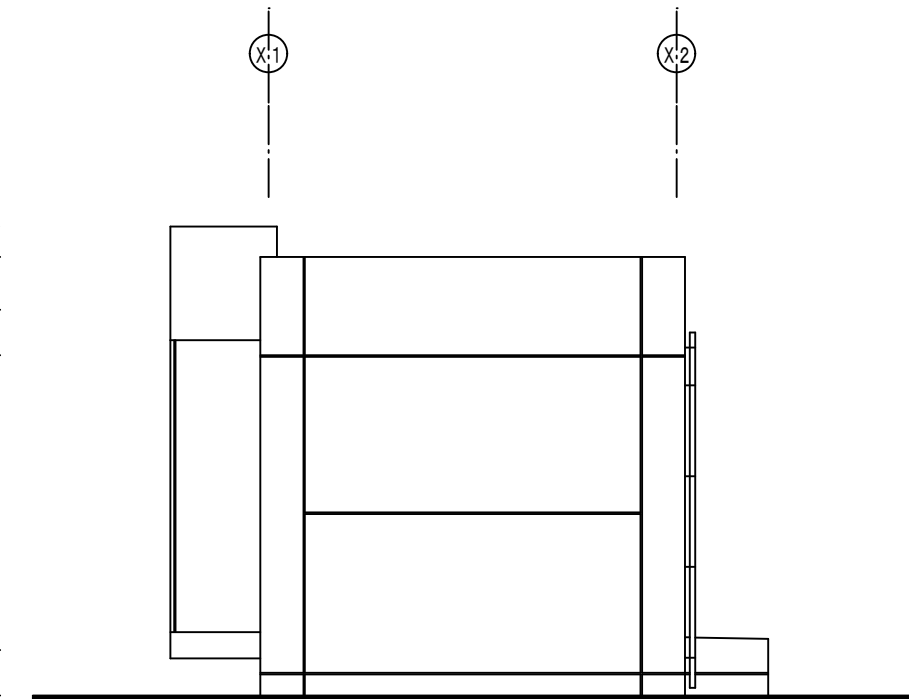
▽ 1 F L=+11.100
▽ G L=+10.500



北 立面図

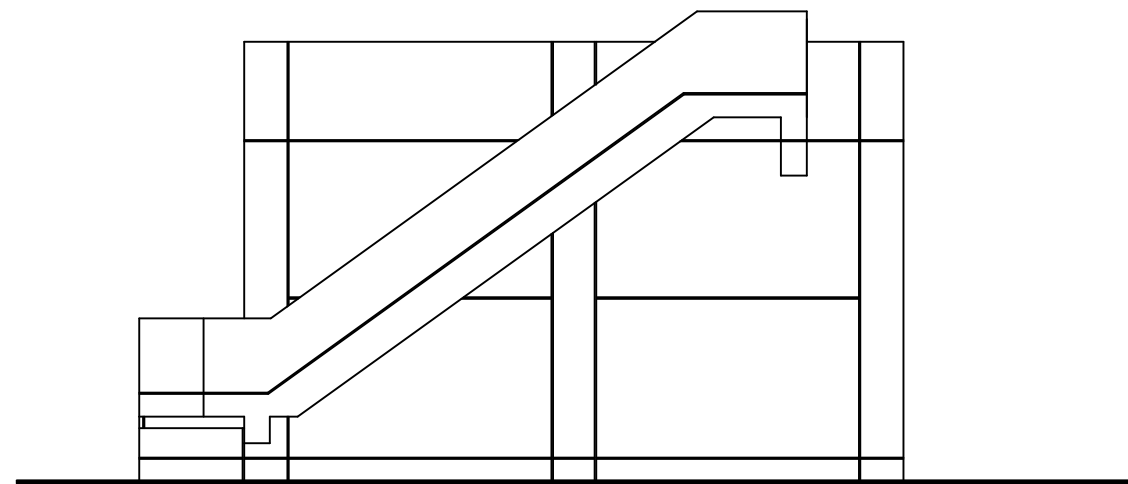
▽ 最高の高さ=+16.700
▽ +16.300
▽ P R T=+15.600
▽ R S L=+15.000

▽ 1 F L=+11.100
▽ G L=+10.500



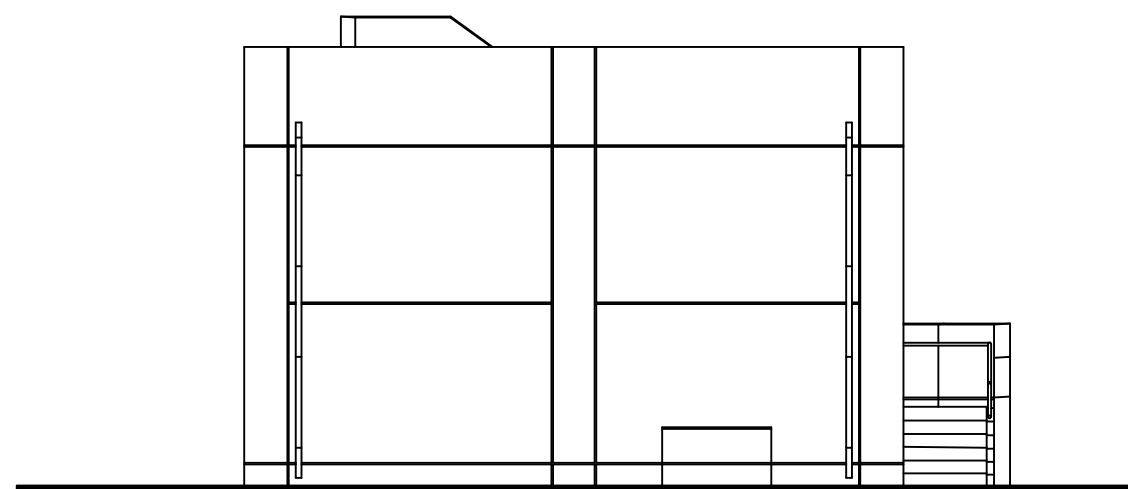
南 立面図

Y:3
Y:2
Y:1



西 立面図

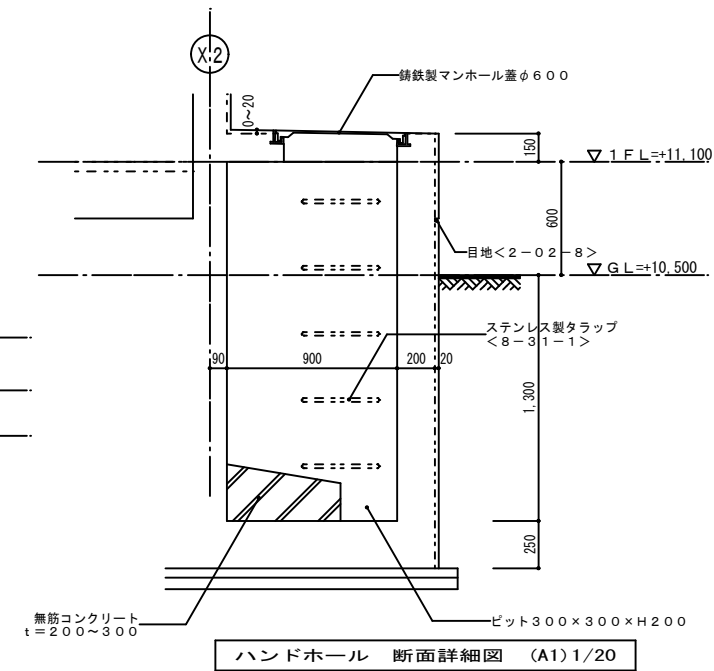
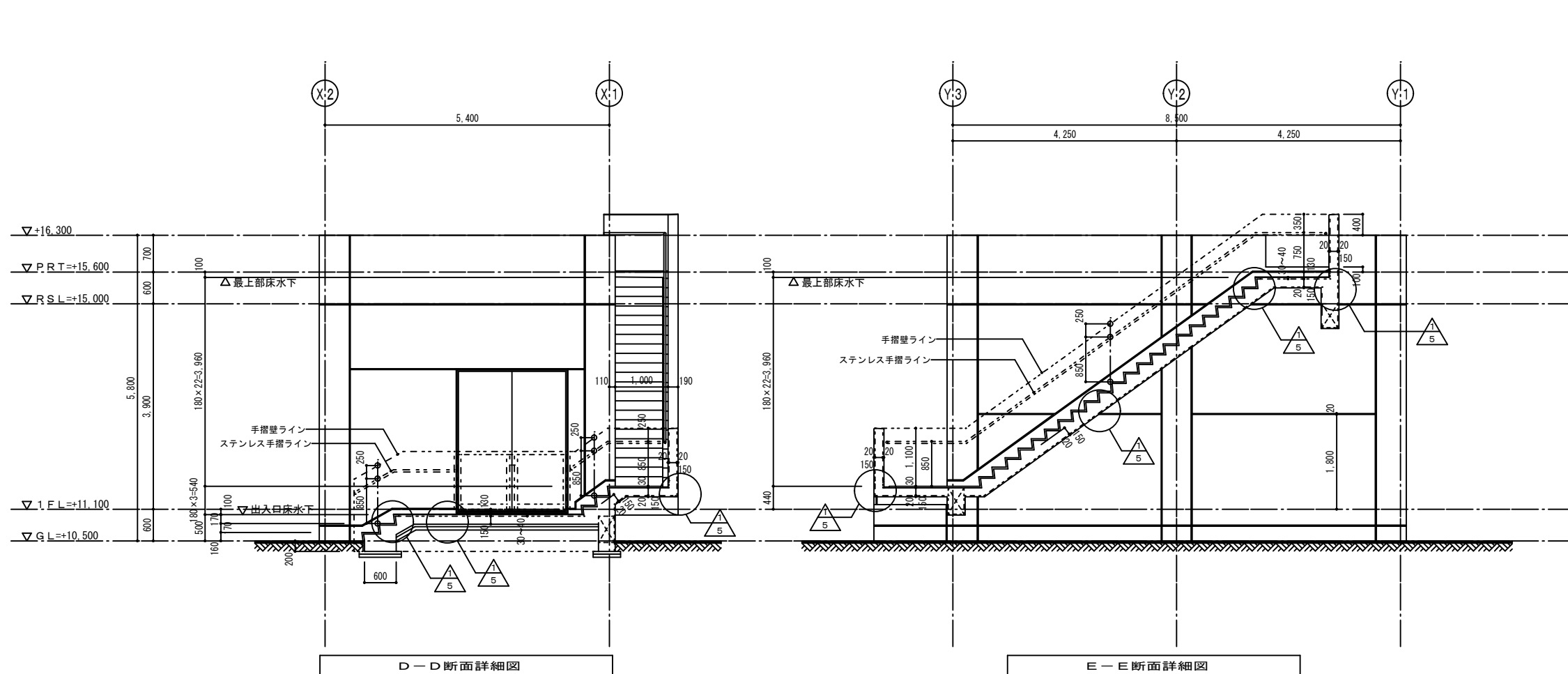
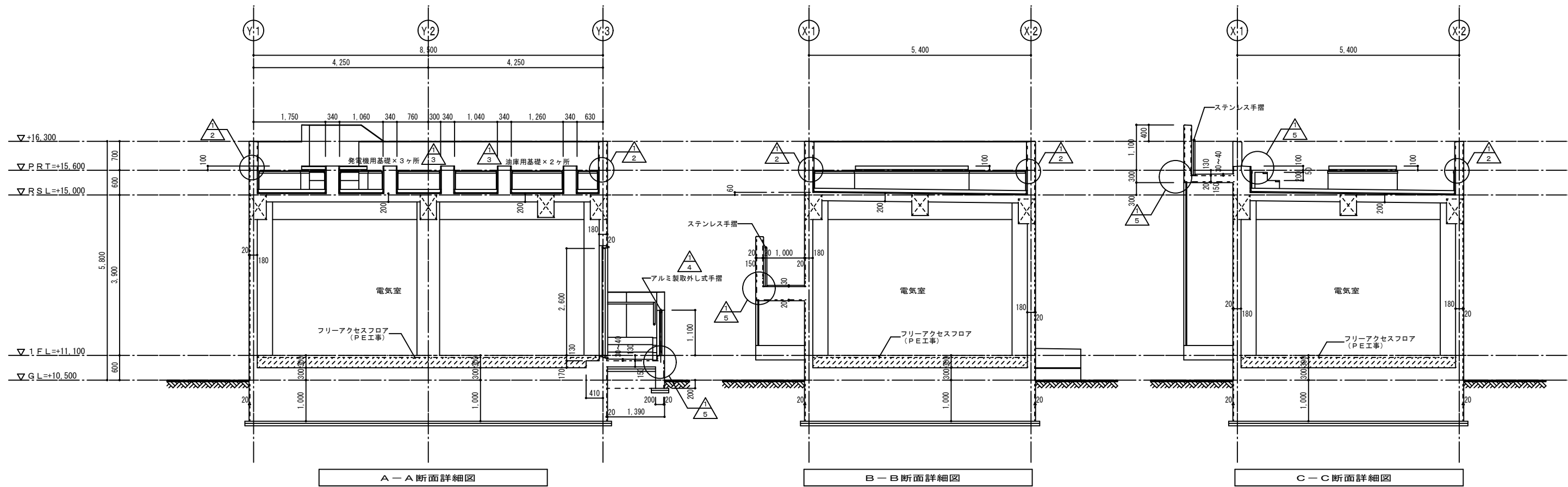
Y:3
Y:2
Y:1



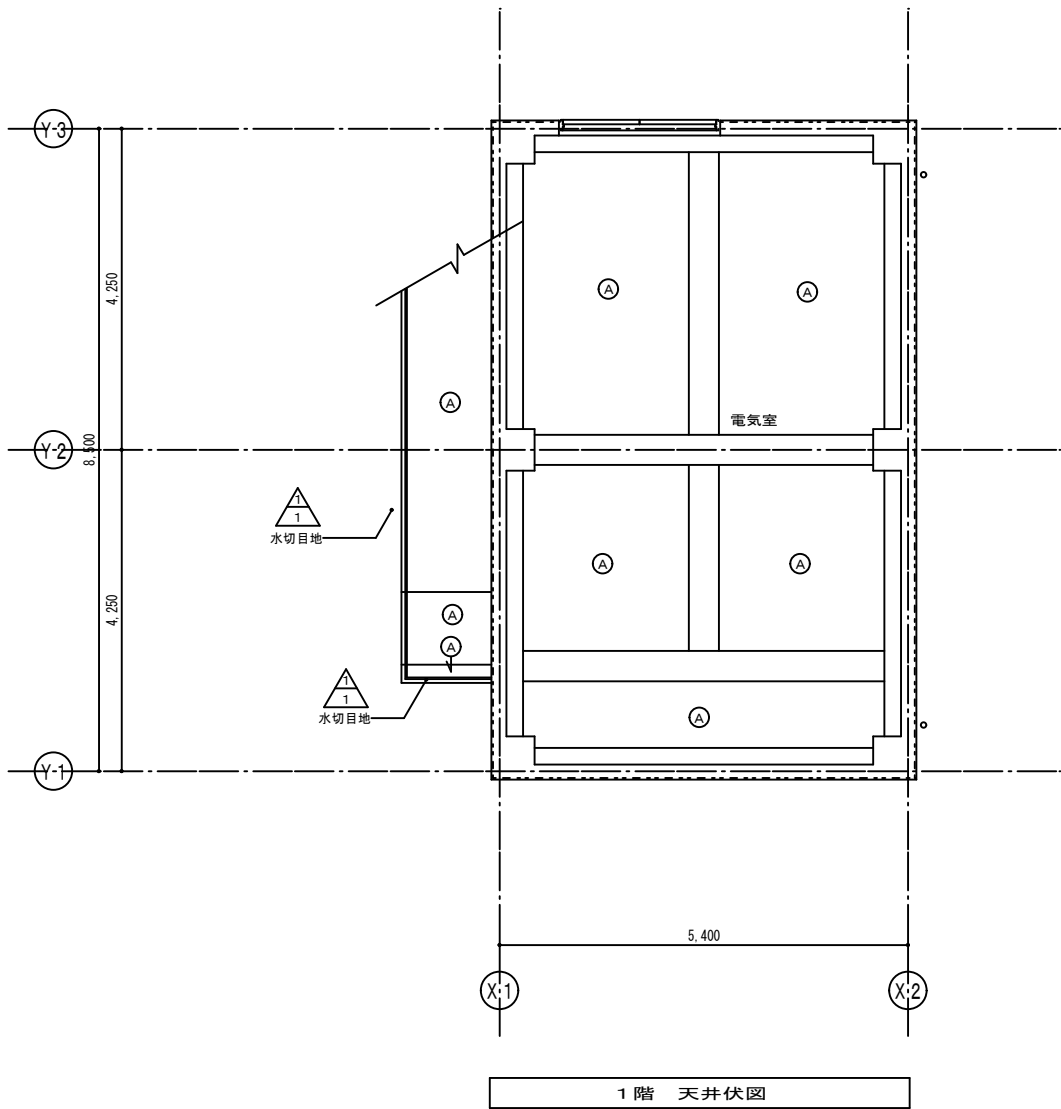
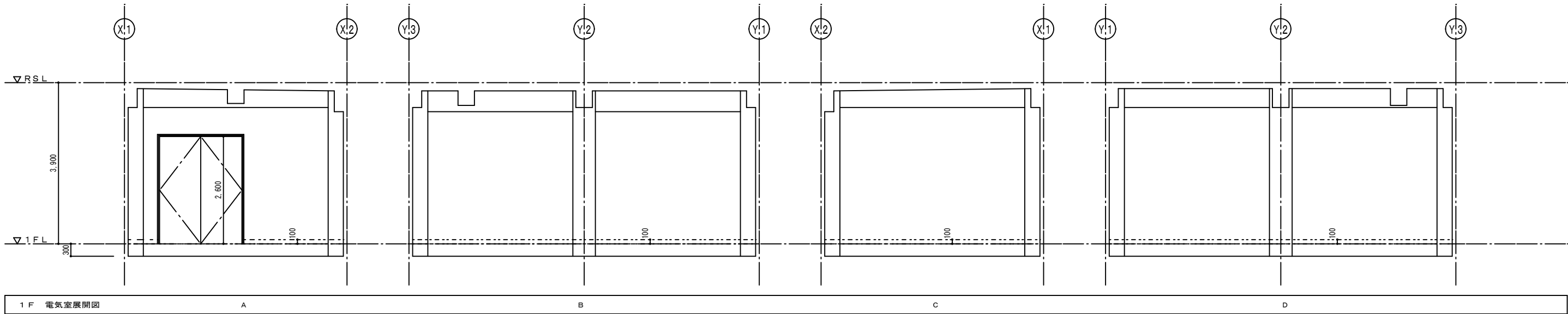
東 立面図

外壁：外壁用塗膜防水材の塗装色は以下とする。
塗装色：5 Y R 9 / 2

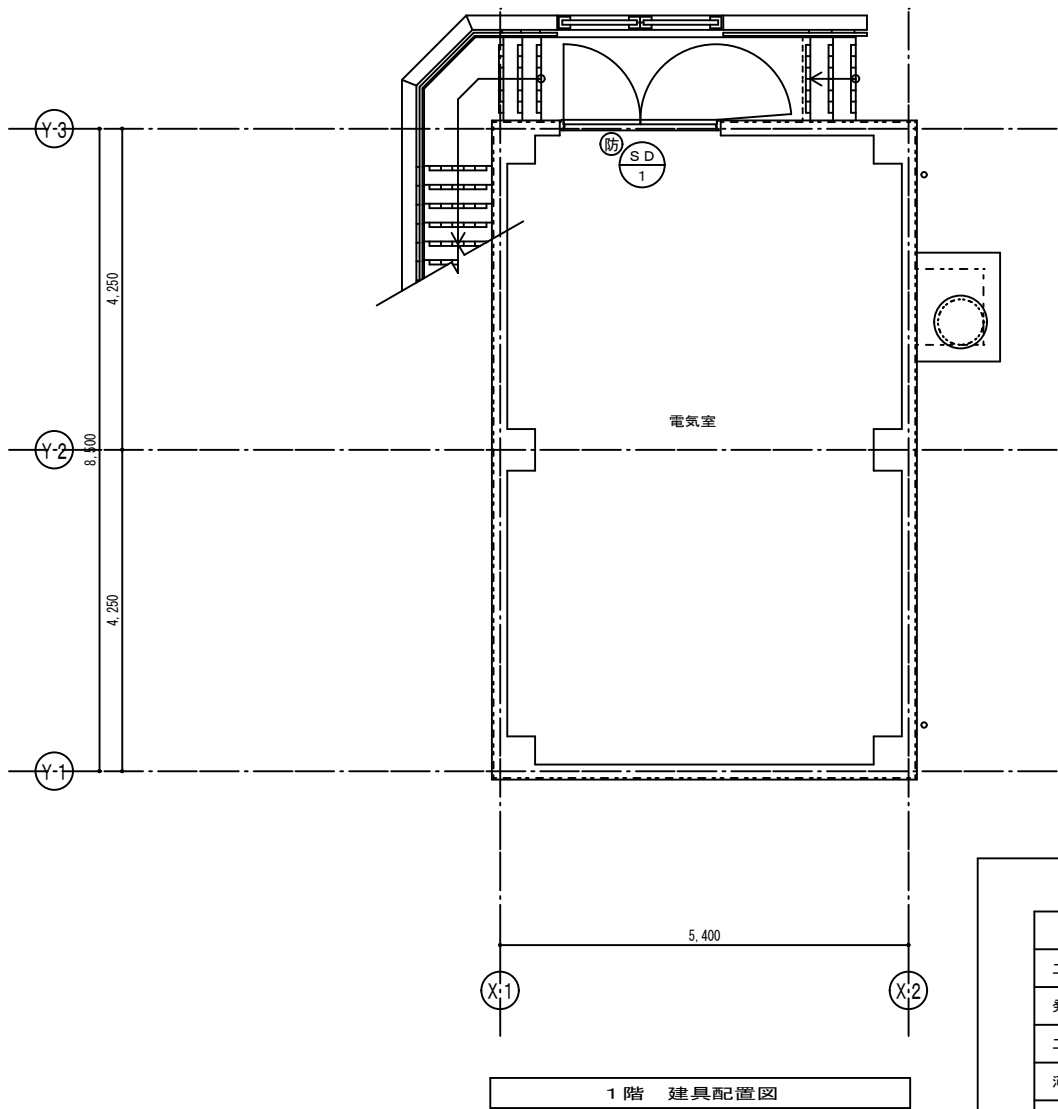
福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	起工	321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	立面図		
縮 尺	(A1) S=1:50 (A3) S=1:100	図面番号	A-21



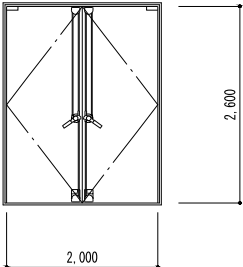
福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	起工	321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工事名	田熊雨水ポンプ場整備工事 (建築工事)		
河川名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	断面詳細図		
縮尺	(A1) S=1:50 (A3) S=1:100	図面番号	A-22



天井仕上凡例	
(A)	コンクリート打放し仕上 (C種)
※特記なき梁型等は、天井同仕上とする。	

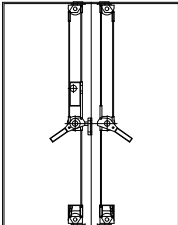
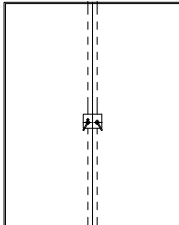


福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	起工 321号	
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工事名	田熊雨水ポンプ場整備工事 (建築工事)		
河川名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	展開図・天井伏図・建具配置図		
縮尺	(A1) S=1:50 (A3) S=1:100	図面番号	A-24

符号・名称・個数	SD-1	両開きフラッシュ戸	1
場所	1F電気室		
仕上(枠共)	DP塗(1級フッ素樹脂系)		
建具	見込(ランマ)	60	
	硝子(ランマ)	_____	
	ガラリ	_____	
建具枠	見込取合 沓摺	170	
枠記号 沓摺(水切)記号	AT-2		
建具金物	大型戸当り、大型丁番(3枚)、DC×2(ストップなし) 面付3点+2点上げ落し(両面ハンドル) シリンドア一本締め、内蔵型頑位調整器		
その他	外部用大型気密戸(上枠水切り付)、防火設備		
形状・寸法			

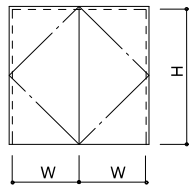
建具（枠共）の塗装色は以下とする。
 塗装色：5 Y R 8 / 1

大型、気密ドアの仕様

	大型鋼製建具（外部用）	大型鋼製建具（内部用）
姿 図		
	$H > 2,400$ $W > 950$	$H > 2,400$ $W > 950$
一般丁番（150）	形状別扉見込寸法、丁番表による。	
大型丁番		

気 密 型 鋼 製 建 具	
$\begin{array}{l} H \geq 2,100 \\ W \geq 950 \end{array}$	$\begin{array}{l} H \geq 2,100 \\ W \geq 950 \end{array}$
形状別扉見込寸法、丁番表による。	

ドア見込み及び丁番表



- 1) [] 内数値は扉の見込寸法を示す。
2) ※は「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」による。

※ 扉面積 2.5㎡ 以上の場合は大型戸当り、あおり止めを設ける。

W H		950以下		1,250未満		1,500未満		1,750未満	
		大 型	気 密	大 型	気 密	大 型	気 密	大 型	気 密
2,000未満	※	[40] 一般 (150) 3 枚	[40] 一般 (150) 3 枚	[40] 一般 (150) 3 枚	[50] 大型 3 枚	[50] 大型 3 枚	[60] 大型 3 枚	[60] 大型 3 枚	
2,400以下	※	[50] 一般 (150) 3 枚	[40] 一般 (150) 3 枚	[50] 大型 3 枚	[50] 大型 3 枚	[50] 大型 3 枚	[60] 大型 3 枚	[60] 大型 3 枚	
3,000未満	[50] 大型 3 枚	[60] 大型 3 枚	[60] 大型 3 枚	[60] 大型 3 枚	[60] 大型 3 枚	[60] 大型 3 枚	[60] 大型 3 枚	[80] 大型 3 枚	
3,500未満			[60] 大型 3 枚	[80] 大型 4 枚	[60] 大型 3 枚	[80] 大型 4 枚	[60] 大型 3 枚	[80] 大型 4 枚	

	種 別	戸	窓	ガラリ	オーバー ヘッドドア	紙障子	ふすま	シャッター	網戸
建 具 略 号	アルミニウム製	A D	A W	A G	A O D			A S	a W
	鋼 製	S D	S W	S G	S O D			S S	
	鋼 製 軽 量	L D						L S	
	ステンレス製	S S D	S S W	S S G				S S S	
	木 製	W D	W W	W G		P	H		
ガ ラ ス 略 号	F 型板ガラス			金	D C	アークローザー			
	P フロート板ガラス			網	A H	オートヒンジ			
	N 網入型板ガラス			略	F H	フロアヒンジ			
	N P 網入みがき板ガラス			号	P H	ピボットヒンジ			

A T - 2 建具標準図 大型気密型鋼製建具（外部両開き） 1 / 5, 1 / 2 5

立面 1 / 2 5

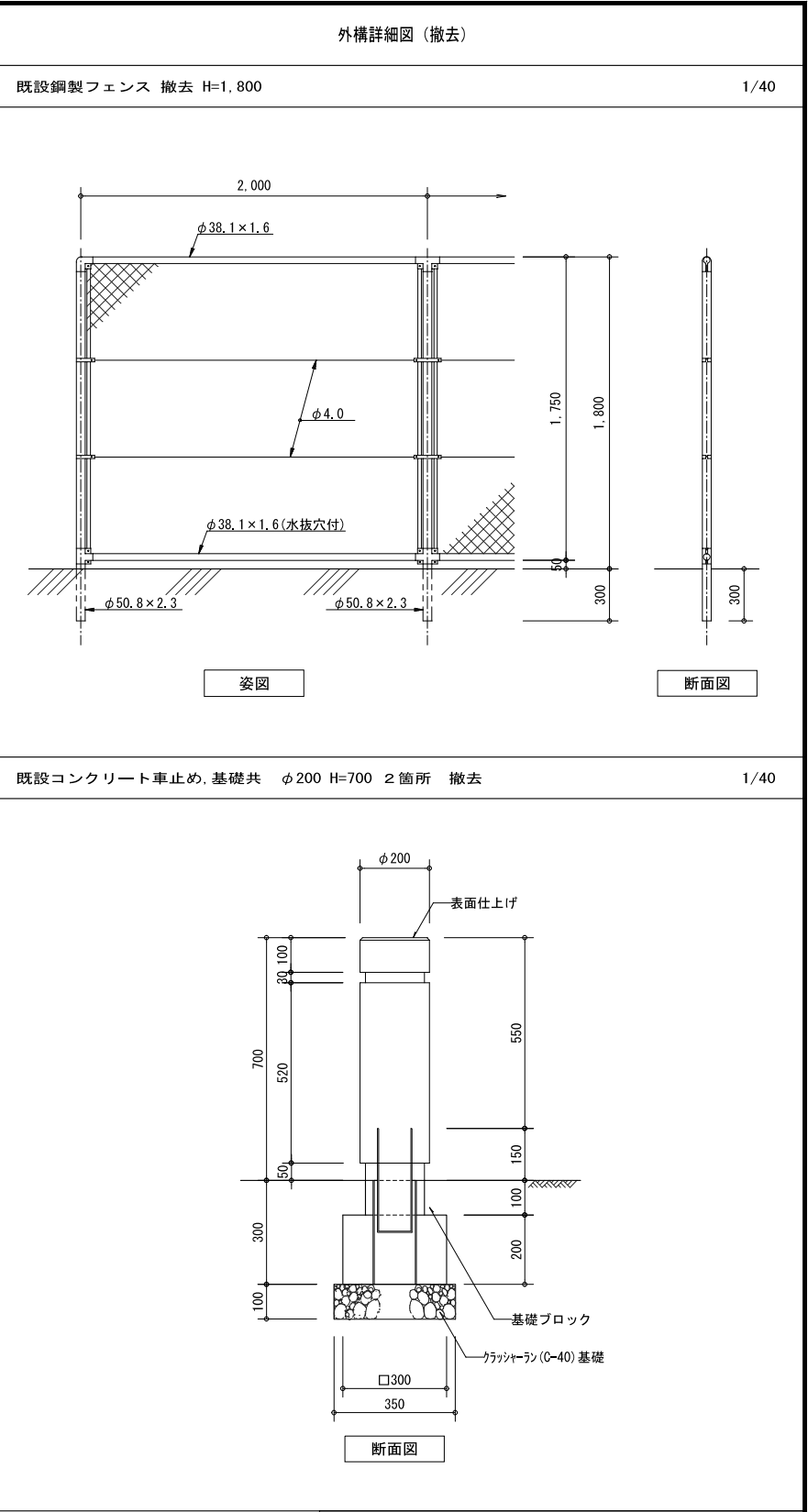
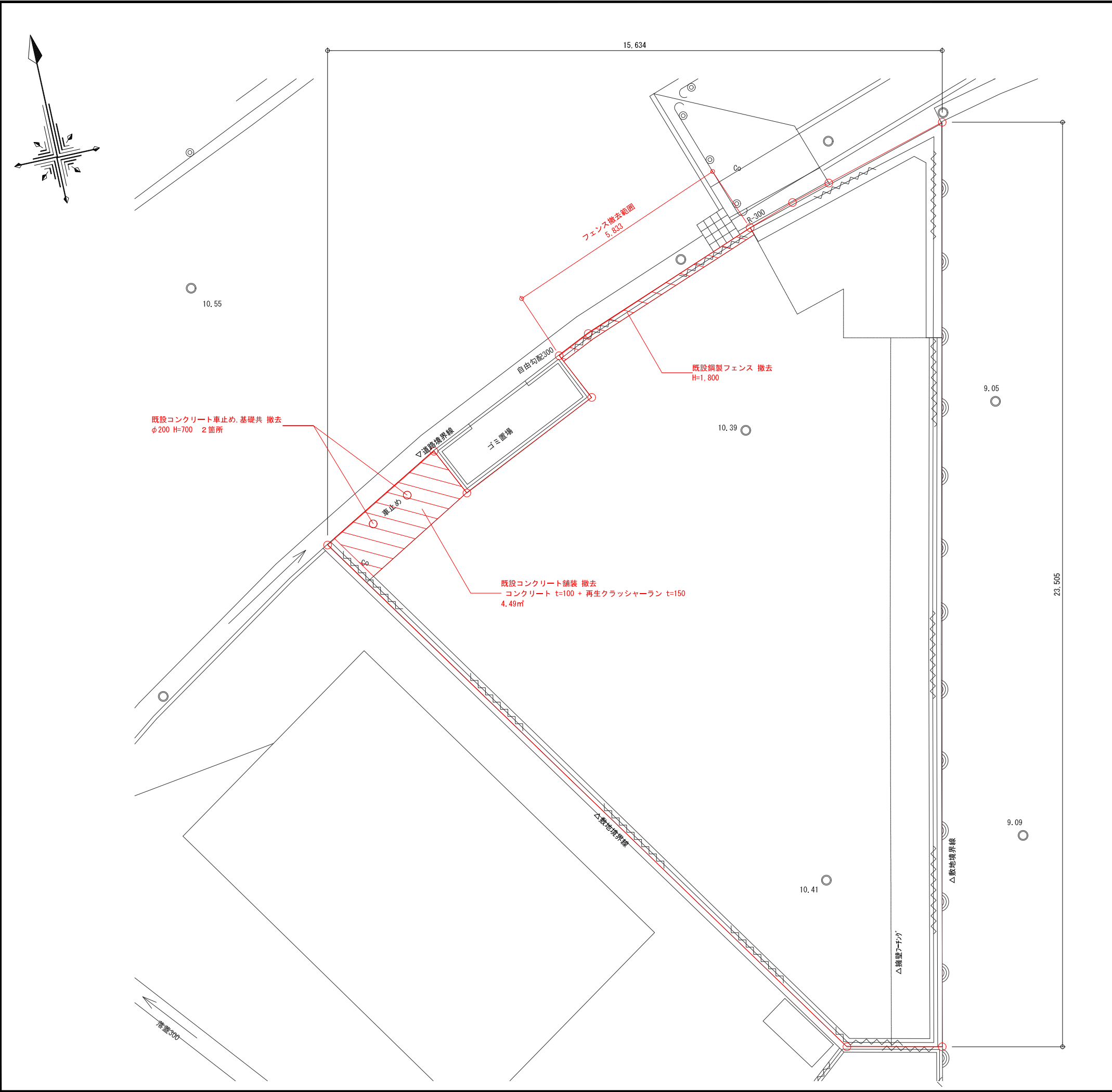
平面 1 / 5

参考寸法

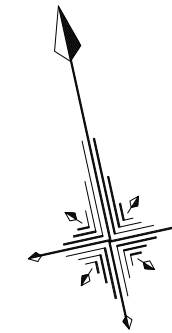
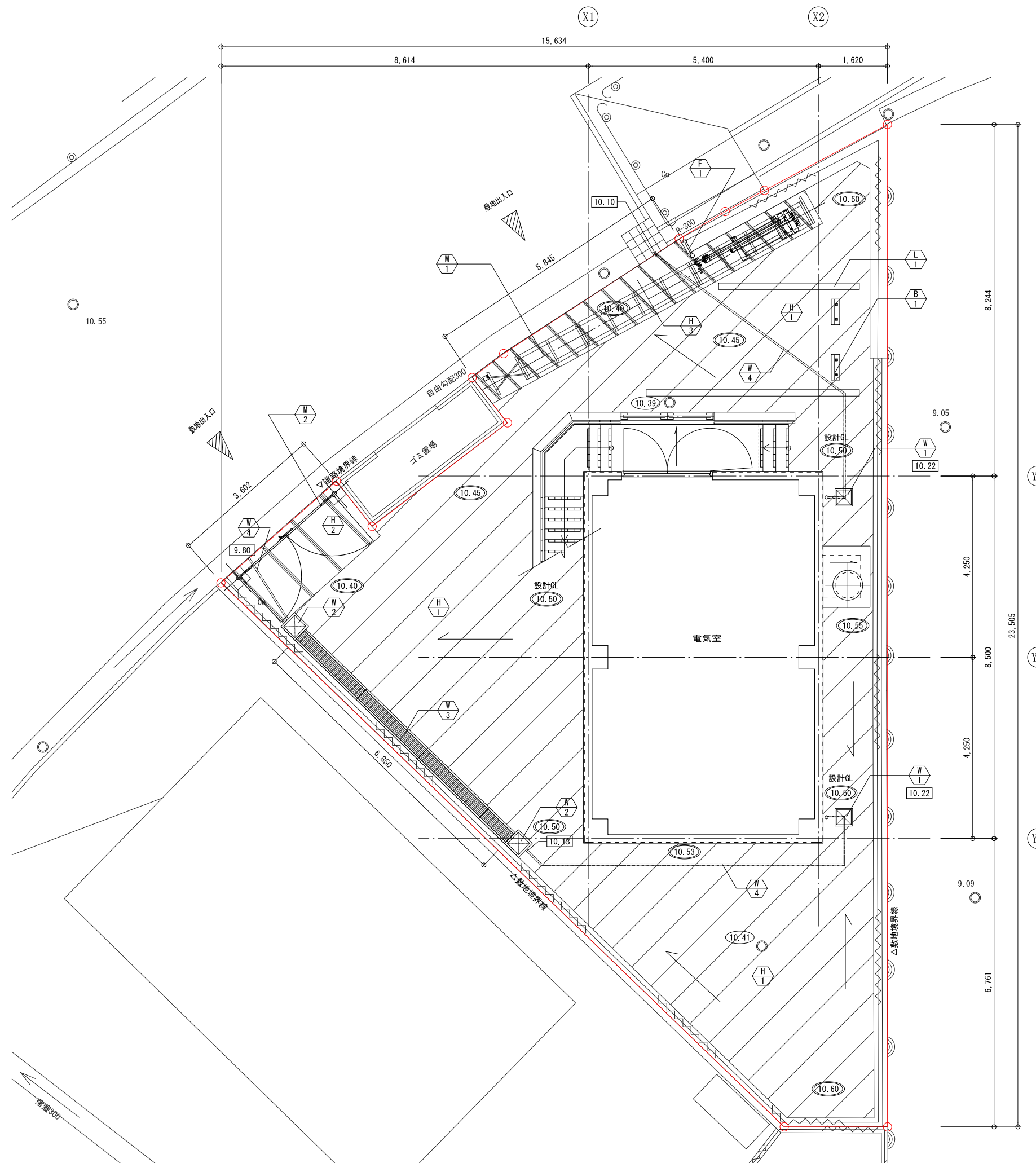
A	B
60	170
80	190

断面 1 / 5

福岡県宗像市			
工事年度	令和8年 (平成起工) 調査定		起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工事名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河川名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	建具表・建具標準図		
縮尺	図示	図面番号	A-25



福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	（仮起工）	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	外構撤去図		
縮 尺	(A1) S=1:50 (A3) S=1:100	図面番号	A-26



凡 例 (レベル)

符 号	名 称
0.00	既設レベル
0.00	新設レベル
0.00	管底レベル

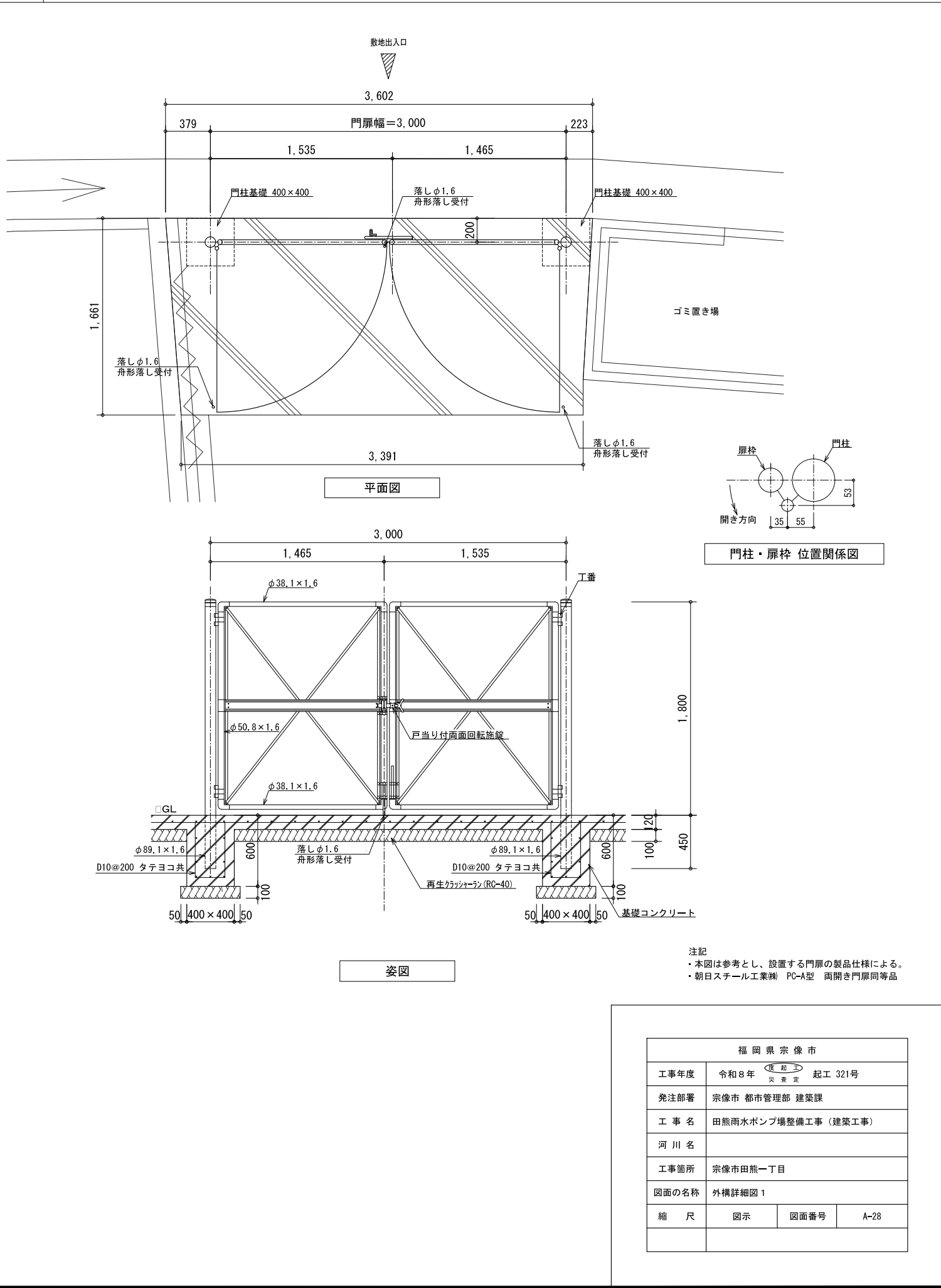
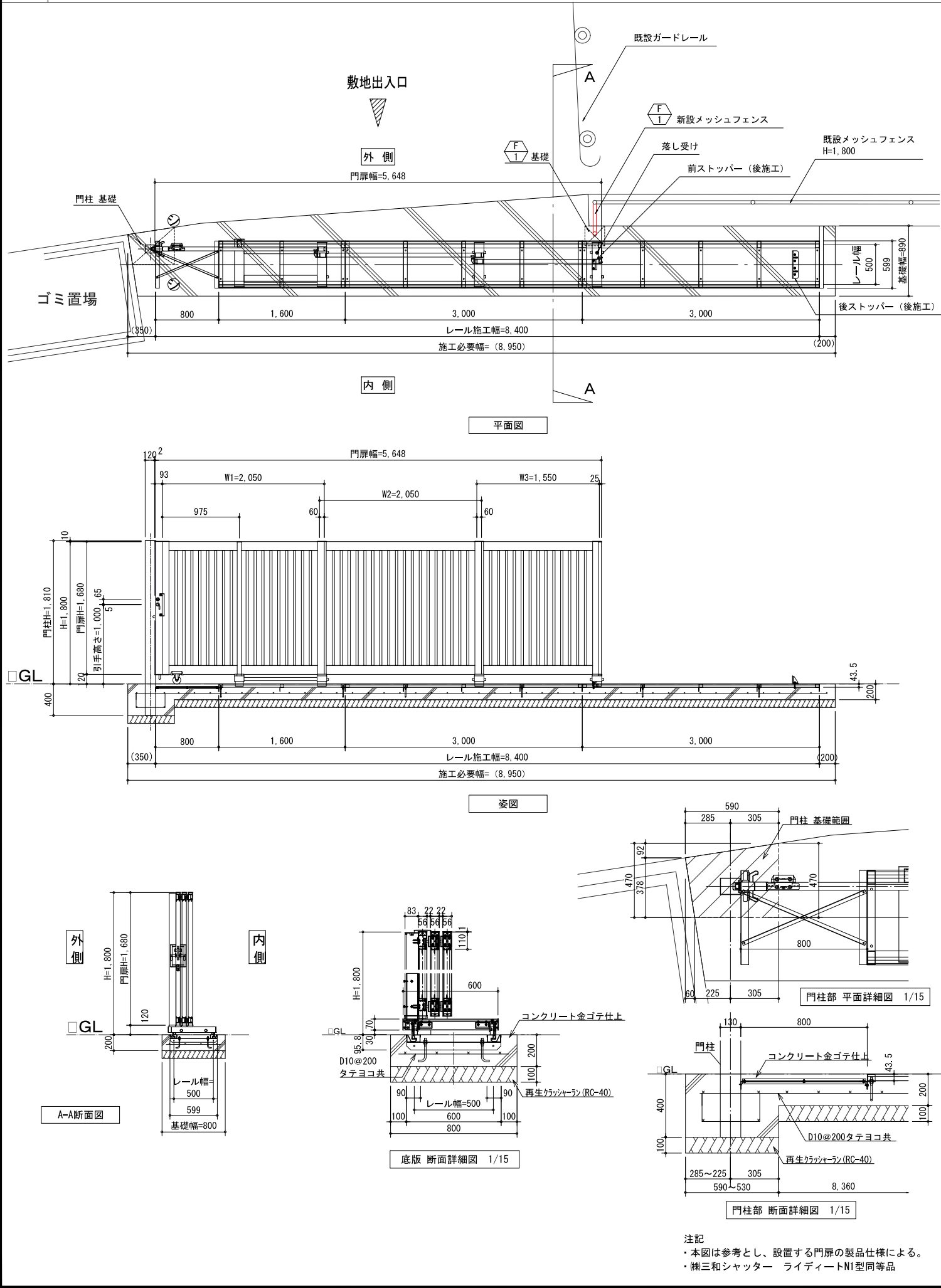
凡 例 (圀障等)

符 号	名 称	摘 要
	鋼製メッシュフェンス	H=1,800、W=400 コンクリート埋込用
	鋼製3連片引き門扉	アルミ製 W=5,500、H=1,800
	鋼製両開きフェンス扉	W=3,000、H=1,800 コンクリート埋込用
	白線引き W=150	トラフィックペイント L=3,300 + 5,000 = 8,300
	車止め	コンクリート製 W=600×D=200
	雨水拵	蓋付集水樹 W410×D410×H430
	雨水拵	グレーチング付集水樹 W460×D460×H600
	雨水側溝	グレーチング付側溝 W250×H300
	埋設雨水排水管	VP100 勾配1/100以上、埋設深さGL-100以下

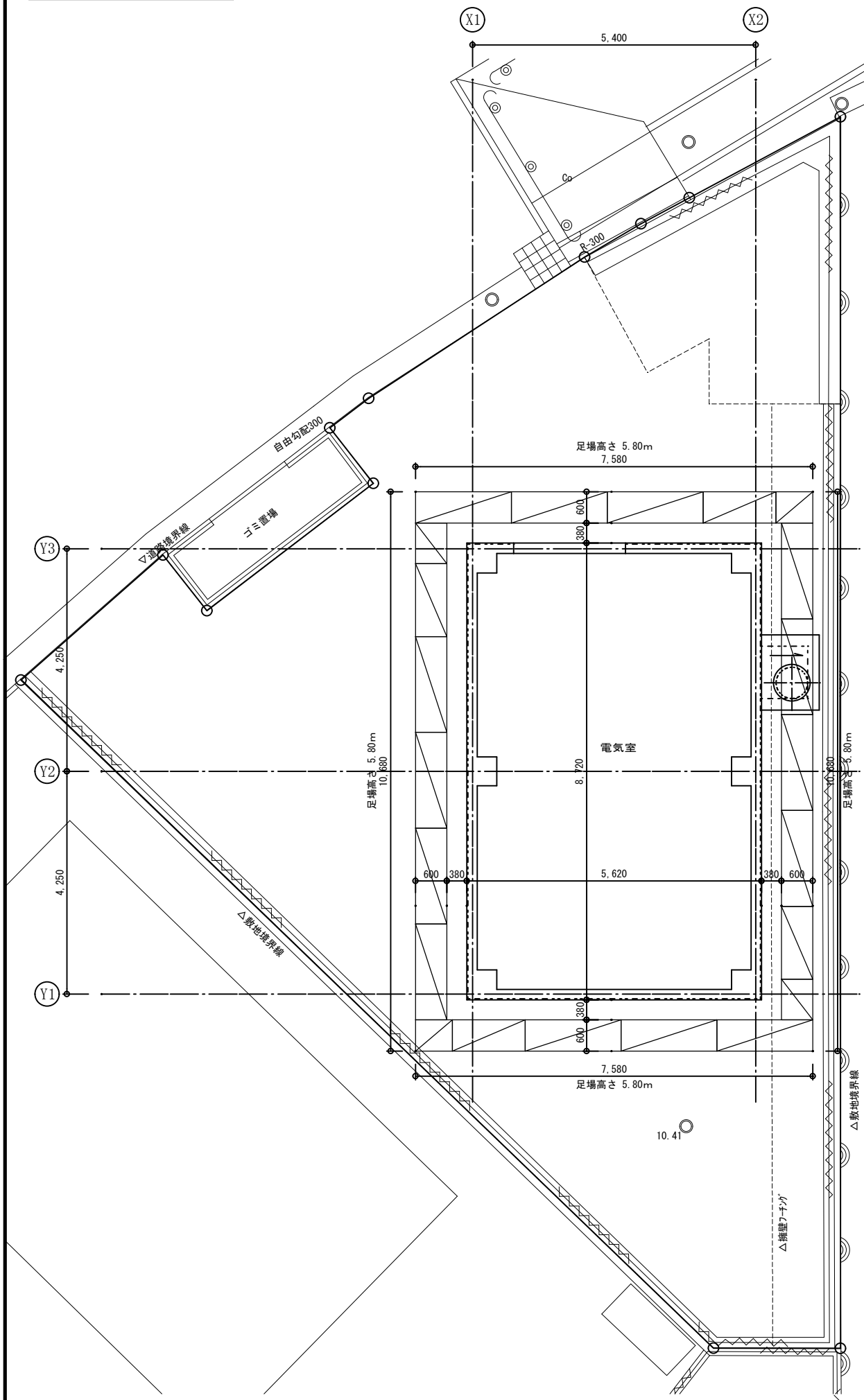
凡 例 (鋪裝)

符 号	凡 例	名 称	摘 要
		アスファルト舗装	表層: t=50 再生密粒度アスコン 路盤: t=150 再生ガッツァン(RC-40)
		コンクリート舗装 t=120	表層: t=120 コンクリート金ゴベテ仕上 路盤: t=150 再生ガッツァン(RC-40)
		コンクリート舗装 t=200	表層: t=200 コンクリート金ゴベテ仕上 路盤: t=150 再生ガッツァン(RC-40)

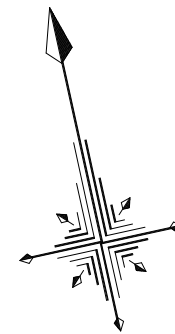
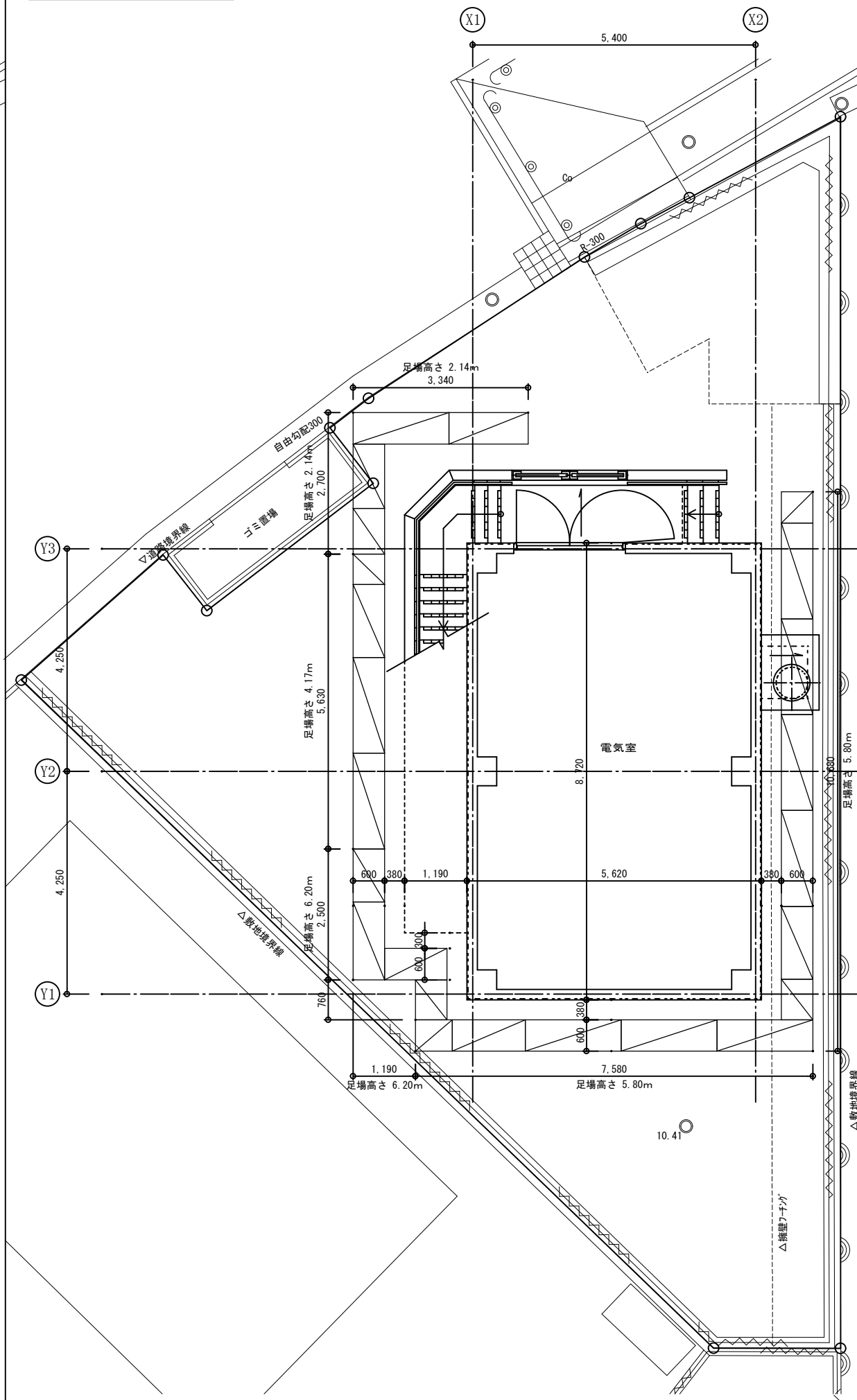
福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	（ <u>前期</u> ） 災害定	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工事名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河川名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	外構図		
縮尺	(A1) S=1:50 (A3) S=1:100	図面番号	A-27



仮設足場図 上部躯体打設時



仮設足場図 屋外階段打設時



凡 例

符 号	名 称
	くさび緊結式足場 W=600mm 手摺先行型 足場離隔距離 0.38m

(その他)

- ①隣接家屋との境界に万能鋼板H=3.0m相当の飛散防止、防音措置を行うこと
- ②重機、ポンプ車等の出入りで前面道路の通行誘導のため必要となる交通誘導員を見込むこと
- ③道路と敷地の境界にW6.0m × H1.8mのキャスターゲートを設置すること

福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	起工	321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事 (建築工事)		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	(参考) 仮設計画図		
縮 尺	(A1) S=1:50 (A3) S=1:100	図面番号	A-30

構造細目共通図

1 特記事項

1.1 適用範囲

(1) 本構造細目共通図は、下水道施設における処理場、ポンプ場の複合構造物に適用する。

(2) 土木工事と建築工事の区分は図面による。

(3) 図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

土木工事	1) 土木工事特記仕様書 2) 土木工事必携 3) コンクリート 標準示方書・施工編 4) コンクリート 標準示方書・設計編	日本下水道事業団 日本下水道事業団 土木学会 土木学会	(別紙による。) (最新版) (最新版) (最新版)
建築工事	1) 建築工事特記仕様書 2) 建築改修工事特記仕様書 3) 建築・建築設備工事一般仕様書 4) 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)	日本下水道事業団 日本下水道事業団 日本下水道事業団 国土交通省大臣官房官庁営繕部	(別紙による。) (別紙による。) (別紙による。) (別紙による。)

(4) 項目は○印のついたものを適用する○印のない場合は、※印のあるものを適用する○印○※印のある場合は、共に適用する。

1.2 鉄筋の仕様

土木の鉄筋の種類及び継手は1.2.1表による。

建築の鉄筋の種類及び継手は、別紙建築工事特記仕様書又は建築改修工事特記仕様書による。

1.2.1表 鉄筋の種類及び継手			
	種別	径	
		土木	建築
鉄筋の種類	※SD295		※D16以下
	※SD345 ・SD390 ・SD490	※D13以上	※D19以上
	SD345		※D19以上
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外	
	ガス圧接	※D19以上の柱、梁主筋 ※D16以上の増設端の床、壁鉄筋	※D19以上、D29以下の柱、梁主筋
	機械式継手	図面による。	

1.3 コンクリートの仕様

土木のコンクリートの仕様は1.3.1表による。

建築のコンクリートの仕様は、別紙建築工事特記仕様書又は建築改修工事特記仕様書による。

1.3.1表 コンクリートの仕様						
分類		コンクリート種別	設計基準強度(N/mm ²)	スランプ(cm)	セメントの種類	
土木	鉄筋コンクリート	※普通コンクリート	※24 ・30	※12	※高炉セメントB ・普通ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント	
建築	鉄筋コンクリート	地上	※普通コンクリート	※24	※18	※普通ポルトランドセメント
		地下基礎、基礎梁	※普通コンクリート	※24	※15	※普通ポルトランドセメント
土木	無筋コンクリート	※普通コンクリート	※18	※12	※高炉セメントB ・普通ポルトランドセメント	
建築	無筋コンクリート	※普通コンクリート	※18	※15	※普通ポルトランドセメント	

注1：無筋コンクリートには均しコンクリート、捨てコンクリートを含む。

1.4 砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリート

砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリートの厚さは1.4.1表による。

1.4.1表 砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリートの仕様		
部位	種別	厚さ(mm)
土木工事	砂利または砕石	※200
	均しコンクリート	※100
建築工事	砂利または砕石	※60
	捨てコンクリート	※50

2 共通事項

2.1 記号及び符号

設計図中で使用する記号及び符号は、2.1.1表及び2.1.2表を標準とする。

2.1.1表 鉄筋の断面表示										
区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	
建築		●	×	∅	●	○	⊗	⊠	⊙	
土木					●又は建築による。					

2.1.2表 一般凡例		
記号符号	内容	※印の説明及び注意事項
F※	フーチング断面種別	※番号
※1C※2	柱断面種別	※1 階数 ※2 その階の番号
※1G※2	大梁断面種別	※1 階数、地中大梁はFとする ※2 その階の番号 X方向1, 2, 3- - - Y方向A, B, C- - -
CG※	片持大梁断面種別	※番号、階別区分はしない
※1B※2	小梁断面種別	※1 地中小梁のみFとする ※2 階別区分はしない 地中小梁を除く
CB※	片持小梁断面種別	※番号、階別区分はしない
※1W※2	壁配筋種別	※1 E：前壁、K：階段壁 D：土圧、水圧を受ける壁 階別区分はしない ※2 壁厚(cm)
※1S※2※3	床版配筋種別	※1 片持床版のみCとする ※2 床版厚(cm) ※3 配筋種別(英大文字) 階別区分はしない
※1K※2	階段の配筋種別	※1 A：片持床版形 B：二辺固定床版形 ※2 配筋種別(数字) 階別区分はしない
CB※	コンクリートブロック壁	※壁厚(cm)
	打ち増し範囲	
	梁・床版の上がり下がり	一般には基準F Lよりの+、-に応じた凡例により表示
(※)	床用積載荷重	積載荷重の値(kN/m ²)
STP	あばら筋、スターラップ	梁、基礎梁、小梁
HOOP	帯筋、帯鉄筋、フープ	柱
S.HOOP	スパイラル筋、らせん筋	柱
幅止筋	幅止め筋	柱、梁、壁
組立筋	組立て筋	床版、底版

(用語の定義)

- 床版とは、常時荷重及び地震時荷重を負担する主部材をいう。壁式構造のボックスカルバートやラーメン構造の頂版や底版がある。
- スラブとは、常時荷重のみを負担する梁に支持される副部材をいう。

2.2 一般注意事項

(1) 設計図は監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。

変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。

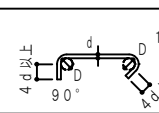
3 土木工事

3.1 鉄筋の折曲げ加工

鉄筋の折曲げ加工は、3.1.1表及び3.1.2表を標準とする。

(1) Dは、折曲げ内法直径を示す。

(2) dは、鉄筋直径(呼び名)を示す。

3.1.1表 鉄筋曲げ加工(1)				
位置	曲げ角度	折曲げ図及び折曲げ後の余長	曲げ内法直径	使用箇所
末端部	180°	 4d以上かつ60mm以上	5d以上	定着末端部
	135°	 6d以上かつ60mm以上	5d以上	
	90°	 12d以上	5d以上	スターラップ、帯鉄筋、フープ筋等
	90° 135°	 4d以上 90° 135° 4d以上	5d以上	
	中間部	90°	 D	5d以上
θ<90°		 D	10d以上	

3.1.2表 鉄筋曲げ加工(2)				
位置	曲げ角度	折曲げ図	曲げ内法直径	使用箇所
最上階	90°	 D	20d以上	ラーメン隅角部
一般階	90°	 D	5d以上	

3.2 異形鉄筋の末端部

異形鉄筋の末端部には、3.2.1表によりフックを設ける。

3.2.1表 フックを設ける位置				
部位	継手方式		備考	
	重ね継手	圧接継手		
柱	四隅の主筋	—	1) 最上階の柱頭	3.2.1 図の●印 3.8.1 図参照
	上下階の柱断面が異なる場合	—	1) 下階の柱主筋を引き通す事が出来ない柱頭部	3.2.1 図の●印 3.8.2 図参照
	帯筋(HOOP)	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部	3.9.1 図参照
梁	あばら筋(STP)	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部	3.12.1 図参照
杭基礎	独立フーチング基礎の底版筋	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部	3.25.1 図参照
	煙突の鉄筋	1) 末端部 2) 継手部	1) 末端部	壁の一部となる場合を含む
	幅止め筋	—	—	3.1.1 表参照

3.2.1 図 異形鉄筋の末端部

平面

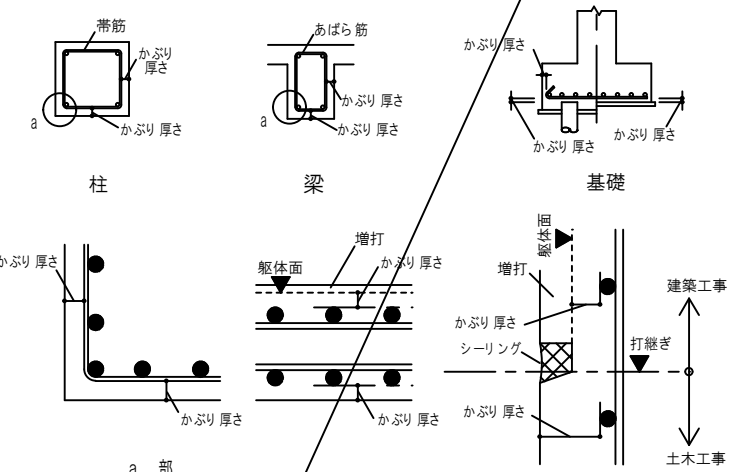
3.2.1 図 異形鉄筋の末端部

3.3 鉄筋のかぶり及び間隔

3.3.1 かぶり厚さ

かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋(幅止め筋を除く)の外面から躯体面までの距離(3.3.1図)をいう。

鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚に許容誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。



3.3.1 図 鉄筋のかぶり厚さ

3.3.2 最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは、3.3.1表による。

床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、均しコンクリートの厚さを含まない。

3.3.1表 鉄筋の最小かぶり厚さ(mm)					
※ 通常の施工の場合					
環境	部位	床版・スラブ・梁	柱・壁		
大気中		50	50		
水中・土中等		50	70		
※ 塩害対策地域の施工の場合					
対策区分	環境	部位	床版・スラブ・梁	柱・壁	底版・フーチング
Ⅰ	大気中	70	70	—	
	水中・土中等			70	
Ⅱ,Ⅲ	大気中	50	70	—	
	水中・土中等			70	

1：部位により最小かぶり厚さの判断が困難な場合は、監督職員の指示を得る。

2：杭基礎の底版・フーチング下端筋のかぶり厚さは、7.杭基礎の補強を参照する。

[注] 梁：大梁、小梁、基礎梁、片持梁をいう。

福岡県宗像市

工事年度	令和8年	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課	
工事名	田熊雨水ポンプ場整備工事(建築工事)	
河川名		
工事箇所	宗像市田熊一丁目	
図面の名称	構造細目共通図(1)	
縮尺	NOSCALE	図面番号 S-01

4 建築工事

4.1 鉄筋の折曲げ加工

鉄筋の折曲げ加工は、4.1.1表を標準とする。

- (1)Dは、折曲げ内法直径を示す。
(2)dは、鉄筋直径(呼び名)を示す。

4.1.1表 鉄筋の折曲げ形状及び寸法(末端部)

曲げ 角度	折 曲 げ 図	折曲げ内法直径(D)		使 用 箇 所
		SD295, SD345 D16 以下	D19 ～D38	
180°		3d以上	4d以上	柱、梁の主筋 D16以上の鉄筋
135°		3d以上	4d以上	D13以下の鉄筋 あばら筋、帯筋、スパイラル筋
90°		3d以上	4d以上	T形及びL形の梁の あばら筋
135° 90°		3d以上	4d以上	

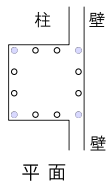
- (注)1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フック又は135° フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。
2. 90° 未満の折曲げの内法直径は図面による。

4.2 異形鉄筋の末端部

異形鉄筋の末端部には、4.2.1表によりフックを設ける。

4.2.1表 フックを設ける位置

部 位		継手方式		備 考
		重ね継手	圧接継手	
柱	四隅の主筋	——	1)最上階の柱頭部	4.2.1 図の●印 4.7.1 図参照
	上下階の柱断面が異なる場合	——	1)下階の柱主筋を引き通すことができない柱頭部	4.2.1 図の●印 4.7.2 図参照
	帯筋(HOOP)	1)末端部 2)継手部	1)末端部	4.8.1 図参照
梁	あばら筋(STP)	1)末端部 2)継手部	1)末端部	4.11.1
	煙突の鉄筋	1)末端部 2)継手部	1)末端部	壁の一部となる場合を含む図参照
	幅止め筋	——	——	4.1.1 表参照



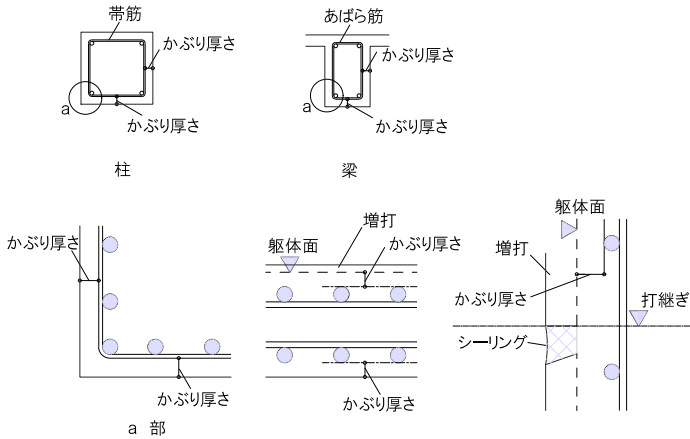
4.2.1図 異形鉄筋の末端部

4.3 鉄筋のかぶり及び間隔

4.3.1 かぶり厚さ

かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋(幅止め筋、組立筋を除く)の外面から躯体面までの距離(4.3.1図)をいう。

鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚さに許容施工誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。



4.3.1図 鉄筋のかぶり厚さ

4.3.2 最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは、4.3.1表による。

- (1)床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含まない。
(2)柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保して最小かぶり厚さを定める。
(3)溶接金網にも適用する。

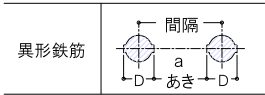
4.3.1表 鉄筋の最小かぶり厚さ(mm)

塩害区分 構造部分の種類		※ 通常の施工の場合	・ 塩害対策を 必要とする場合
一 般	床、耐力壁以外の壁	30	40
	柱、梁、耐力壁	40	50
	底版	40	50
土、水に 接する部分	柱、梁、床、壁	40	50
	底版、基礎	60	70
煙突等高熱を受ける部分		60	70
1:打継目地部分は目地底より最小かぶり厚さを確保する。 2:仕上なしの場合を標準とする。			

4.4 鉄筋相互のあき及び間隔

鉄筋相互のあきは、下記の最大値のもの以上とする。ただし、機械式継手及び溶接継手のあきは、図面による。

- (1)粗骨材の最大寸法の1.25倍
(2)最小のあき25mm
(3)異形鉄筋の直径(呼び径)の1.5倍以上



(注)D:鉄筋の最外径 d:鉄筋直径(呼び名)

4.4.1図 鉄筋のあき

4.4.1表 鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧

鉄筋径 (mm)		鉄筋相互のあき:a			最小鉄筋芯間隔 a+D
鉄筋径 d	最外径 D	(1) 粗骨材径×1.25	(2) 最小あき	(3) 鉄筋径×1.5	
D10	11	32mm	25mm	15mm	43mm
D13	14			20mm	46mm
D16	18			24mm	50mm
D19	21			29mm	53mm
D22	25			33mm	58mm
D25	28			38mm	66mm
D29	33			44mm	77mm

4.5 鉄筋の継手及び定着

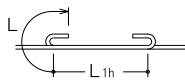
4.5.1 鉄筋の重ね継手

- (1)鉄筋の重ね継手及び定着の長さは、4.5.1表による。
(2)径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
(3)主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、40dとする。ただし、SD390、SD490を使用する場合は特記による。

4.5.1表 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の 種 別	コンクリートの 設計基準強度 Fc(N/mm ²)	L ₁ (フックなし)	L _{1h} (フックあり)
SD295	24 27	35d	25d
	30	35d	25d
SD345	24 27	40d	30d
	30	35d	25d

- (注)1. L₁、L_{1h}:フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合のL_{1h}は、4.5.1図に示すようにフック部分Lを含まない。



4.5.1図

4.5.2 継手の特記事項

- (1)継手は、極力応力の小さい位置に設ける。

4.5.3 鉄筋の定着

- (1)鉄筋の定着の長さは、4.5.2表による。

4.5.2表 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の 種 別	コンクリートの 設計基準強度 Fc(N/mm ²)	フックなし				フックあり			
		L ₁	L ₂	L ₃		L _{1h}	L _{2h}	L _{3h}	
				小梁	スラブ			小梁	スラブ
SD295	24, 27	35d	30d	20d	10d かつ 150mm 以上	25d	20d	10d	—
	30	35d	30d			25d	20d		
SD345	24, 27	40d	35d			30d	25d		
	30	35d	30d		25d	20d			

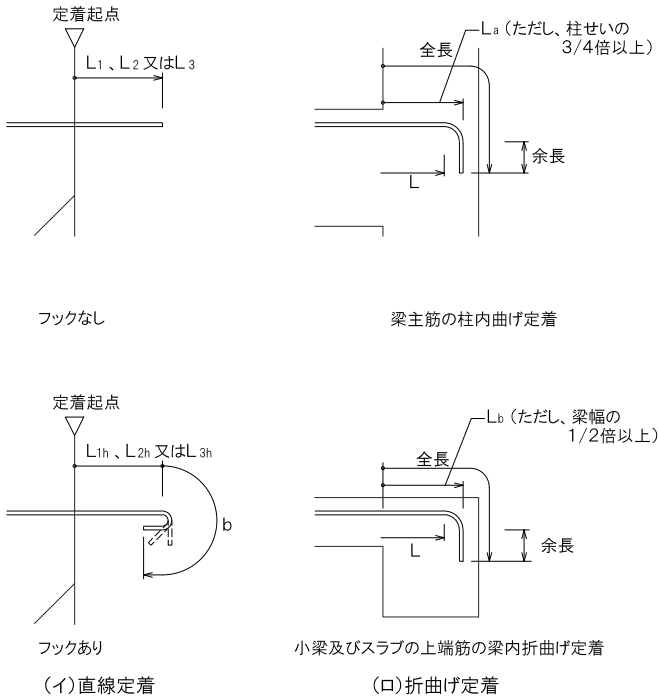
- (注)1. L₁、L_{1h}:2. 以外の直線定着の長さ及びフックありの長さ
2. L₂、L_{2h}:割裂破壊の恐れのない個所への直接定着の長さ及びフックありの定着の長さ
3. L₃:小梁及びスラブの下端筋の直筋の直線定着長さ(基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。)
なお、片持小梁及び片持スラブの場合は20d及び10dを25d以上とする。
4. L_{3h}:小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
5. フックありの定着の場合は、4.5.2図(イ)に示すようにフック部分bを含まない。
また中間部での折曲げは行わない。

4.5.4 定着の方法

定着の方法は4.5.2図による。

なお、(ロ)折曲げ定着の梁主筋の柱内折曲げ定着において、仕口内に縦に折曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、4.5.2表のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を4.5.2表に示すフックなし定着長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを4.5.3表に示す長さをのみ込ませる。

- (注)1. L_a、L_b は、4.5.3表の鉄筋の投影定着長さを示し、下記の条件を満たすものとする。
・梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せい⁽¹⁾の3/4倍以上
・小梁主筋の大梁内定着においては、原則として大梁幅の1/2倍以上
・スラブの梁内定着においては、原則として梁幅の1/2倍以上



4.5.2図 定着の方法

4.5.3表 鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の 種 別	コンクリートの 設計基準強度 Fc(N/mm ²)	L _a	L _b
SD295	24 27	15d	15d
	30	15d	15d
SD345	24 27	20d	15d
	30	15d	15d

- (注)1. L_a:梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ
(基礎梁、片持ちスラブを含む。)
2. L_b:小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ
(片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。)

福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	（平成30年）	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部	建築課	
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事	（建築工事）	
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	構造細目共通図	（2）	
縮 尺	NOSCALE	図面番号	S-02

4 建築工事

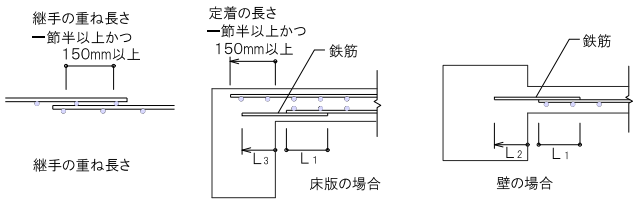
4. 5. 5 隣り合う継手の位置及び定着

- (1)隣り合う継手の位置は、4. 5. 4表により、a寸法を守ること。
ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合を除く。

4. 5. 4表 隣り合う継手の位置

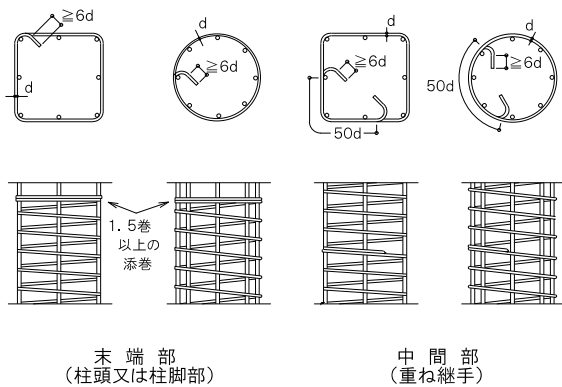
重ね継手	フック有りの場合		
		$a=0.5L_{1h}$	$a\geq 0.5L_{1h}$
	フックなしの場合		
		$a=0.5L_1$	$a\geq 0.5L_1$
圧接継手			
		$a\geq 400\text{mm}$	

- (2)溶接金網の継手及び定着は、4. 5. 3図による。



4. 5. 3図 溶接金網の継手及び定着要領

- (3)スパイラル筋の継手及び定着



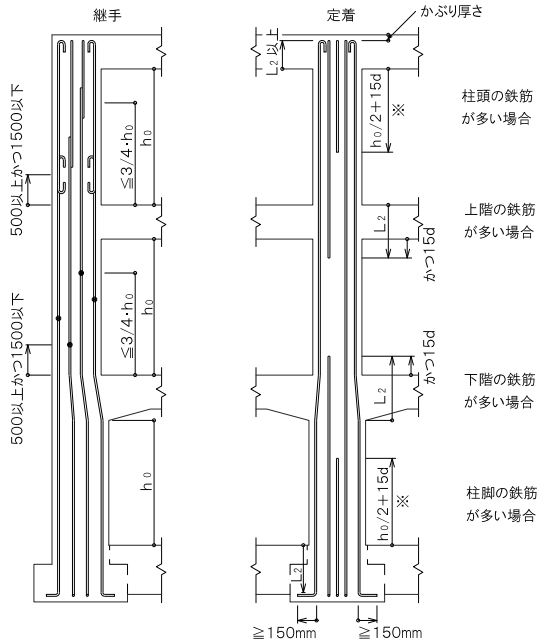
4. 5. 4図 スパイラル筋の継手及び定着要領

4. 6 (欠番)

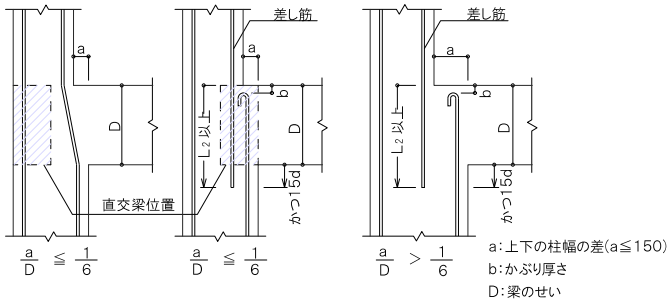
4. 7 柱筋の継手及び定着

4. 7. 1 隣り合う継手の位置及び定着

- (1)継手長さは l_1 とし、定着及び余長は、4. 7. 1図による。
(2)柱頭定着長さ l_2 が確保出来ない場合は、図面による。
(3)上下の柱断面が異なる場合の柱主筋の折曲げ及び定着は、4. 7. 2図による。
(4)柱の継手及び圧接中心位置は、梁上端から500mm以上、1500mm以下かつ $3/4h$ (h は柱の内法高さ)以下とする。
(5)※鉄筋のカットオフの位置及び長さは図面による。



4. 7. 1図 柱主筋の継手、定着及び余長

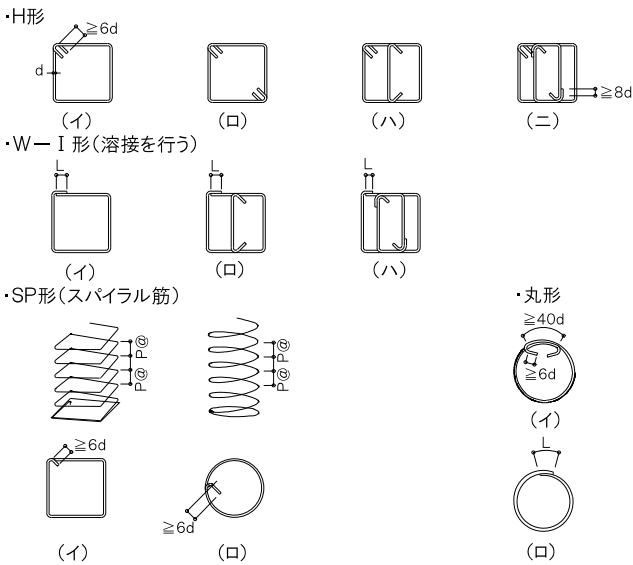


4. 7. 2図 上下の柱断面が異なる柱主筋の折曲げ及び定着

4. 8 帯筋

4. 8. 1 帯筋の形状

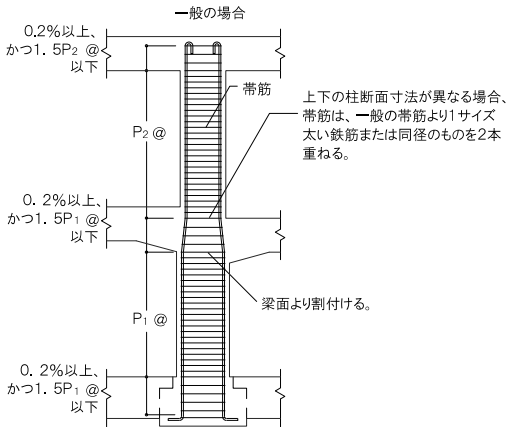
- (1)帯筋の形状は、4. 8. 1図とし、種別は図面による。図面になければ下記による。
(a)H形を標準とする。
(b)H形の135° 曲げのフックが困難な場合は、W－I 形とする。
(c)溶接する場合の溶接長さ L は、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とし、組立前に行う。
(d)SP形において、柱頭及び柱脚の端部は、1. 5巻以上の添巻きを行う。



4. 8. 1図 帯筋組立の形

4. 9 帯筋の割付け

- (1)フック及び継手の位置は交互とする。
(2)帯筋の割付けは、4. 9. 1図による。ただし、図面にある場合は図面による。
(3)柱、梁の交差部(パネルゾーン)の帯筋のせん断補強比は、0. 2%以上を確保し、補強筋間隔 $\leq 1. 5P$ とする。



4. 9. 1図 帯筋の割付け

柱、梁の交差部の配筋例(0. 2%確保)

柱幅(mm)	パネルゾーン
≤ 500	D10 @125
≤ 600	D10 @100
≤ 700	D10 @100
≤ 800	D13 @150
≤ 900	D13 @125
≤ 1000	D13 @125
≤ 1100	D13 @100
≤ 1200	D13 @100

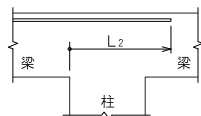
※1. 5P₁、1. 5P₂ のピッチは150mm以下とする。

4. 10 大梁筋の継手及び定着

4. 10. 1 大梁(基礎梁以外の大梁に限る)主筋の継手、定着及び余長

- (1)大梁主筋の継手及び定着の一般事項

- a. 梁主筋は、原則として、柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことが出来ない場合は、b. により柱内に定着することができる。
ただし、やむ得ず梁内に定着する場合は、4.10.1図による。

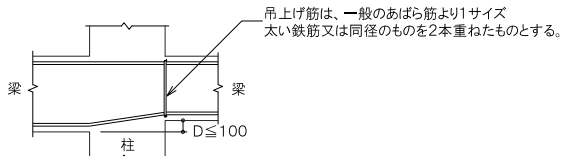


4. 10. 1図 梁主筋の梁内定着

- b. 梁主筋を、柱内に折曲げて定着する場合は次による。
なお、定着の方法は、4. 5. 4による。

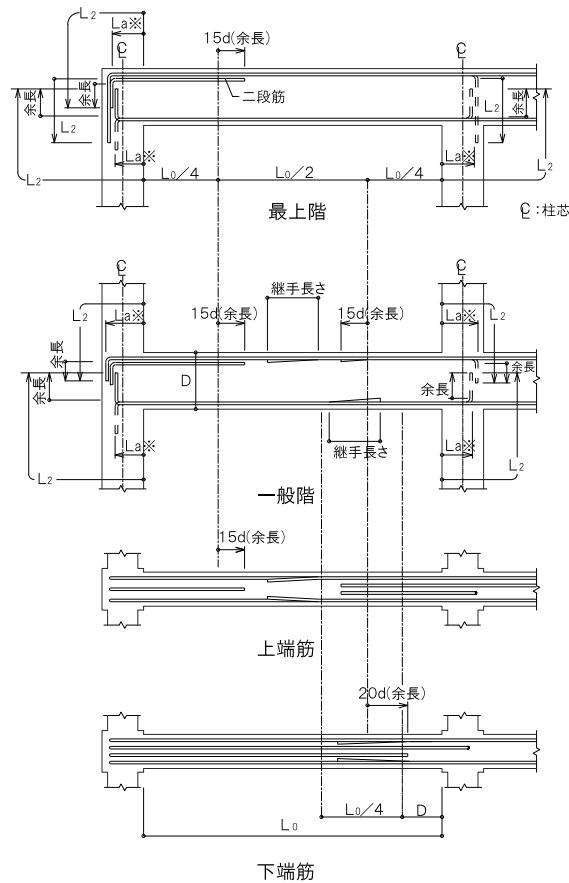
上端筋:曲げ下ろす。
下端筋:原則として曲げ上げる。

- c. 段違い梁は4. 10. 2図による。



4. 10. 2図 段違い梁

4. 10. 2 ハンチのない場合



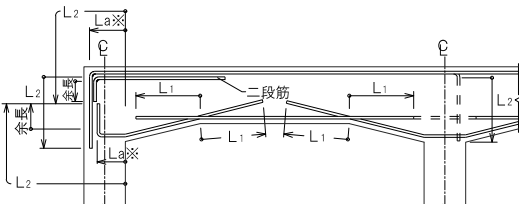
(注)1. 継手中心位置は次による。

- 上端筋:中央 $L_0/2$ 以内
下端筋:柱面より梁せい(D)以上離し、 $L_0/4$ を加えた範囲以内
2. 4. 2 異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。
3. 印は、継手及び余長を示す。
4. 破線は、柱内定着の場合を示す。
※ L_{al} は、原則として、4. 5. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。
5. 梁筋カットオフ位置及び余長は図面による。

4. 10. 3図 大梁の重ね継手、定着及び余長

4. 10. 3 ハンチのある場合

- (1)最上階の場合



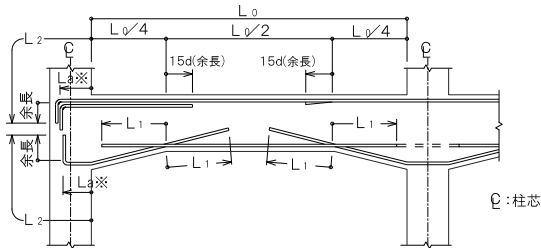
※ L_{al} は、原則として、4. 5. 3表の数値かつ柱せいの3/4倍以上とする。

4. 10. 4図 ハンチのある大梁の定着及び余長(最上階)

福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	（仮起工）	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工事名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河川名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	構造細目共通図（3）		
縮尺	NOSCALE	図面番号	S-03

4 建築工事

(2)一般階の場合



4. 10. 5図 ハンチのある大梁の定着及び余長(一般階)

(注)1. 4. 2 異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋には、フックを付ける。

2. ≡印は、継手及び余長を示す。

3. 梁内定着の端部下端筋が接近するときは、のようになり引き通すことができる。

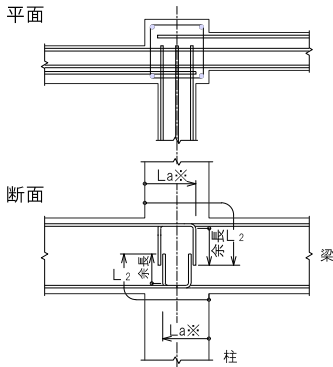
4. 破線は、梁内定着の場合を示す。

※ Laは、原則として、4. 5. 3表の数値かつ柱せいの3／4倍以上とする。

5. 梁筋カットオフ位置及び余長は図面による。

4. 10. 4 水平段差のある場合

(1)水平段差のある場合

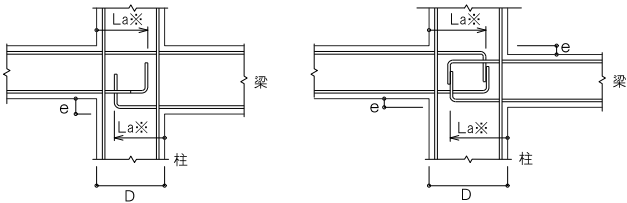


※ Laは、原則として、4. 5. 3表の数値かつ柱せいの3／4倍以上とする。

4. 10. 6図 大梁の定着及び余長(水平段差のある場合)

4. 10. 5 鉛直段差(e)のある場合

(1)e／D≤1／6の場合

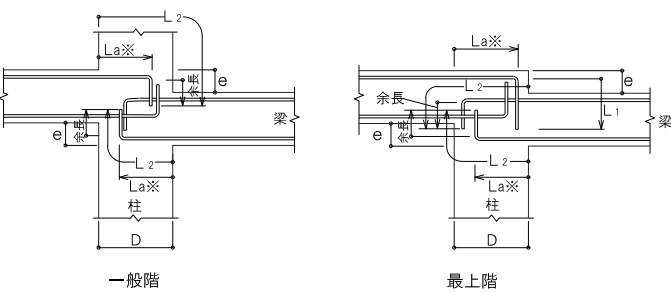


定着の長さは、4. 10. 2図に準ずる

※ Laは、原則として、4. 5. 3表の数値かつ柱せいの3／4倍以上とする。

4. 10. 7図 鉛直段差梁(その1)

(2)e／D>1／6の場合



一般階

最上階

※ Laは、原則として、4. 5. 3表の数値かつ柱せいの3／4倍以上とする。

4. 10. 8図 鉛直段差梁(その2)

4. 11 梁のあばら筋、腹筋及び幅止め筋

4. 11. 1 一般事項

(1)腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。

(2)壁梁の場合、腹筋の定着長さ及び継手長さは、L する。2

(3)土圧、水圧を受ける梁は、図面による。

(4)幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10ー1000mmピッチ程度とする。

4. 11. 2 あばら筋組立の形及びフックの位置

(1)形は、4. 11. 1図(イ)を標準とする。

ただし、(イ)によることが出来ない場合は、下記の方法によることが出来る。

a. 床版が片側に付く場合は、(ロ)又は(ハ)

b. 床版が両側に付く場合は、(ロ)～(ニ)

(2)フックの位置

a. (イ)の場合は交互とする。

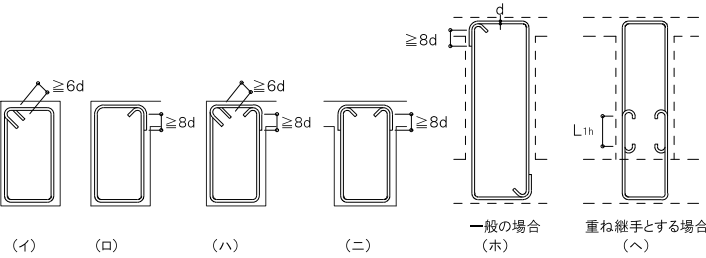
b. (ロ)の場合 床版が片側に付く場合は床版の付く側

床版が両側に付く場合は交互

c. (ハ)の場合は床版の付く側を90° 折曲げ、8d確保する。

d. (ホ)(ヘ)の場合は梁の上下にスラブが付く場合でかつ、梁せいが

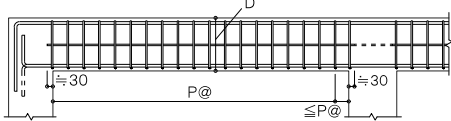
1. 5m以上の場合に適用する事ができる。(基礎梁)



4. 11. 1図 あばら筋組立の形及びフックの位置

4. 11. 3 あばら筋の割付け

(1)間隔が一樣でハンチのない場合

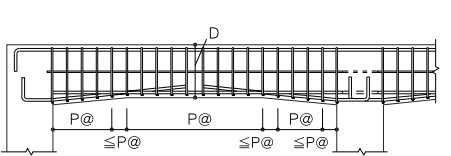


(注)1. あばら筋は、柱面の位置から割付ける。

2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

4. 11. 2図 あばら筋の割付け(その1)

(2)間隔が一樣でハンチのある場合

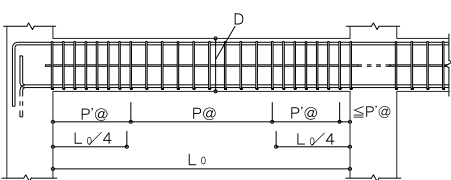


(注)1. あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割付ける。

2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

4. 11. 3図 あばら筋の割付け(その2)

(3)梁の端部で間隔の異なる場合



(注)1. あばら筋は、柱面の位置から割付ける。

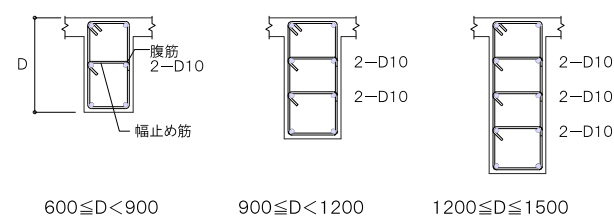
2. 図中のP@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

4. 11. 4図 あばら筋の割付け(その3)

4. 11. 4 腹筋及び幅止め筋

(1)一般の梁

a) 腹筋及び幅止め筋



600≤D<900 900≤D<1200 1200≤D≤1500

4. 11. 5図 腹筋及び幅止め筋

(2)特殊な梁

腹筋及び幅止め筋は、図面による。

4. 12 小梁及び片持梁の配筋要領

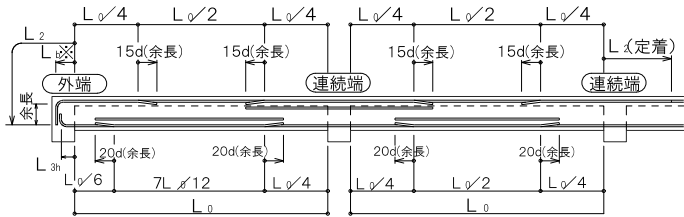
4. 12. 1 一般事項

(1)図面がない事項は大梁、梁のあばら筋の項に準ずる。

(2) ≡印は、継手及び余長を示す。

4. 12. 2 小 梁

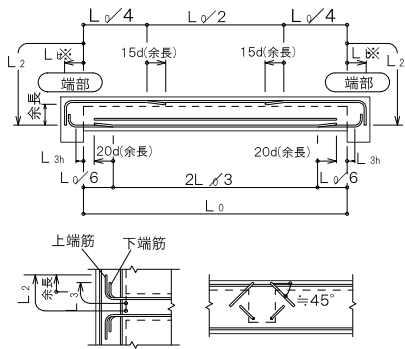
(1)連続小梁の場合



※ L の数値は、原則として、4. 5. 3表の数値かつ梁幅の1／2倍以上とする。

4. 12. 1図 小梁主筋の継手、定着及び余長(その1)

(2)単独小梁の場合



4. 12. 2図 小梁主筋の継手、定着及び余長(その2)

(注)1. ≡印は、継手及び余長を示す。

2. 梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。

※ L は、原則として、4. 5. 3表の数値かつ梁幅の1／2倍以上とする。

4. 12. 3 片持梁筋の定着

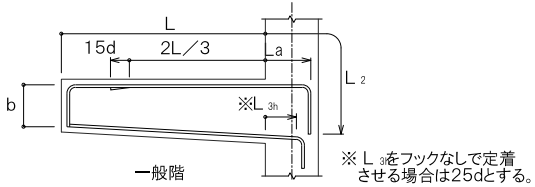
(1)先端に小梁のない場合

a. 先端の折曲げの長さbは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。

b. 梁筋を引き通さない場合は、取り合い部材に定着する。ただし、柱に

取り合う場合は、全数を引き通すことができる場合でも、上端筋は、

2本以上を柱に定着する。



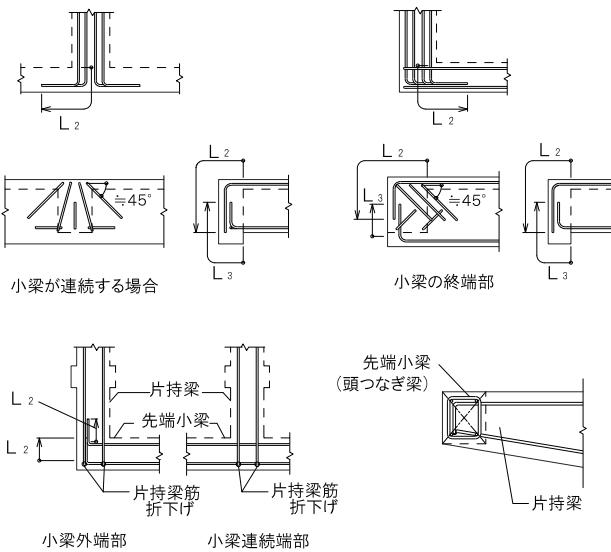
4. 12. 3図 片持梁主筋の定着及び余長(先端に小梁のない場合)

(2)先端に小梁がある場合

a. 上端筋は、先端小梁内に斜めに定着する。

b. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。

c. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。



4. 12. 4図 片持梁主筋の定着

福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	（仮起）	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部	建築課	
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	構造細目共通図（4）		
縮 尺	NOSCALE	図面番号	S-04

4.13 壁の配筋要領

(1) 一般壁配筋の

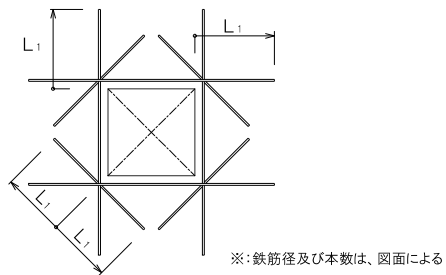
Figure 4.13.1 illustrates the reinforcement of a wall. The main diagram shows a plan view of a wall section with dimensions L_1 and L_2 . The wall is reinforced with a grid of bars. Labels include '主筋位置' (main bar position), '梁' (beam), '柱' (column), and 'P@' (spacing). A cross-section view on the right shows the wall, beam, and column with labels for '床版' (slab), '梁' (beam), '柱' (column), and '壁' (wall). The cross-section also shows the '断面' (section).

(注) 図中のP@は、図面の壁筋の間隔を示す

4. 13. 1 図 壁の配筋

- (1)耐震壁等の開口は、図面以外は設けてはならない。
- (2)やむを得ず開口をあける場合は、H19国土交通省告示593号の規定を満足することを構造計算によって確認すること。

(1)壁開口部の補強は、図面による。補強筋の長さ及び位置は、4. 13. 3図を標準とする。



4.13.3図 壁開口部の補強の定着長さ

[illegible]

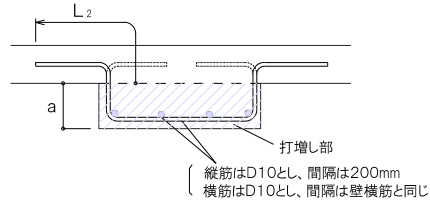
4.13.4図 壁の交差部及び端部の配筋

※壁構造の場合は、「壁構造配筋指針・同解説」(日本建築学会)に基づき図面による。

コンソートボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記によるほか、配管等での壁の打増し補強筋は、4、14、1図による。

打増し厚さのaが50mm以上、200mm以下に適用する。

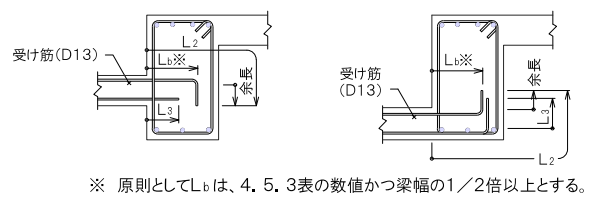
200mmを越える場合は、特記による。



4.14.1図 壁の打増し補強配筋

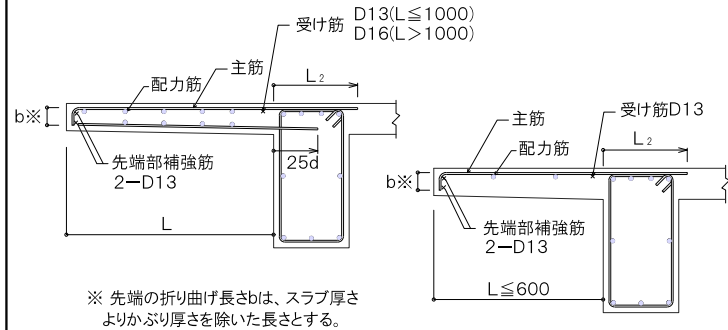
4.15.1図 スラブ筋の定着長さ
及び受け筋(その1)

4. 15. 2図 スラブ筋の定着長さ
及び受け筋(その2)



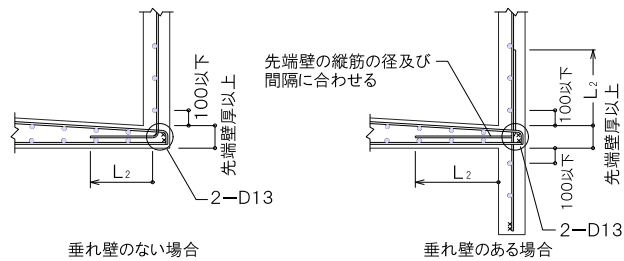
4.15.3図 スラブ筋の定着長さ及び受け筋(その3)

(1) 片持スラブの配筋



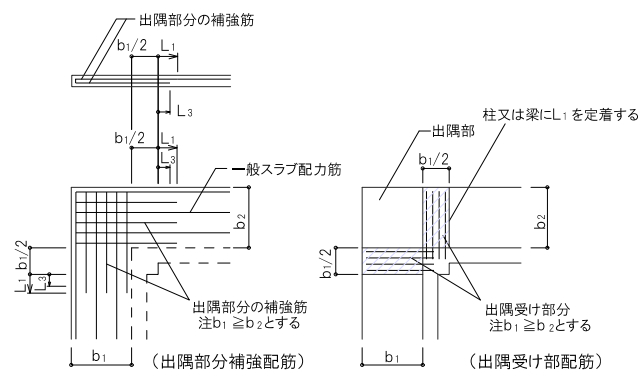
4.15.4図 片持スラブの配筋

(2)先端に小梁がなく壁が取り付く場合



4. 15. 5図 先端に壁が付く場合の配筋

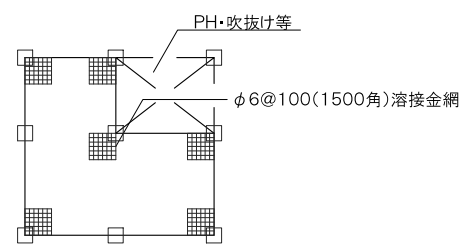
(1)出隅部の補強筋は図面により、配筋方法は、4. 15. 6図による。
(2)出隅受け部分(図のハッチ部分)の配筋は、図面による。



4. 15. 6図 片持スラブ出隅部の補強配筋

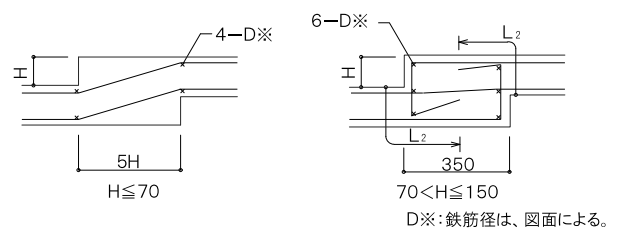
(1) 出隅及び入隅部分には、4. 15. 7図により、補強筋(溶接金網)を上端筋の下側に配筋する。

(2) 陸屋根、勾配屋根共通とする。



4.15.7図 出隅及び入隅部分の補強配筋

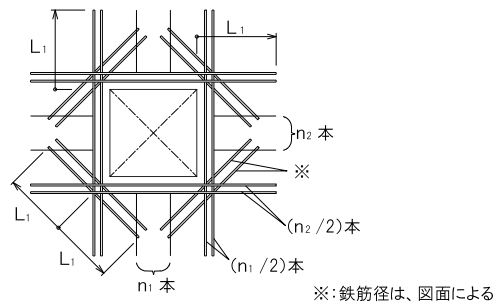
(1)同一床版に段差がある場合、4. 15. 8図の補強を行う。ただし、 $H>150$ の場合は、小梁を設ける事を原則とする。



4.15.8図 段差のある床版の補強配筋

(1) 開口の最大径 ≤ 700 の場合は、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部には、斜め方向に主筋径以上の鉄筋2本を上下筋の内側に配筋する。(4.15、9図)

開口の最大径 > 700 の場合は図面による。



4.15.9図 床版開口部の補強配筋

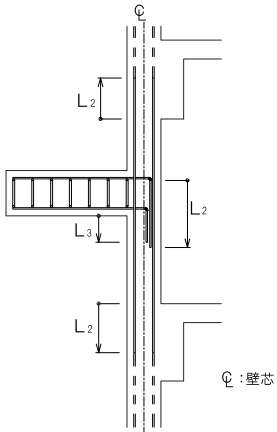
(2)床版開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることで開口部を避けて配筋できる場合は、補強筋を省略することができる。

福 岡 県 宗 像 市			
工事年度	令和 8 年	（起 期） 災 害 発 生	起 工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	構造細目共通図（５）		
縮 尺	NOSCALE	図面番号	S-05

4 建築工事

4. 17 階段の配筋要領

- (1)壁配筋は、図面による。
(2)階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に曲げ下ろす。

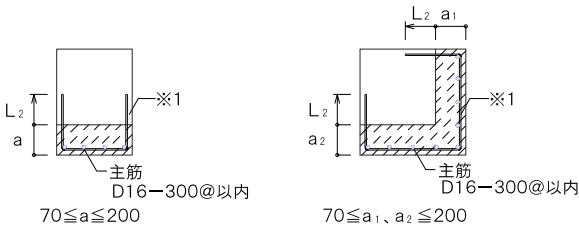


4. 17. 1 図 片持スラブ形階段配筋の定着

4. 18 柱及び梁の増し打ち要領

4. 18. 1 柱

- (1)増し打ちコンクリートの補強は、4. 18. 1 図による。
ただし、 $a < 70\text{mm}$ の場合、補強は行わない。 $200\text{mm} < a$ の場合は、図面による。



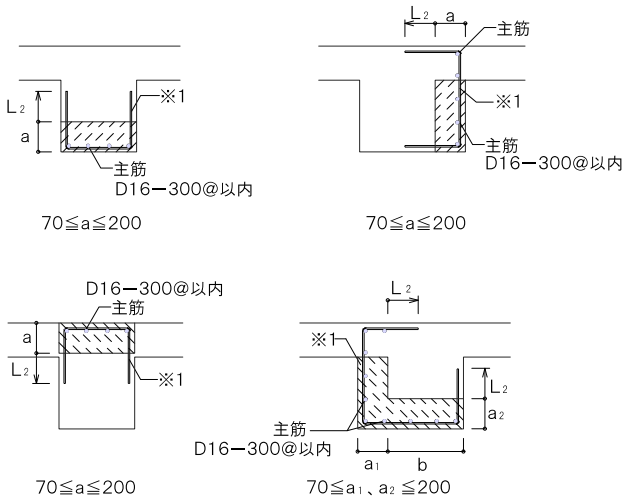
※1. 帯筋と同径・同材質・同ピッチとする。

4. 18. 1 図 柱の増し打ち補強配筋

- (2)増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合を除く。
(3)増し打ち部分の帯筋の定着長さは、 L_2 以上とする。
(4)増し打ち部分主筋の定着、重ね長さは、柱の主筋による。

4. 18. 2 梁

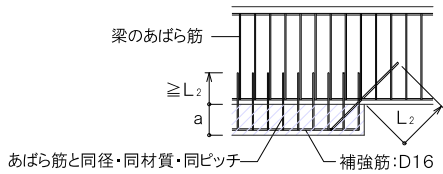
- (1)増し打ちコンクリートの補強は、4. 18. 2 図による。ただし、
 $a < 70\text{mm}$ の場合、補強は行わない。 $200\text{mm} < a$ の場合は、図面による。



※1. あばら筋と同径・同材質・同ピッチとする。

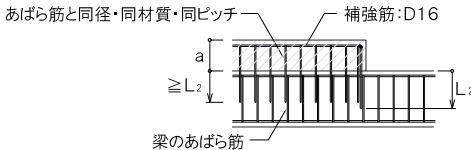
4. 18. 2 図 梁の増し打ち補強配筋

- (2)増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合を除く。
(3)増し打ち部分のあばら筋の定着長さは、 L_2 以上とする。
(4)増し打ち部分の主筋の定着、重ね長さは、梁の主筋による。
(5)梁の上下の増し打ちが途中で終わる場合



4. 18. 3 図 梁の上下の増し打ち補強配筋(途中で終わる場合)

- (6)梁の側面の増し打ちが途中で終わる場合



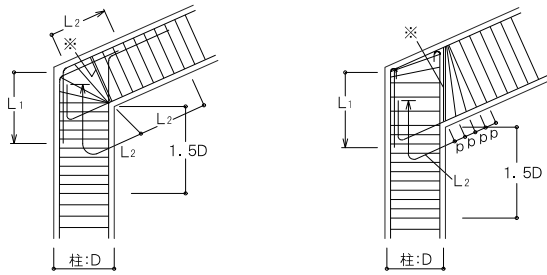
4. 18. 4 図 梁の側面の増し打ち補強配筋(途中で終わる場合)

4. 19 勾配屋根の取り合い

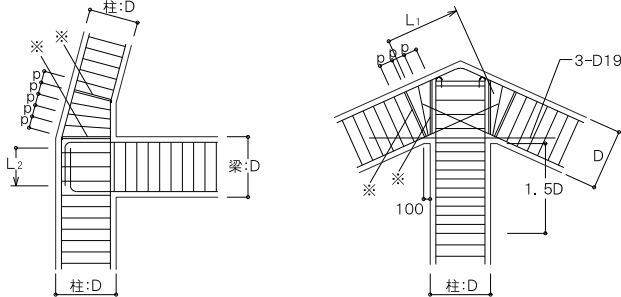
4. 19. 1 斜め柱・斜め梁の取り合い

- (1)※印の鉄筋は、同径以上とし、かつダブル巻きとする。
(2)1. 5D の範囲の柱の帯筋は一段太いものか、またはダブル巻きとし@100 以下とする。
(3)柱の取合い部における斜め梁のせん断補強筋中心間隔は、当該梁部材のせん断補強筋中心間隔p 以下とする。

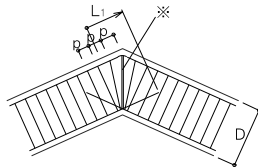
- a) 柱幅と斜材(柱又は梁)幅が同一 b) 柱幅と斜材幅が異なる



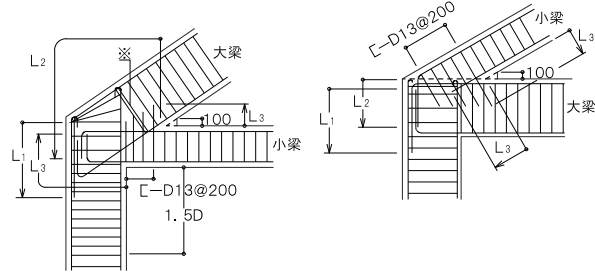
- c) 柱脚で斜材となる d) 柱頭で斜材となる上端筋は、連続筋とする。



- e) 梁が斜材となる上端筋は、連続筋とする。



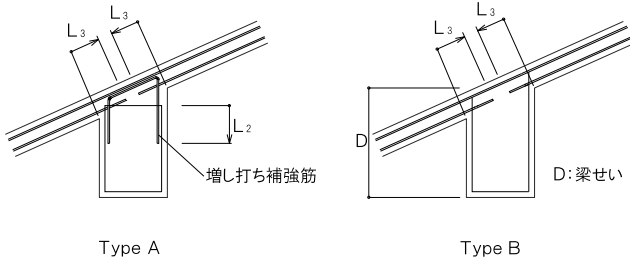
- f) 斜め大梁に小梁が接する場合 柱筋はa)、b)に倣う。 g) 大梁に斜め小梁が接する場合



4. 19. 1 図 斜め柱・斜め梁の取り合い配筋

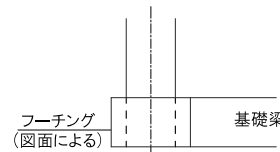
4. 19. 2 梁と床版の取り合い

増し打ち補強要領は、4.19. 2 図による。



4. 19. 2 図 梁と床版の取り合い配筋

4. 19. 3 円柱の取り合い



- 3) 柱脚部の円柱と基礎との
取合い

4. 19. 3 図 円柱の取り合い配筋

福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	（仮起工）	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	構造細目共通図（6）		
縮 尺	NOSCALE	図面番号	S-06

回転貫入鋼管杭工法 設計施工仕様書（１）

注記
・本図は参考とし、使用する鋼管杭工法の仕様による。
・榊三誠 G-ECSパイル工法同等以上

【許容支持力および適用範囲】

件 名

回転貫入鋼管杭工法

（先端地盤：砂質地盤（れき質地盤を含む））

（先端地盤：粘土質地盤）

2 押込み方向支持力

本工法により施工される基礎ぐいの許容支持力を定める際に求める長期並びに短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力

１）長期に生ずる力に対する地盤の許容支持力（kN）

$$Ra = \frac{1}{3} \left\{ \alpha \overline{N}ap + (\beta \overline{Ns}Ls + \gamma \overline{qu}Lc) \psi \right\}$$

２）短期に生ずる力に対する地盤の許容支持力（kN）

$$Ra = \frac{2}{3} \left\{ \alpha \overline{N}ap + (\beta \overline{Ns}Ls + \gamma \overline{qu}Lc) \psi \right\}$$

ここで、

α ： くい先端支持力係数（砂質地盤（れき質地盤を含む） $\alpha=1.8.4$ ）
（粘土質地盤 $\alpha=1.5.0$ ）

β ： 砂質地盤におけるくいの周面摩擦力係数（ $\beta=0$ ）

γ ： 粘土質地盤におけるくいの周面摩擦力係数（ $\gamma=0$ ）

$\overline{N}$ ： 基礎ぐいの先端付近（くい先端より下方に1Dw（Dw：基礎ぐい先端の実断面積（Ag）と等価な円の直径 以下、等価円直径と呼ぶ）、上方に1Dwの範囲）の地盤の標準貫入試験による打撃回数（N値）の平均値（回）

（砂質地盤（れき質地盤を含む） $5 \leq \overline{N} \leq 6.0$ ）
（粘土質地盤 $1.0 \leq \overline{N} \leq 5.0$ ）

Ap： 基礎ぐいの先端翼部の有効断面積（m²）
Ap=e・Ag
e： 有効率（くい径300mm未満で1.0 300mm以上で0.97）
Ag： 基礎ぐい先端の実断面積（m²）

$\overline{Ns}$ ： 基礎ぐい周囲の地盤のうち砂質地盤の標準貫入試験による打撃回数の平均値（回）

$\overline{Ls}$ ： 基礎ぐい周囲の地盤のうち砂質地盤に接する有効長さの合計（m）

$\overline{qu}$ ： 基礎ぐい周囲の地盤のうち粘土質地盤の一軸圧縮強度の平均値（kN/m²）

$\overline{Lc}$ ： 基礎ぐい周囲の地盤のうち粘土質地盤に接する有効長さの合計（m）

ψ ： 基礎ぐい周囲の有効長さ（m）

基礎ぐい先端の実断面積（Ag）

く い 径 Dp (mm)	114.3	139.8	165.2	190.7	216.3	267.4	318.5	355.6	406.4 (400)
基礎ぐい先端の実断面積 Ag (m ²)	0.0514	0.0780	0.1089	0.1562	0.1993	0.2884	0.4184	0.4359	0.5263

※ Dp：一般部くい径

基礎ぐいの先端翼部の有効断面積（Ap）および等価円直径（Dw）

く い 径 Dp (mm)	114.3	139.8	165.2	190.7	216.3	267.4	318.5	355.6	406.4 (400)
基礎ぐい先端の有効断面積 Ap (m ²)	0.0514	0.0780	0.1089	0.1562	0.1993	0.2884	0.4058	0.4228	0.5105
等価円直径 Dw (mm)	256.9	314.7	372.3	446.0	503.7	606.0	729.9	745.0	818.6

※ Dp：一般部くい径

3 くい体から決まる長期許容支持力

$$Na = \frac{F^*}{1.5} Ae (1-\alpha 1-\alpha 2)$$

$$F^* = F \cdot (0.80+2.5 \cdot te/r) \quad (0.01 \leq te/r < 0.08)$$

$$F^* = F \quad (te/r \geq 0.08)$$

F： 設計基準強度（N/mm²） Ae： 腐食しろを除いた鋼管の断面積（mm²）

r： 鋼管の半径（mm） te： 腐食しろを除いた鋼管の厚さ（mm）

$\alpha 1$ ： 長さ径比による低減率（ $L>100 Dp$ の場合 $\alpha 1=(L/Dp-100)/100$ ）

$\alpha 2$ ： 溶接継手による低減率（ $\alpha 2=0$ ）

4 引抜き方向の短期支持力

１）地盤から定まる引抜き方向の短期支持力（kN）

$$tRa = \frac{2}{3} \kappa \overline{Nt} Atp + Wp$$

ここで、

α ： くい先端支持力係数（砂質地盤（れき質地盤を含む）： $\kappa=5.6$ ）
（粘土質地盤： $\kappa=5.6$ ）

$\overline{Nt}$ ： 基礎ぐいの先端付近（くい先端より上方に3Dw（Dw：基礎ぐい先端の実断面積（Ag）と等価な円の直径 以下、等価円直径と呼ぶ）の範囲）の地盤の標準貫入試験による打撃回数（N値）の平均値（回）

*砂質地盤（れき質地盤を含む）の場合： $1.0 \leq \overline{Nt} \leq 6.0$

ただし、 $\overline{Nt}$ を求めるための個々のN値については $N<5$ の場合は $N=0$

$N>100$ の場合は $N=100$ とする。

*粘土質地盤の場合： $5 \leq \overline{Nt} \leq 5.0$

ただし、 $\overline{Nt}$ を求めるための個々のN値については $N<2$ の場合は $N=0$

$N>50$ の場合は $N=50$ とする。

Atp： 基礎ぐいの先端の有効面積（m²）

$$Atp = (Dw^2 - Dp^2) \pi / 4$$

Dw： 基礎ぐい先端の実断面積と等価な円の直径（以下、等価円直径と呼ぶ）

Dp： くい径

Wp： 浮力を考慮したくい有効自重（kN）

2）くい体から定まる引抜き方向の短期支持力※

$$tNa = F Ae$$

F： 設計基準強度（N/mm²） Ae： 腐食しろを除いた鋼管の断面積（mm²）

5 適用範囲

１）適用する地盤の種類

*くいの許容支持力（押込み方向）

基礎ぐいの先端地盤： 砂質地盤（れき質地盤を含む）
粘土質地盤（φ267.4まで）（BGJ基評-FD0178-01）

*引抜き方向の短期支持力（φ267.4まで）

基礎くいの先端地盤： 砂質地盤（れき質地盤を含む）
粘土質地盤

2） 最大施工深さ

基礎ぐいの軸部径Dpの130倍もしくは41.50mのいずれか小さい方とする。

最大施工深さ		（施工地盤面より）							
杭 径 Dp (mm)	114.3	139.8	165.2	190.7	216.3	267.4	318.5	355.6	406.4 (400)
最大施工深さ(m)	14.86	18.17	21.48	24.79	28.12	34.76	41.40	41.50	41.50

※引抜き支持力を適用するくいについては、くい径267.4の最大施工深さは
先端地盤が砂質（れき質）地盤の場合33.0m、粘土質地盤の場合31.7m

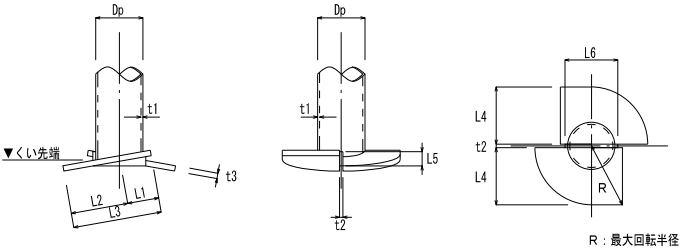
3） 適用する建築物の規模

床面積の合計が500,000m² 以下のものとする。

【回転貫入鋼管杭の構造・規格】

1 鋼管杭寸法

（単位は全て mm）										
Dp	t1	t2	t3	L1	L2	L3	L4	L5	L6	R
114.3	4.5 6.0	12	16	70	140	210	140	38	135	162
139.8	4.5 6.6	12	19	90	170	260	170	44	165	198
165.2	5.0 7.1	12	19	110	200	310	200	50	185	234
190.7	5.3 7.0	16	22	130	240	370	240	80	225	280
216.3	8.2 10.3 12.7	16	22	150	270	420	270	90	250	316
267.4	8.0 9.3 12.7 19.0	19	28	180	325	505	325	110	305	380
318.5	6.9 10.3 12.7 19.0	22	32	220	390	610	390	110	360	457
355.6	9.5 12.7 19.0	22	32	220	400	620	400	110	390	466
(400)	9.0 12.0	25	36	240	440	680	440	125	440	512
406.4	9.5 12.7 19.0	25	36	240	440	680	440	125	440	512



※掘進が困難と想定される地盤では掘削刃付きタイプを使用する。

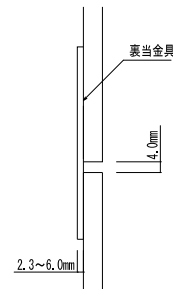
2 鋼管杭の材質

部 位	使 用 材 料
基礎ぐいの軸部	● JIS G 3444（1994）に定めるSTK400及びSTK490 ○ JIS A 5525（1994）に定めるSKK400及びSKK490 ○ JIS G 3475（1996）に定めるSTKN400W、STKN400B及びSTKN490B
くい先端部の翼及び組立板	● JIS G 3101（1995）に定めるSS400 ○ JIS G 3106（1999）に定めるSM400A、SM400B、SM400C、SM490A、SM490B、SM490C、SM490YA、SM490YB
キー材、掘削刃及び裏当て金具	● JIS G 3101（1995）に定めるSS400 ○ JIS G 3106（1999）に定めるSM400A、SM400B、SM400C、SM490A、SM490B、SM490C、SM490YA、SM490YB

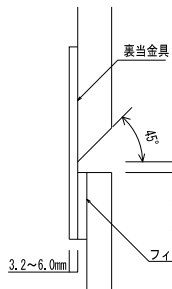
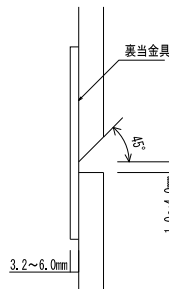
3 継手

1） 溶接継手標準図

○ φ139.8以下の場合



○ φ165.2以上の場合



（上・下杭肉厚が同じ場合） （上・下杭肉厚が異なる場合）

・溶接方法： セルフシールドアーク溶接
・適用くい径： Dp=165.2mm～406.4mm

2） 機械式継手

機械式継手の施工は、評価機関等による評価・評定・技術評価を得たものなど、継手の性能が

明らかになっているものとし、当該の機械式継手の適用範囲や施工指針に従い施工をする。

【小口径鋼管くい用無溶接継手】

・適用くい種： 小口径鋼管くい
・適用くい径： Dp=165.2mm～267.4mm

・使用鋼材

JIS G 3444（一般構造用炭素鋼鋼管）： STK400、STK490

JIS G 3475（建築構造用炭素鋼鋼管）： STKN400W、STKN400B、STKN490B

福 岡 県 宗 像 市			
工事年度	令和 8 年	（度 起 止）	起 工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部	建築課	
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	回転貫入鋼管杭工法 設計施工仕様書（１）		
縮 尺	NOSCALE	図面番号	S-07

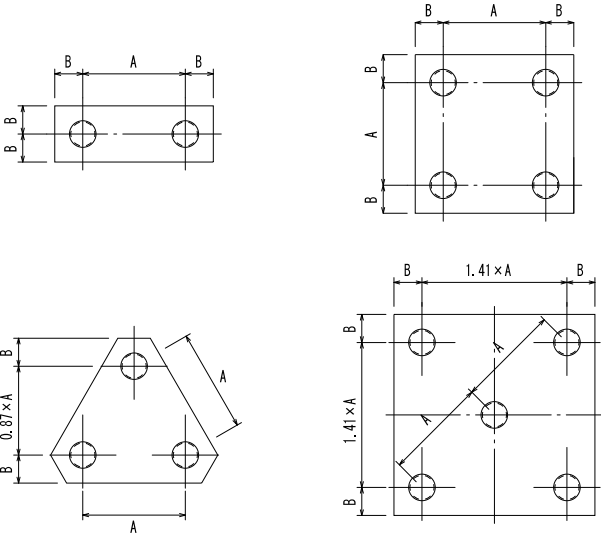
回転貫入鋼管杭工法 設計施工仕様書（２）

注記
・本図は参考とし、使用する鋼管杭工法の仕様による。
・㈱三誠 G-ECSパイル工法同等以上

【くい芯間隔とへりあきの推奨値】

・くい芯間隔とへりあきの推奨値を以下に示す。

くい芯間隔とへりあきの推奨値 (単位は全て mm)									
くい 径 D _p (mm)	114.3	139.8	165.2	190.7	216.3	267.4	318.5	355.6	406.4 (400)
くい芯間隔 A	440	540	640	760	850	1030	1300	1300	1500
へりあき B	140	150	175	210	240	300	400	400	500



【くい頭部の接合例】

・くい頭部の接合例を以下に示す。

●タイプA

引抜き力を負担しないくいの場合

くい頭部をフーチング内に軸部径（D_p）以上埋め込ませる。
吊り型枠を設置する。
中詰めコンクリート20Dpを確保する。

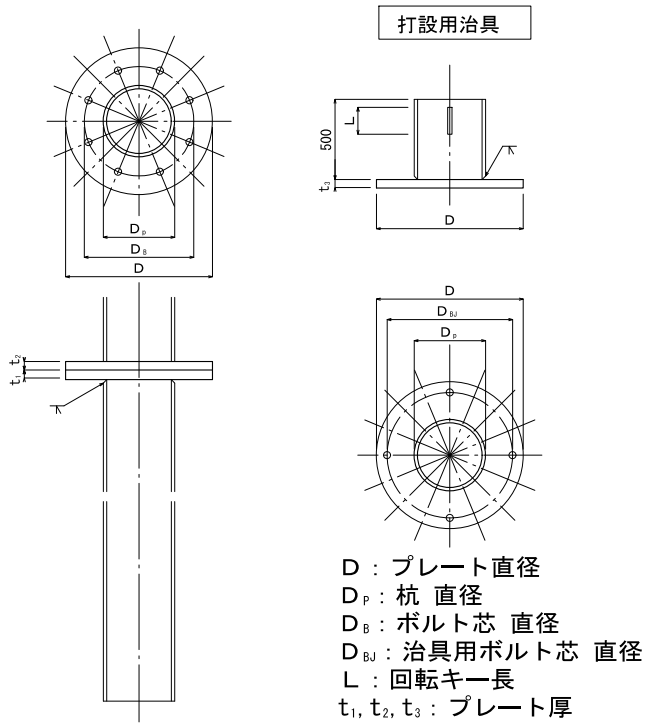
引抜き力を負担させるくいの場合

くい頭部をフーチング内に軸部径（D_p）以上埋め込ませる。
くい頭溶接の鉄筋は引抜き力だけを負担する。
吊り型枠を設置する。
中詰めコンクリート20Dpを確保する。

○タイプB

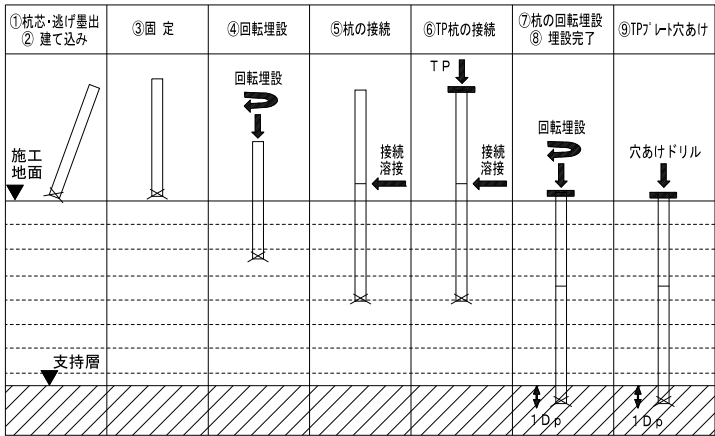
くい頭部をフーチング内に(5d+70)mm程度埋め込ませる。
吊り型枠を設置後、鉄筋を溶接する。
(※くい頭鉄筋については、別途検討が必要)

【柱・梁の接合】



D：プレート直径
D_P：杭 直径
D_B：ボルト芯 直径
D_{BJ}：治具用ボルト芯 直径
L：回転キー長
t₁, t₂, t₃：プレート厚

【施工手順図】



- 管理値
水平管理値は直角2方向 20mm以内、レベル管理値は 0～10mmとする。
くいの水平変位の管理は、レーザー測距器 又はステンレス製定規等を使用する。
- 施工手順
 - 逃げくいは、直角方向2箇所設定する。
基準は、地面に固定したもの(鉄板等)に印す。
 - TPくい(上くい)に、TP治具を取付け、回転埋設する。
 - 使用する回転貫入鋼管杭工法の打止め管理基準を満足していることを確認し、所定レベル 0～10mmで埋設完了とする。
 - テンプレートをを用いて、トッププレートの上にボルト穴の墨出しを行い、位置再確認の後、ボルト穴空けドリルにより施工する。

【施工管理方法】

回転貫入鋼管杭工法では、以下の管理方法により現場ごとの「支持層確認管理値」を決定し、くいの先端が確実に支持層に到達していることを確認して、打ち止め管理を行う。

（PR値）

・回転貫入鋼管杭工法では、「PR値」により施工管理を行う。

「PR値」・・・くい1回転あたりの地中への貫入量

（施工管理方法）

- 本ぐいの施工に先立ち、地盤調査（標準貫入試験）位置または近傍にて試験ぐいの施工を行う。試験ぐいでは、地表面からくい先端所定位置まで全長に渡り、深度・PR値・トルクを測定し、地盤調査資料と比較して整合性を検証する。このとき、地盤調査位置近傍に本ぐいがある場合には、これを試験ぐいとして行うことができる。

※くい先端所定位置：設計上必要とされるN値の発現深度

- 試験ぐいに不整合が無ければ、試験ぐいの施工データと比較しながら本ぐいを3本施工し、支持層上端より1.0m上部（引抜き方向の支持力を負担させるくいについては3Dwかつ1.0m上部）から試験ぐいと同一の押圧力でPR値を測定する。

- 試験ぐいを含めた管理値設定ぐい計4本について、支持層上端におけるPR値の平均値を求める。また、合わせてトルクの最小値を求める。

- 3）で求めた平均値の130%を当該現場における「支持層確認管理値」とする。また、トルクの最小値とバラツキの適度を考慮して打止め参考トルクを設定する。

- 本ぐいの施工時には、支持層上端と想定される深度より1.0m上部（引抜き方向の支持力を負担させるくいについては3Dwかつ1.0m上部）から試験ぐいと同一の押圧力でPR値・トルクを測定し、「支持層確認管理値」以下となった深度を支持層上端とする。

- 支持層上端より1Dp以上くいを根入れし、打ち止めとする。
このとき、根入れのためにくいの逆転・反復掘削は行わない。

但し、D_p：くいの軸部径の直径。

※ PR値が「支持層確認管理値」以下となった後、根入れの際に

・施工トルクがくい体の短期許容ねじり強さを超える場合。

・PR値が「支持層確認管理値」の30%以下となる場合。

には、1Dpの根入れと同等として扱う。

- くいの高止まり時の処置

打ち止め条件は満たしているが、貫入が困難な場合で支持層上端以深の地盤にN値の落ち込みがないことが確実な場合は、その位置で打ち止めとし、くい頭は地面で切断とする。

高止まり時の支持層上端より以深の地盤にN値の落ち込みが予想される場合には、くいに逆回転を与えて引抜き、アースオーガー等にて掘削して施工困難な層を打抜き後、再施工とする。アースオーガー等による先行掘削は層上端の1.0m程度上部（引抜き方向の支持力を適用するくいについては3Dwかつ1.0m上部）とする。

- くい長不足の処置

打ち止め条件を満たさないくいは適宜継いで、「支持層確認管理値」以下になるまで施工する。

但し、最大施工深さを超える場合には、監理者・設計者と協議の上、指示に拠ることとする。

参考工法：㈱三誠 G-ECSパイル工法

国土交通省大臣認定

認定年月日	平成26年 2月28日
認定番号	TACP - 0448
認定書	(国住指第3728-1号)
指定書	(国住指第3728-2号)
性能評価書(砂質・れき質)	(BCJ基評-FD0124-03)

財団法人 日本建築センター 性能評価

性能評価書(粘土質)	(BCJ基評-FD0178-01)
------------	-------------------

財団法人 日本建築総合試験所 性能証明

建築技術性能証明書(引抜き方向の鉛直支持力)	(GBRC 性能証明 第 11-05号)
------------------------	----------------------

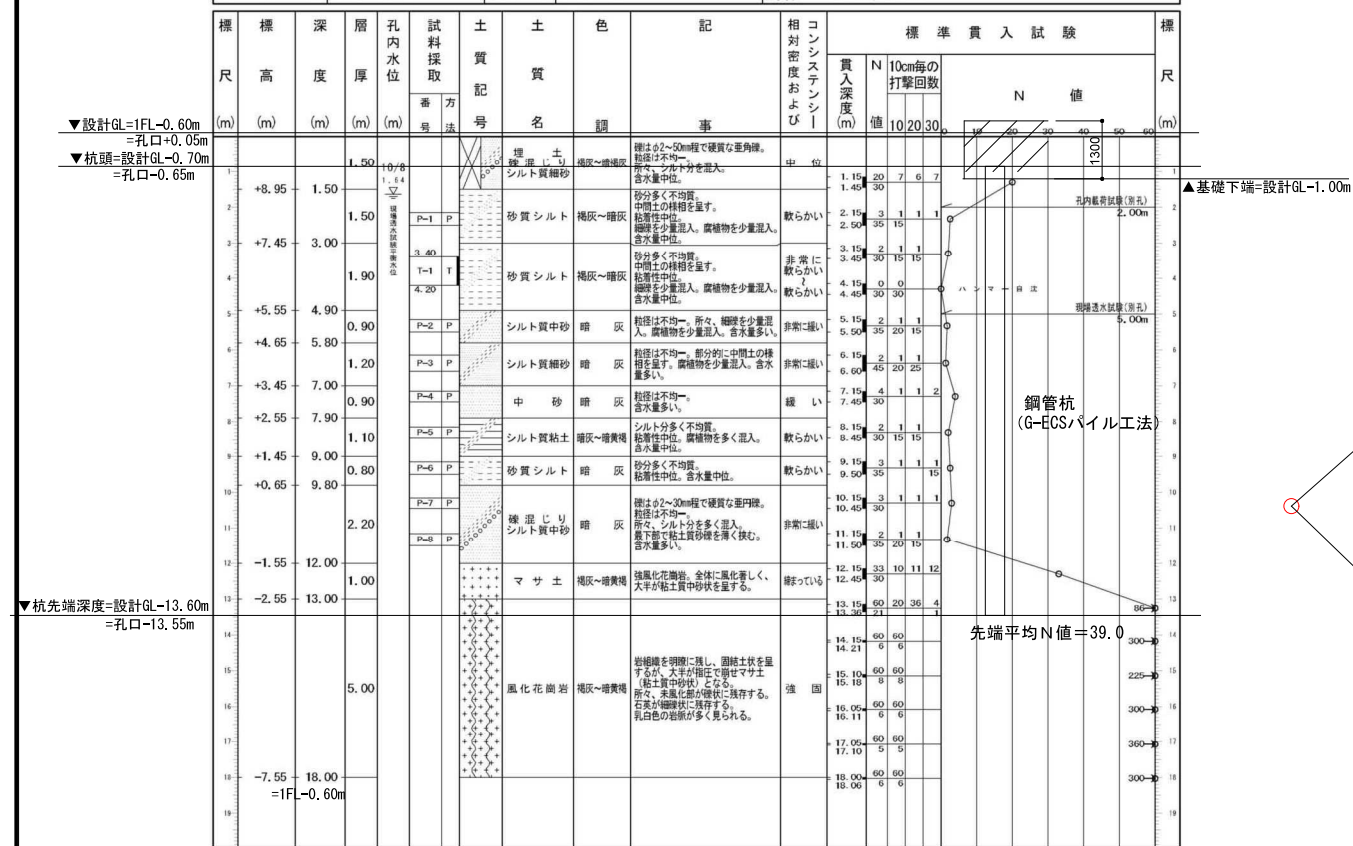
財団法人 日本建築センター 評定

評定書(小口径鋼管くい用無溶接継手)	(BCJ評定-FD0426-01)
--------------------	-------------------

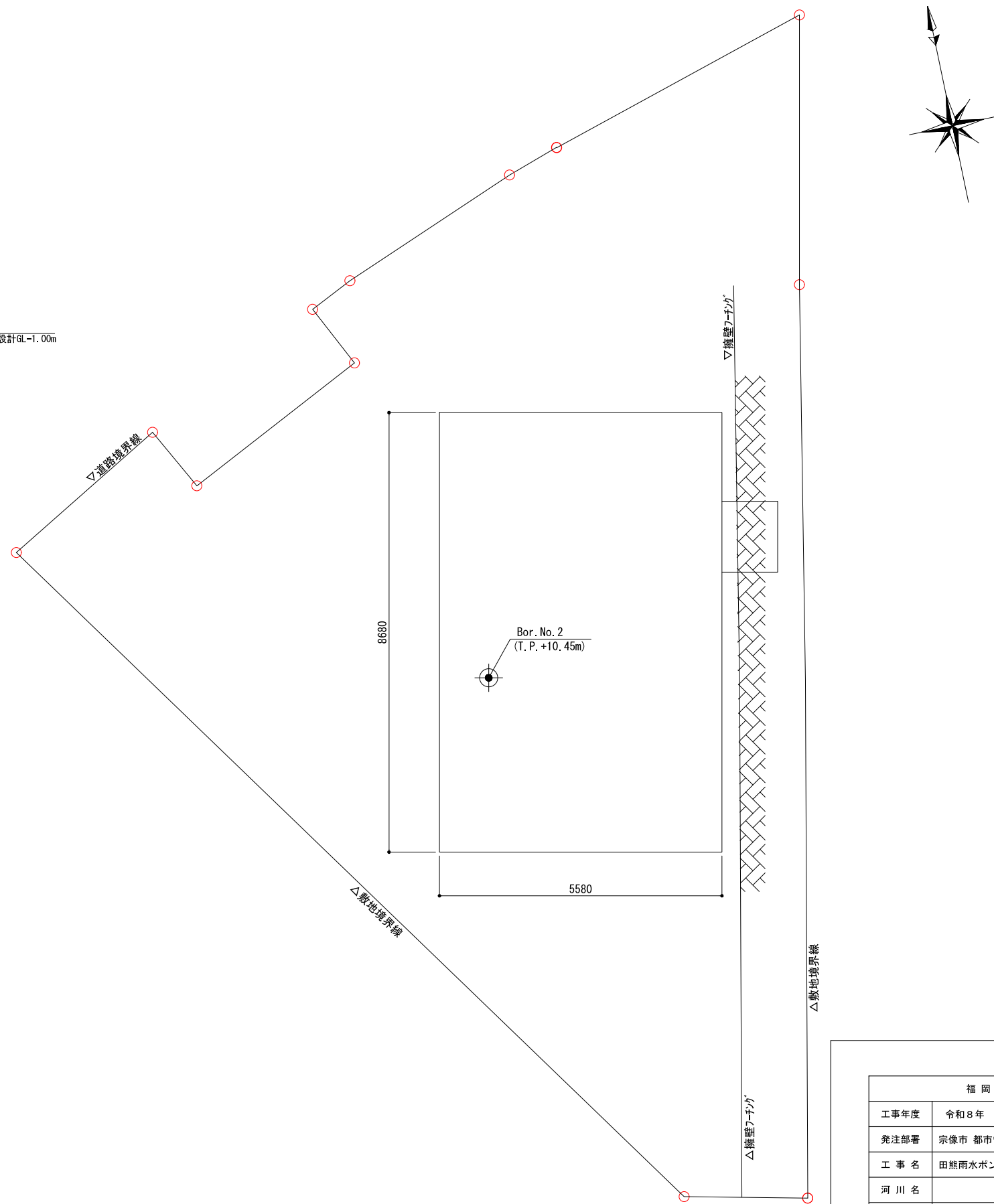
福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	（平成31年）	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部	建築課	
工事名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河川名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	回転貫入鋼管杭工法 設計施工仕様書（２）		
縮尺	NOSCALE	図面番号	S-08

土質柱状図

調 査 名	田 熊 地 区 雨 水 施 設 詳 細 設 計 業 務 委 託	備 考
ボーリング No.	2	試料採取方法の記号 T: 標準式人柱用サンプリング T: シンワールサンプリング A: トリプルチューブサンプリング R: テンションサンプリング 標準式人柱用の落下用は半自動落下装置を使用した。
所 在 地	福岡県宗像市田熊1丁目	
調 査 年 月 日	2025年10月 2日 ～ 2025年10月 8日	
孔 口 標 高	+10.45m 基 準 TS-9(既設測量鉄, T.P.+10.40m)	
ボーリング工法	ロータリー式オイルフィード型	
実 施 者	中野 裕司 責任者 内藤 治	無水貫り状況・・・10/2 2.30m 透水状況・・・10/3 1.20m, 10/5 2.00m

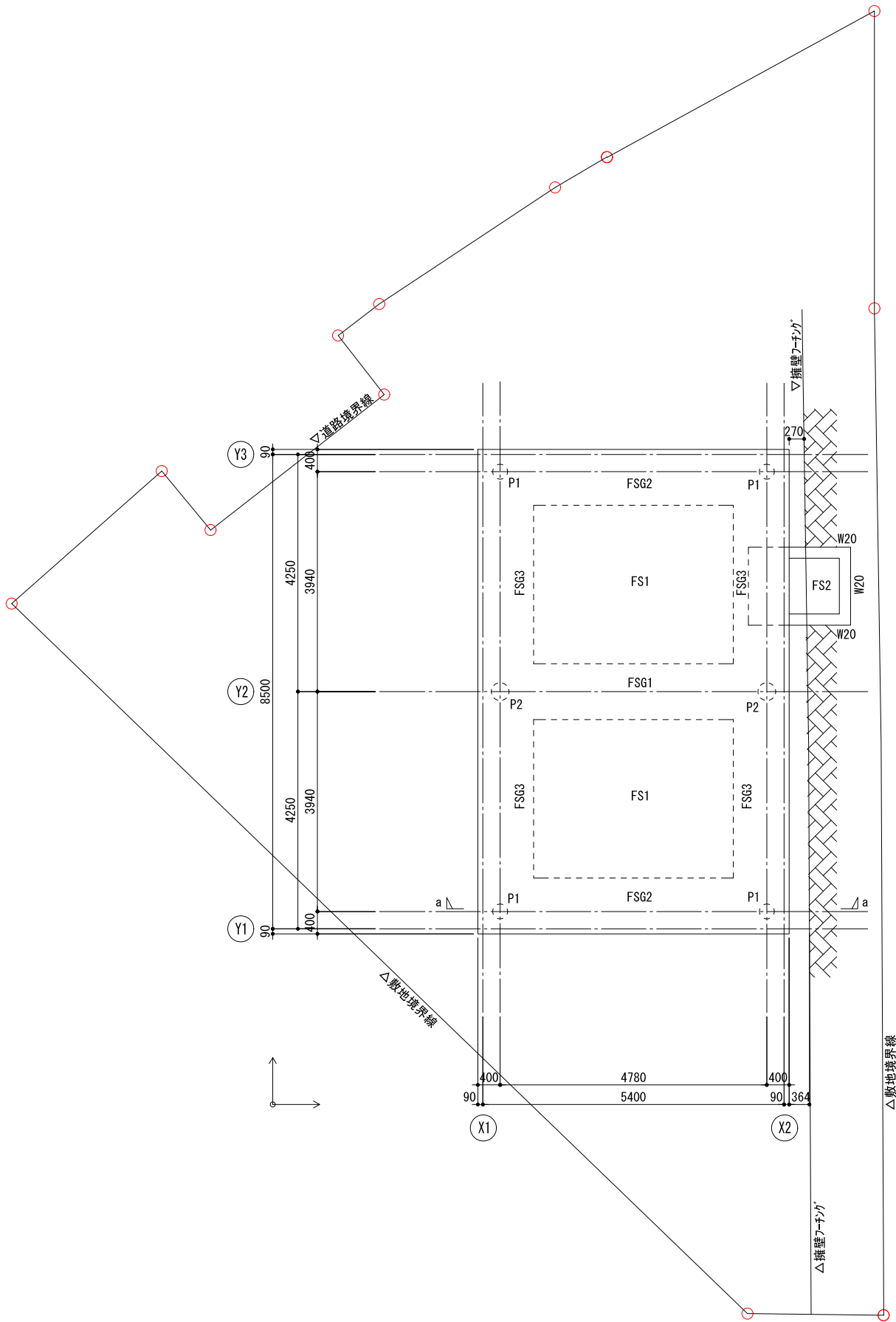


土質柱状図



ボーリング調査位置図

福岡県宗像市			
工事年度	令和 8 年	（ <u>後 起</u> ） 災 害 定	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	ボーリング柱状図		
縮 尺	(A1) S=1:50 (A3) S=1:100	図面番号	S-09

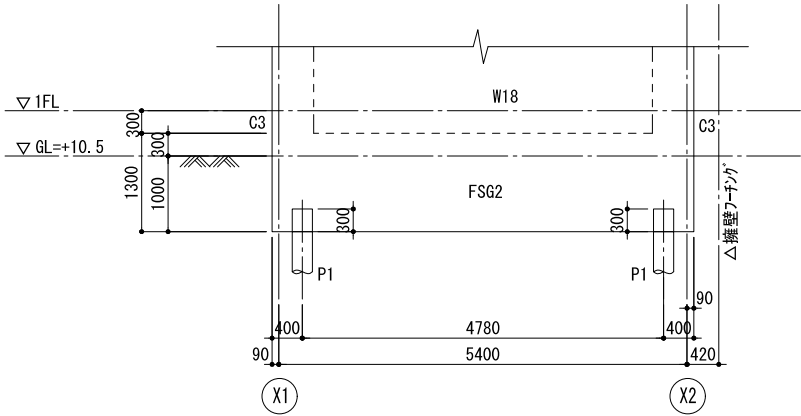


基礎伏図

- 特記なき限り
- 設計GL＝1FL-600とする。
 - 基礎下端＝1FL-1700とする。
 - 印は、既存擁壁を示す。

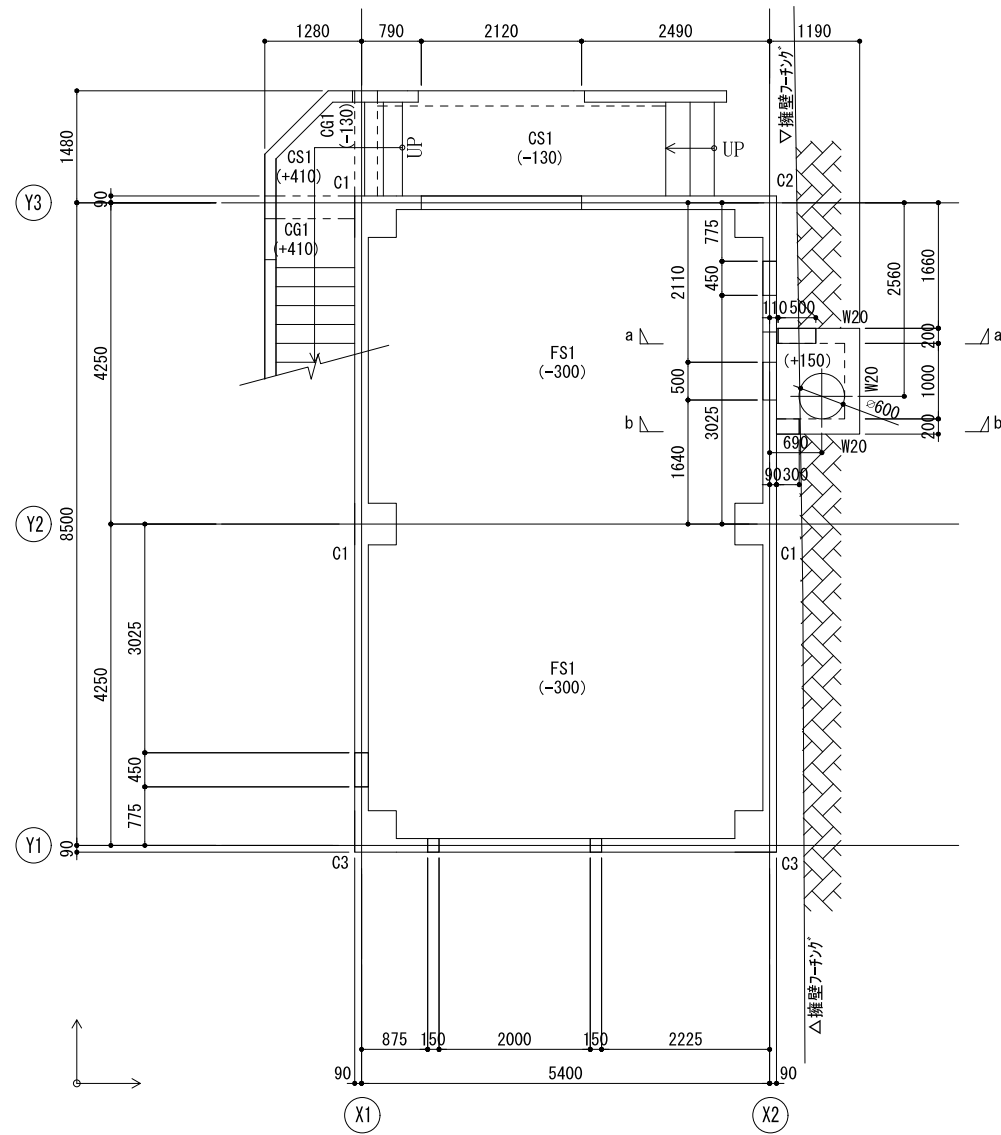
杭リスト		単位：m	
杭符号	P1	P2	備考
軸径 Dp	267.4mm	318.5mm	
等価円直径 Dv	606.0mm	729.9mm	
杭頭レベル GL	-0.70	-0.70	
底版への埋込長	0.30	0.30	
上杭	厚み (mm)	9.3	10.3
	長さ	3.50	3.50
下杭	厚み (mm)	8.0	10.3
	長さ	9.00	9.00
材質	STK490	STK490	
杭先端レベル GL	-13.6	-13.6	
杭全長	12.90	12.90	
杭頭補強筋	-	-	
長期許容支持力 RaL (kN)	689.9	970.7	
杭セット数	4セット	2セット	計6セット

杭 継 手：現場溶接とする。
※施工時に杭芯ずれが100mmを越えた場合は設計者に相談・報告のこと。



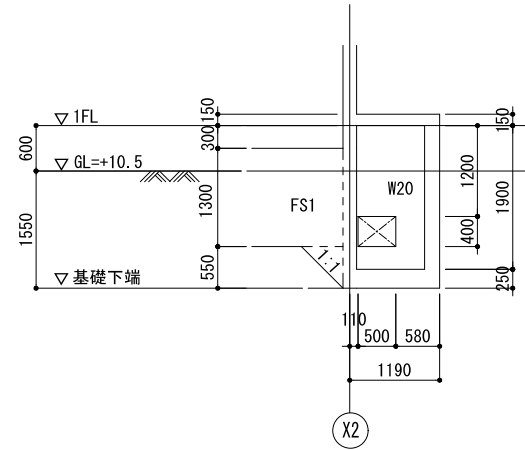
a-a図

福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	（仮起工）	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課	災害定	
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	伏図（1）		
縮 尺	(A1) S=1:50 (A3) S=1:100	図面番号	S-10

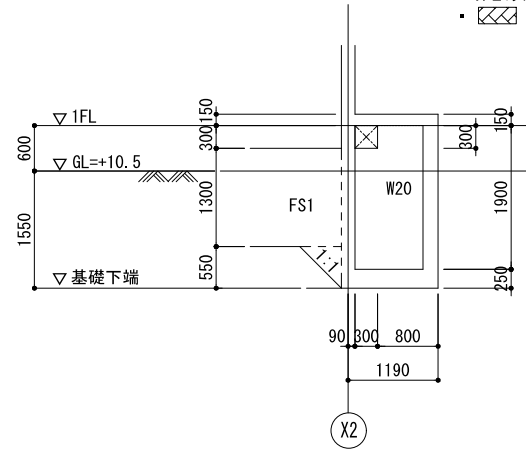


1階伏図

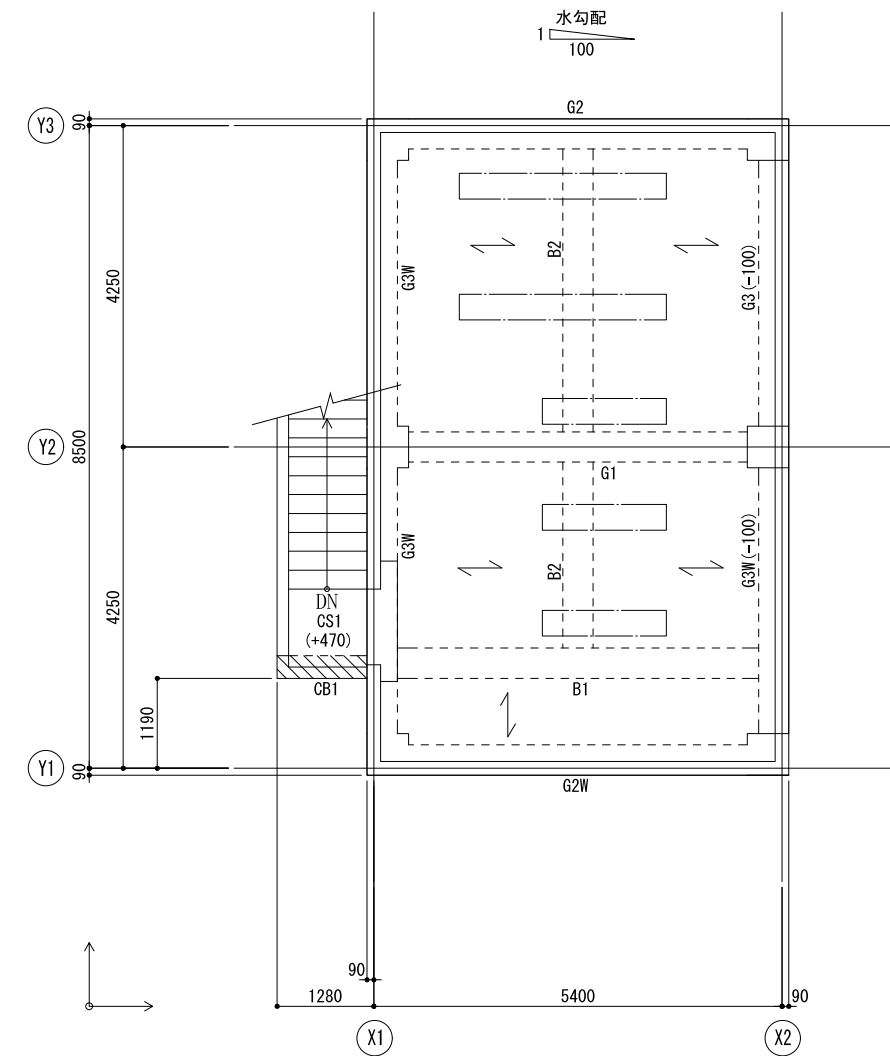
- 特記なき限り
- 壁符号はW18とする。
 - ()内数値は1FLからのレベルを示す。
 - 1FLのスラブ上増打はt=300mmとする。
 - 印は既存擁壁を示す。



a-a図



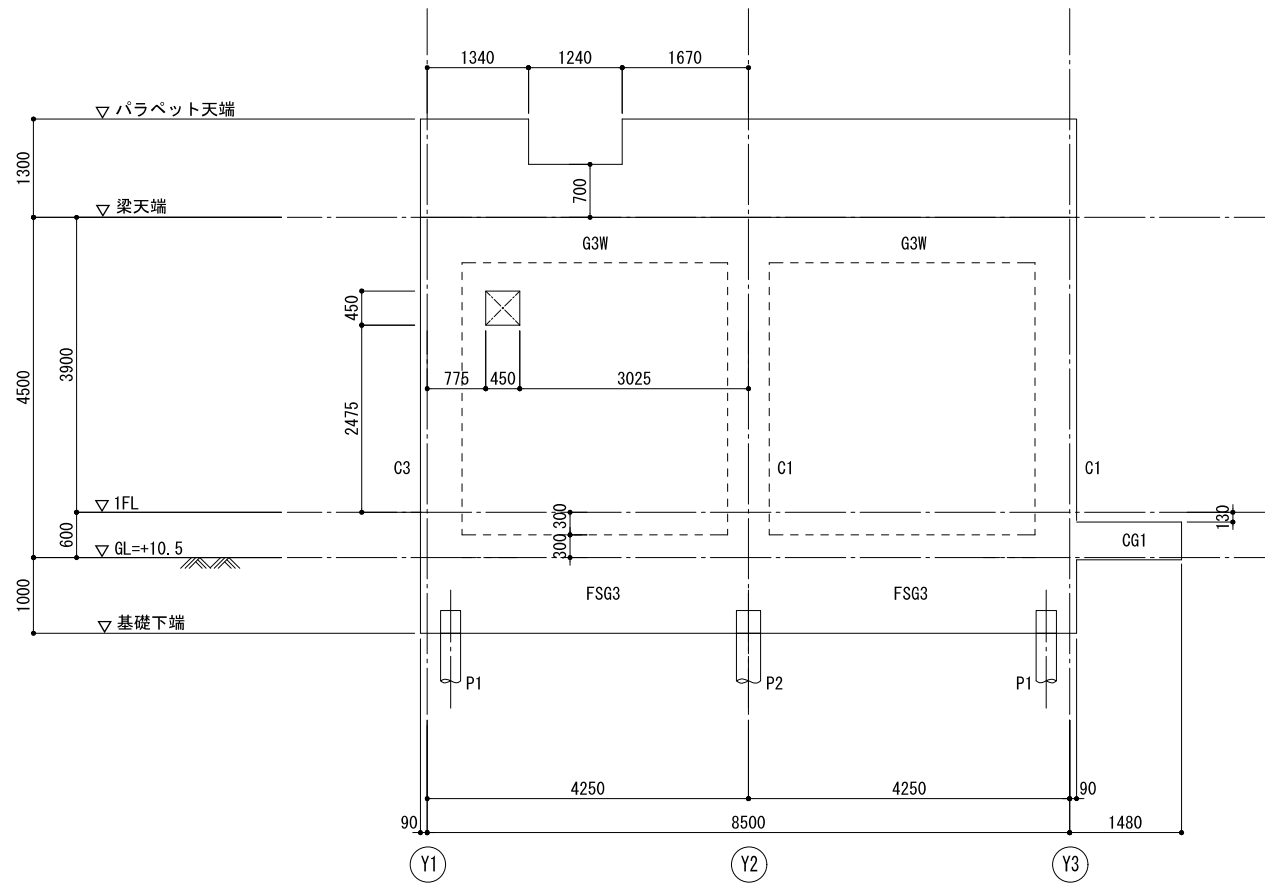
b-b図



R階伏図

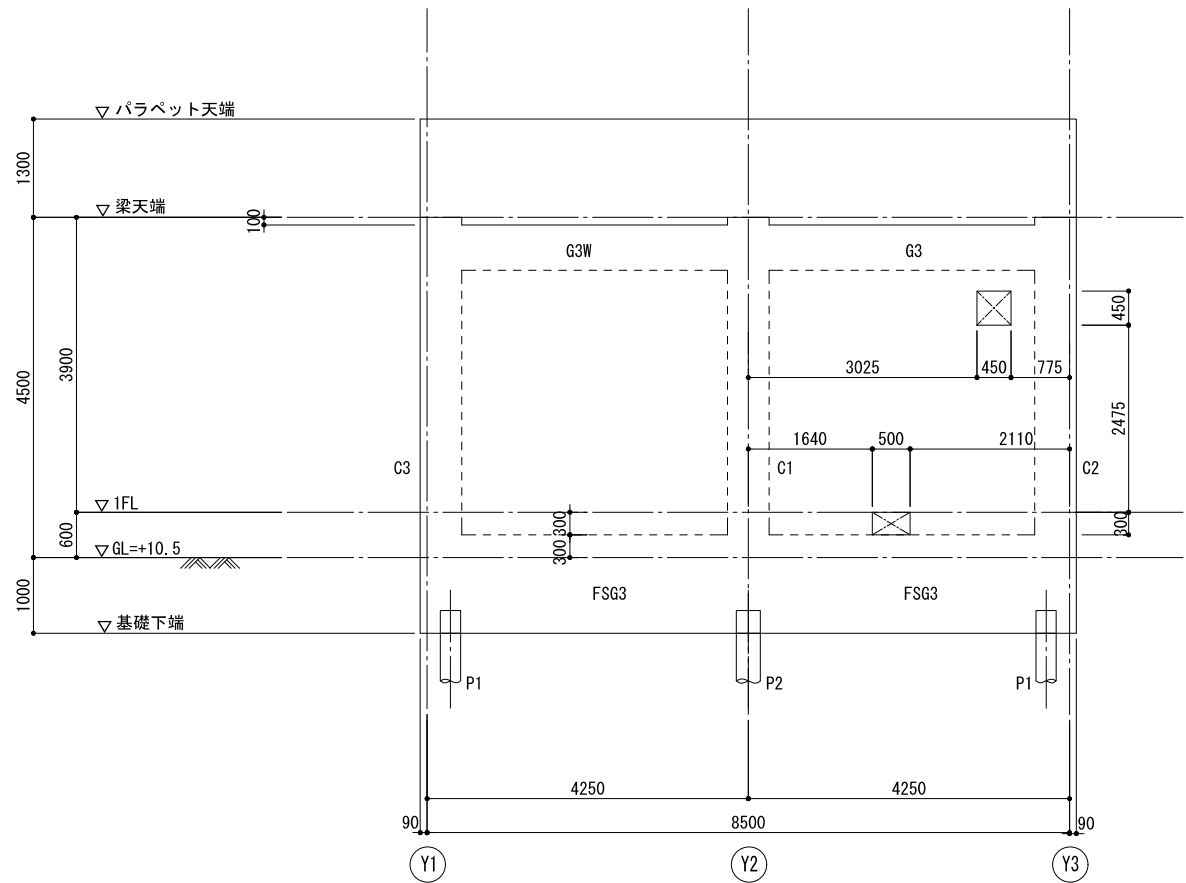
- 特記なき限り
- スラブはS1とする。
 - 印は、スラブ主筋方向を示す。
 - ()内数値はRFLからのレベルを示す。
 - 設備基礎を示す。
 - 印は、片持梁上の増打t=470mmを示す。

福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	（仮起工） 災害地	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	伏図（2）		
縮 尺	(A1) S=1:50 (A3) S=1:100	図面番号	S-11



X1通り軸組図

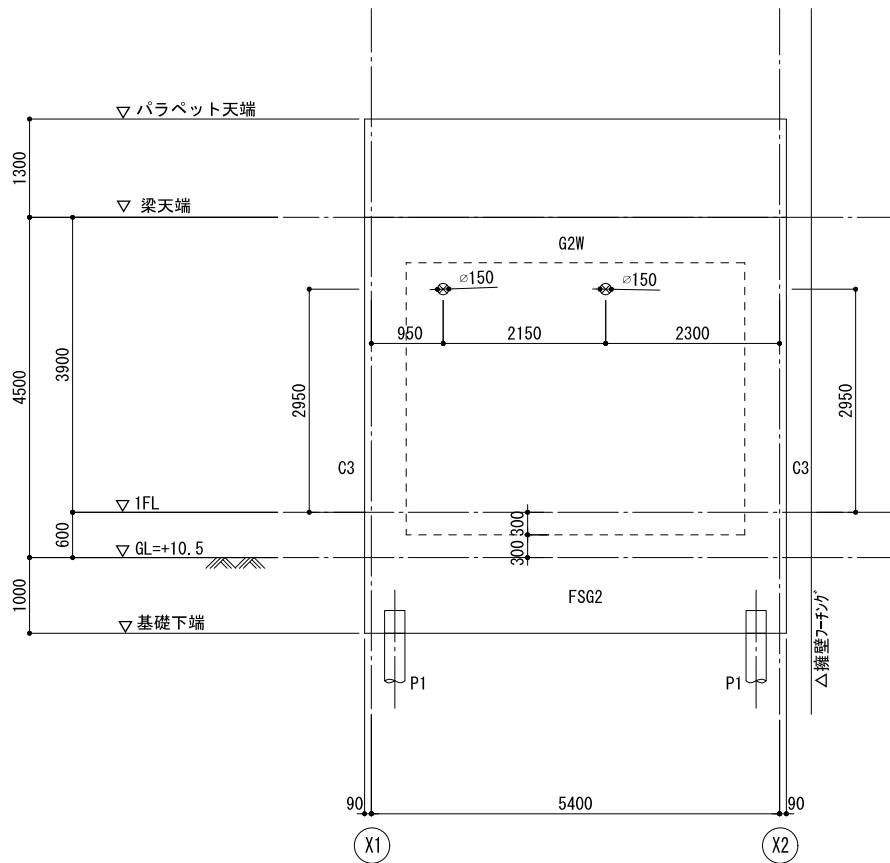
特記なき限り
・壁符号はW18とする。



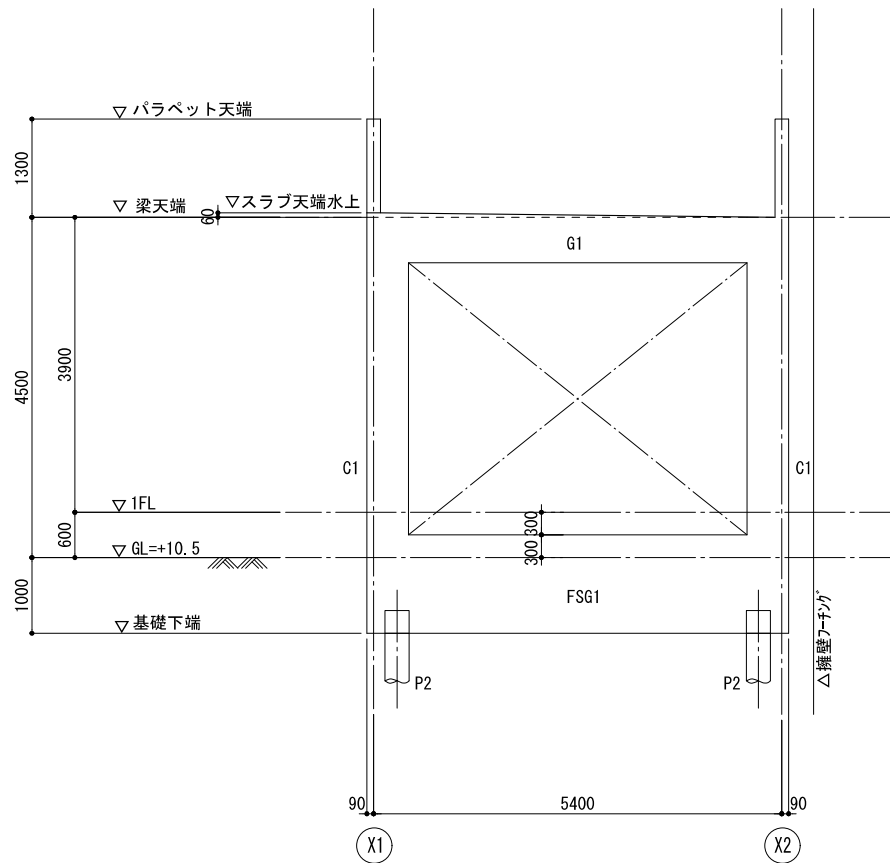
X2通り軸組図

特記なき限り
・壁符号はW18とする。

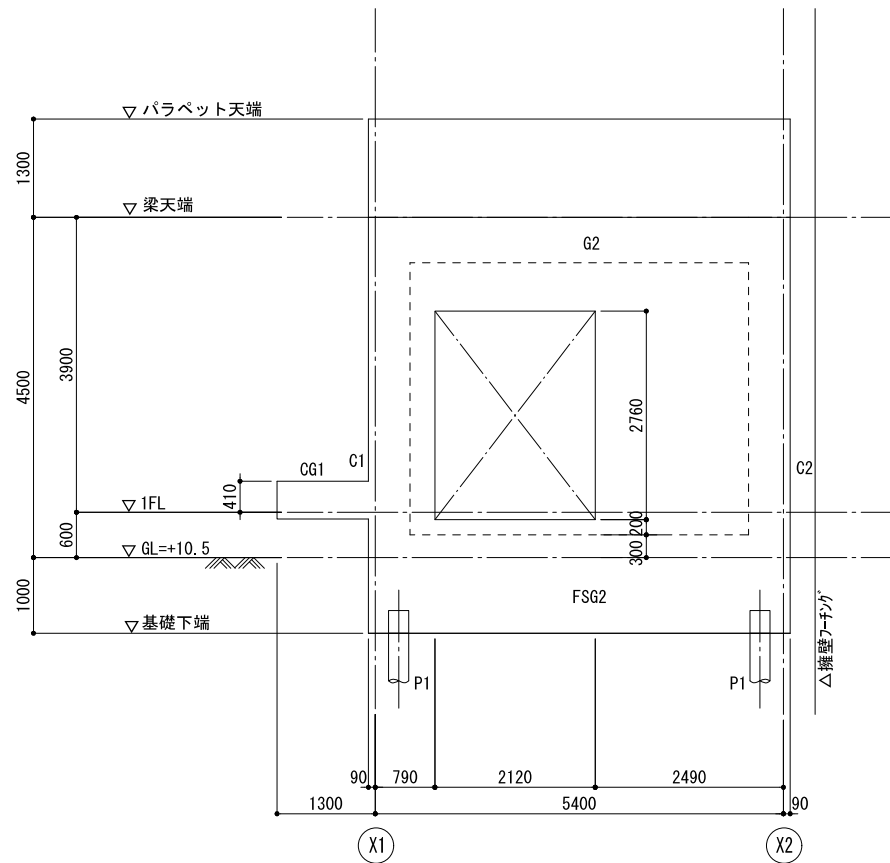
福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	（仮起工）	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	軸組図（1）		
縮 尺	(A1) S=1:50 (A3) S=1:100	図面番号	S-12



Y1通り軸組図



Y2通り軸組図

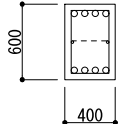
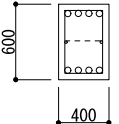
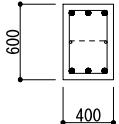
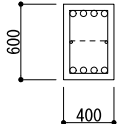
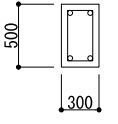


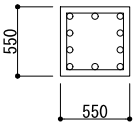
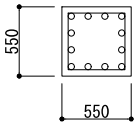
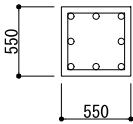
Y3通り軸組図

特記なき限り
・壁符号はW18とする。

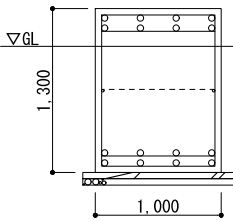
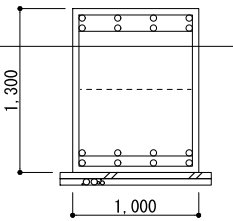
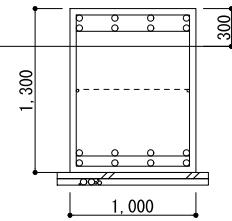
特記なき限り
・壁符号はW18とする。

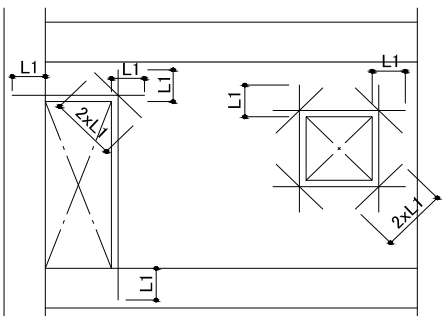
福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	（仮起工）	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工事名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河川名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	軸組図（2）		
縮尺	(A1) S=1:50 (A3) S=1:100	図面番号	S-13

大梁・片持ち梁リスト		特記事項： 腹筋：2-D10 とする。 幅止め筋：D10@1000 とする。		鉄筋について D16以下 SD295 D19以上D25以下 SD345	
符号	G1	G2	G2W, G3W	G3	CG1
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面					
B×D	400×600	400×600	400×600	400×600	300×500
上端筋	4-D22	4-D22	3-D19	4-D22	2-D22
下端筋	4-D22	4-D22	3-D19	4-D22	2-D22
STP	□-D13@200	□-D13@200	□-D10@200	□-D13@200	□-D13@200

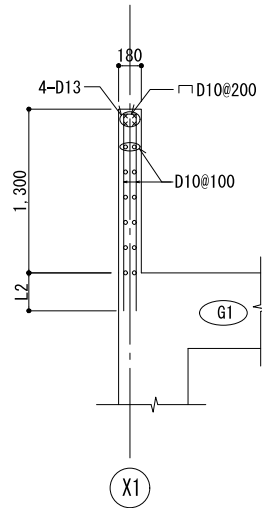
柱リスト		特記事項： D16以下 D19以上D25以下 SD295 SD345			
符号	C1	C2	C3		
位置	全断面	全断面	全断面		
断面					
B×D	550×550	550×550	550×550		
主筋	10-D22	12-D22	8-D22		
H00P	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100		

スラブリスト		特記事項： D16以下 D19以上D25以下 SD295 SD345			
符号	版厚 (mm)	位置	短辺方向 (主筋)	長辺方向 (配力筋)	備考
S1	200	上端筋	D13@200	D13@200	
		下端筋	D13@200	D13@200	
CS1	150	上端筋	D13@200	D10@200	
		下端筋	D13@200	D10@200	
FS1	1300	上端筋	一段 D19@200	一段 D19@200	
			二段 D19@200	二段 D19@200	
		下端筋	一段 D19@200	一段 D19@200	
			二段 D19@200	二段 D19@200	
FS2	250	上端筋	D13@200	D13@200	
		下端筋	D13@200	D13@200	

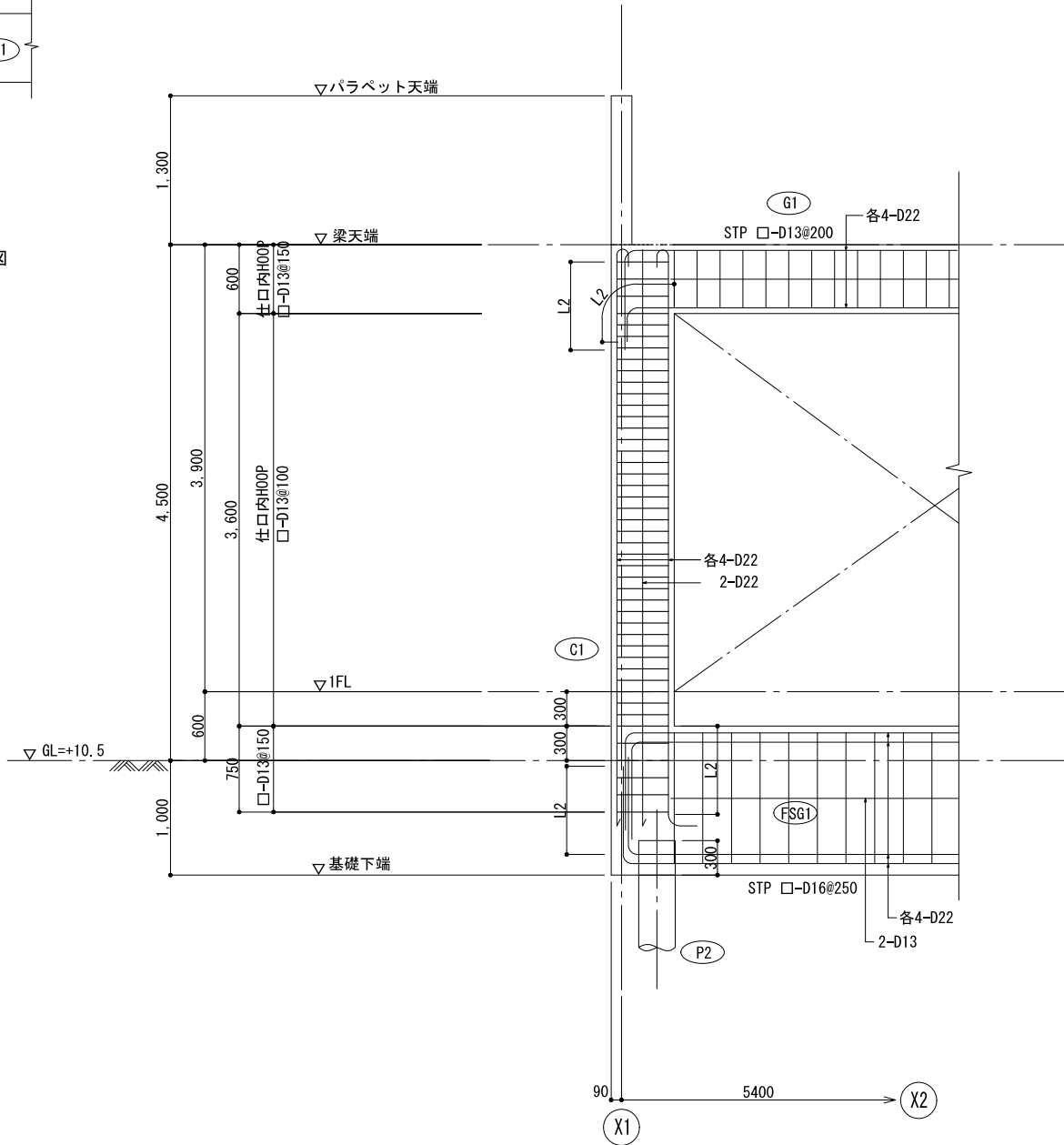
地中梁リスト		特記事項： 腹筋：2-D13 とする。 幅止め筋：D10@1000 とする。		鉄筋について D16以下 SD295 D19以上D25以下 SD345	
符号	FSG1	FSG2	FSG3		
位置	全断面	全断面	全断面		
断面					
B×D	1000×1300	1000×1300	1000×1300		
上端筋	8-D22	8-D22	8-D22		
下端筋	8-D22	8-D22	8-D22		
STP	□-D16@250	□-D16@250	□-D16@250		

壁リスト		特記事項：		鉄筋について		SD295	
		幅止め筋：D10@1000 とする。		D16以下 D19以上D25以下		SD345	
符号		W18	W20	開口補強要領			
縦断面							
縦筋		D13@250 (ダブル)	D13@200 (ダブル)				
横筋		D13@250 (ダブル)	D13@200 (ダブル)				
開口部 補強筋	縦筋	4-D16	4-D16				
	横筋	2-D16	2-D16				
	斜筋	2-D13	2-D13				

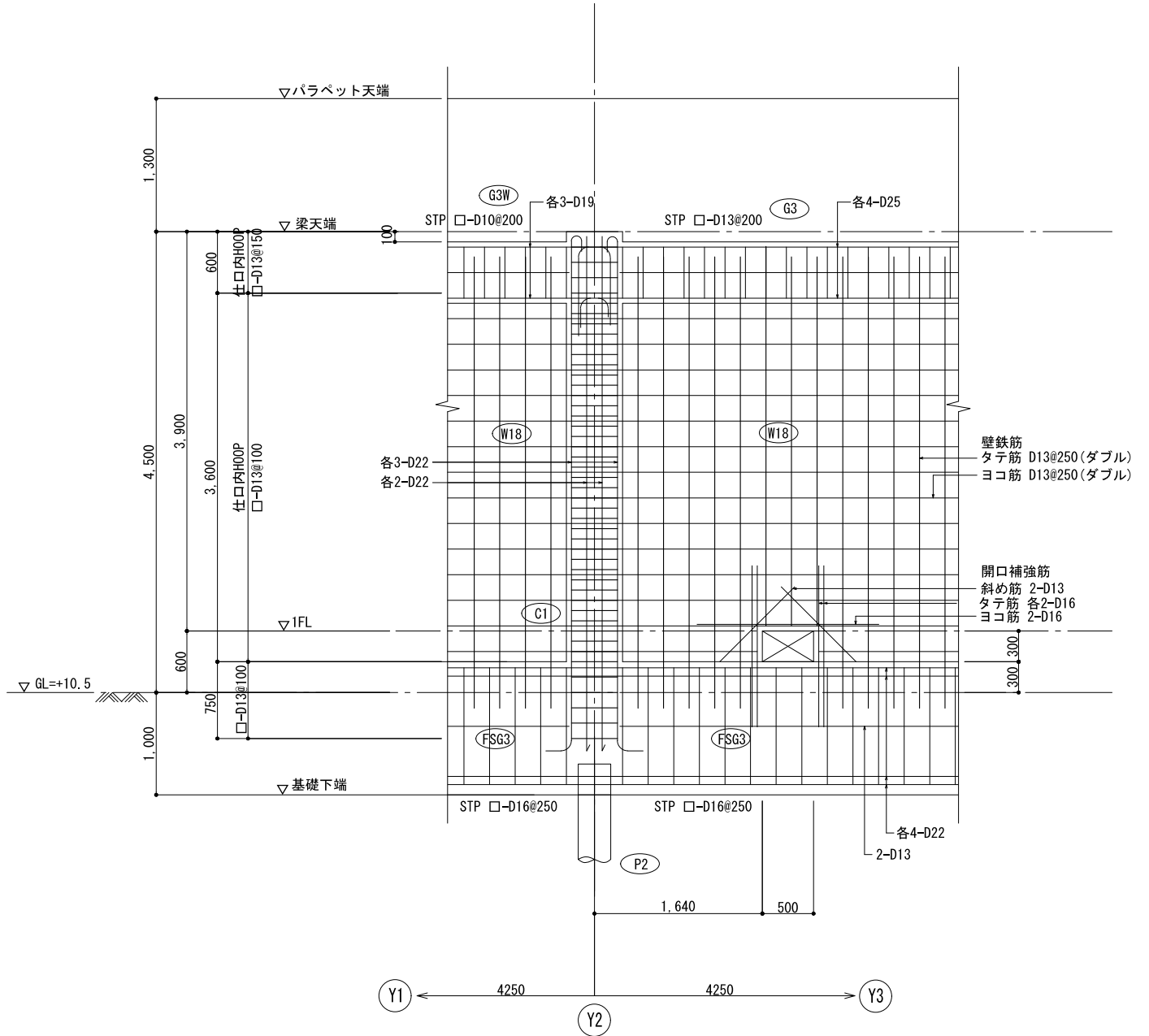
福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	（仮起工）	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工事名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河川名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	部材リスト		
縮尺	(A1) S=1:30 (A3) S=1:60	図面番号	S-14



バラベツ配筋詳細図



Y 2通り架構配筋図



X 2通り架構配筋図

特記なき限り下記による

- 柱について
HOOP : □-D13@100
仕口内HOOP : □-D13@150
- 梁について
STP : □-D13@200
腹筋 : 2-D10
- 壁について
幅止め筋 : D10@1000

福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	（仮起工）	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工事名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河川名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	架構配筋図		
縮尺	(A1) S=1:30 (A3) S=1:60	図面番号	S-15

屋上設備基礎 配筋詳細図

(A1) $S=1/30$



廊下 配筋詳細図

(A1) $S=1/30$



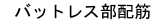
屋外階段 片持ち部 配筋詳細図

(A1) $S=1/30$



ハンドホール-躯体 配筋詳細図

(A1) $S=1/40$



屋外階段 RFL 配筋詳細図

(A1) $S=1/30$



屋外階段 GL-1FL 配筋詳細図

(A1) $S=1/30$



屋外階段 1FL-RFL-1 配筋詳細図

(A1) $S=1/30$



屋外階段 1FL-RFL-2 (A1) S=1/30

(A1) $S=1/30$



福 岡 県 宗 像 市			
工事年度	令和 8 年	（ <u>度</u> <u>起</u> <u>下</u> 災 害 定	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理課 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	部分配筋図		
縮 尺	図示	図面番号	S-16

田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）

工事設計図

製作日：令和 年 月

特記仕様書

1. 工事概要

1. 工事場所 福岡県宗像市田熊一丁目

2. 建物概要

建 物 名 称	構 造	階 数	建築基準法による延べ面積 (㎡)	消防法施行令別表第一の区分	施設の種類	備 考
田熊雨水ポンプ場電気棟	RC造	1階建（地下 ー 階 塔屋 ー 階）	45.90 ㎡	(15) 項		新築

(注) 延べ面積は建築基準法による表記

3. 工事種目（●印の付いたものが対象工事種目）

建 物 別 及 び 屋 外	工 事 種 目	工 事 種 別	屋 外
● 電灯設備	一式		
● 動力設備	一式		
○ 電気自動車用充電設備	一式		
○ 電熱設備	一式		
○ 雷保護設備	一式		
○ 受変電設備	一式		
○ 電力貯蔵設備	一式		
○ 発電設備	一式		
○ 構内情報通信網設備	一式		
○ 構内交換設備	一式		
○ 情報表示設備	一式		
○ 映像・音響設備	一式		
○ 拡声設備	一式		
○ 誘導支援設備	一式		
○ テレビ共同受信設備	一式		
○ 監視カメラ設備	一式		
○ 駐車場管制設備	一式		
○ 防犯・入退室管理設備	一式		
○ 火災報知設備	一式		
○ 中央監視制御設備	一式		
○ 構内配電線路			一式
○ 構内通信線路			一式
○ テレビ電波障害防除設備			一式
○			
○			
○			

4. 指定部分 〇 無 〇 有（対象部分 指定部分工期 年 月 日）

5. 改修内容

II. 工事仕様

1. 共通仕様

1) 図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁審判部制定の下記仕様書等のうち、
●印の付いたものを適用する。
●「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）（令和7年版）」（以下「標準仕様書」という。）
○「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）（令和7年版）」（以下「改修標準仕様書」という。）
（改修標準仕様書の中でいう標準仕様書は、令和7年度版（電気設備工事編）とする。）
●「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）（令和7年版）」（以下「標準図」という。）
2) 機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの特記仕様書を用とする。
なお、機械設備工事の特記仕様書は（ / ）図、建築工事の特記仕様書は（ / ）図による。
3) 仕様書や刊行物について、工事中に最新版が出版された場合は、最新版を適用する。
2. 特記仕様
項目及び特記事項は、●印の付いたものを適用する。

項 目	特 記 事 項
● 適用区分	(1) 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ● 風圧力 風速 (Vo= 34.0 m/s) 地表面粗度区分 (○Ⅰ ○Ⅱ ●Ⅲ ○Ⅳ) ○ 積雪荷重 建設省告示第1455号における区域 別表 () (2) 塩害地域 ● 一般地域 ○ 重耐塩地域 ○ 耐塩地域 (3) 本工事中において、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）」に基づく「環境物品等の調達の推進等に関する基本方針（令和5年12月閣議決定）」に定める特定調達品目「公共工事」の品目を調達する場合は、判断の基準等を満たすものとする。 (2) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。 ① 合板、木質系フローリング、構造パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しない又は発生が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ② 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③ 接着剤は、可塑性（フタル酸ジ－n－ブチル及びフタル酸ジ－2－エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く。）が添加されていない材料を使用する。 ④ ①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発生が極めて少ない材料を使用したものとする。
● 環境への配慮	

項 目

特 記 事 項

(3) 設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。
① 建築基準法施行令第20条の7 第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料
② 建築基準法施行令第20条の7 第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
③ 建築基準法施行令第20条の7 第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料
④ 建築基準法施行令第20条の7 第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
(1) 本工事に使用する機材等は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。
(2) 下表に機材名が記載された製造業者等は、次の①から⑥すべての事項を満たす証明となる資料を提出して監督職員の承諾を受ける。ただし、次の①から⑥すべての事項を評価されたことを示す外部機関が発行する書面を提出し、監督職員の承諾を受けた場合は、証明となる資料等の提出を省略することができる。
① 品質及び性能に関する試験データを整備していること。
② 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。
③ 安定的な供給が可能であること。
④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。
⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。
⑥ 販売、保守等の営業体制を整えていること。

機材等
●LED照明器具（一般屋内用に限る）
●照明制御装置
○可変速運転用インバーター装置
●分電盤
●制御盤
○キュービクル式配電盤
○高圧スイッチギヤ（GW）
○高圧スイッチギヤ（PW）
○高圧交流遮断器
○高圧連相コンデンサ
○高圧限流ヒューズ
○高圧負荷開閉器
○高圧変圧器（特定機器）
○交流無停電電源装置
○太陽光発電装置（パワーコンディショナ及び系統連系保護装置）
○監視カメラ装置
○中央監視制御（監視制御装置）
○
○
○
○
○

注 * JIS C 62771-2001による高圧スイッチギヤ（図●～●）を含む。
JIS C 62771-2001による高圧スイッチギヤの製造業者等は、上記(2)①～⑥すべての事項を満たす証明となる資料を提出して監督職員の承諾を受ける。
ただし、JEM14251による高圧スイッチギヤ（GW）（PW）【*を付した機材名を記載）について上記(2)①～⑥すべての事項を評価されたことを示す外部機関が発行する書面を提出し監督職員の承諾を受けた場合は、「①品質及び性能に関する試験データを整備していること。」を除き、証明となる資料等の提出を省略することができる。

● 電源周波数

○ 50Hz ● 60Hz

最大電力が500 [kW] 以上の場合においても、第一種電気工事士により施工を行うものとする。

○ 電気工事士

○ 工事用仮設備

○ 足場その他

○ 建設発生土の処理

● 耐震施工

(1) 設備機器の固定は、施設の種類並びに機器の種類、重要度及び設置際に応じて、次の設計用水平地震力及び設計用鉛直地震力に対し、移動、転倒、破壊等が生じないようにする。
①設計用水平地震力
機器の重量[kN]に、設計用標準水平震度を乗じたものとする。
なお、特記なき場合は、設計用標準水平震度は、次による。
設計用標準水平震度

機 器 種 別	特定の施設		一般の施設		
	重要機器	一般機器	重要機器	一般機器	
上層階	機 器	2.0	1.5	1.5	1.0
	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5
屋上及び塔屋	水 槽 類	2.0	1.5	1.5	1.0
	機 器	1.5	1.0	1.0	0.6
中間階	防振支持の機器	1.5	1.5	1.5	1.0
	水 槽 類	1.5	1.0	1.0	0.6
地階・1 階	機 器	1.0	0.6	0.6	0.4
	防振支持の機器	1.0	1.0	1.0	0.6
	水 槽 類	1.5	1.0	1.0	0.6

・上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階以上の場合は上層4階とする。
・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの
・水槽類には燃料小出タンクを含む。
・重要機器は次のものを示す。
●配電盤 ○発電装置（防災電源用） ○直流電源装置
○交流無停電電源装置 ○交換装置 ○自動火災報知受信機
○中央監視装置 ○通信総合台 ○
②設計用鉛直地震力
設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。
(2) 横引き配管等の耐震支持は、施設の種類に応じたものとする。

● 配管本数、管路等

● 金属製電線管の仕上

○ 非常用照明装置の照度測定箇所数

○ 電流値等の計測

● 盤類等の色彩計画

● フラッシュプレート

○ 天井仕上区分

○ インバータ装置の規約効率

● 機器取付高さ

○ 接地極

● 他工事又は他工種との取り合い

○ 施工調査

○ 既存躯体への穿孔

○ ケーブルの種類

○ 仮設設備工事

○ 監視・制御システムのサイバーセキュリティ

分電盤、制御盤及び端子盤等の2次側以降の配管配線経路、配線太さ、配線本数及び管径等は、図面と相違しても差し支えない。ただし、相違する場合は監督職員の承諾を受ける。
露出配管の仕上は次による。
屋外
● 厚鋼電線管は、溶融亜鉛めっき仕上付着量300g/㎡以上のものとする。
○ 塗装あり（場所： ）
屋内
○ 塗装なし
● 塗装あり（場所： ）
測定数 箇所以上 測定し監督職員に報告する。
下記の電流値等を計測し、報告書を監督職員に提出する。
計測箇所（○ 図示による。）
計測項目（○ 電流値（記録間隔1分毎 ○ 照度）
計測日数（通常使用状態の電流値：改修着手前 5日間、改修後 5日間）
照度測定箇所数（改修前及び改修後の照度測定 箇所以上）
備 考
(1) 計測機器及び計測装置等の詳細は監督職員との協議による。
(2) 報告書には、測定装置（もしくはソフトウェア）の換算機能により算出された電力（瞬時値）及び電力量（積算値30分単位）も記録すること。
(3) 照度測定は作業面照度（床土0.8m）とし、測定方法はJIS C 7612による。
事務室等に設ける○A盤、分電盤、端子盤の鋼板製キャビネット等及び意匠上配慮する必要のある機器の色彩計画を監督職員に提出するものとする。
フラッシュプレートは図面に特記なき場合
● 金属製（ステンレス、新金属を含む） ○ 樹脂製（ ）とする。
() 書きの室名は直天井の室を示し、それ以外は二重天井の室を示す。
三相可変速運転用インバータ装置の規約効率は、次の数値以上とする。

電動機出力[kW]	0.4	0.75	1.5	2.2	3.7	5.5	7.5	11	15	18.5	22	30
規約効率[%]	定格電圧 200[V]	86.0	88.5	92.0	93.0	94.0	94.0	94.5	95.0	95.5	95.5	95.5
	定格電圧 400[V]	87.0	90.5	93.5	94.0	94.5	94.5	95.0	95.0	96.0	96.5	96.5

電動機出力[kW]	37	45	55	75	
規約効率[%]	定格電圧 200[V]	95.5	95.5	95.5	95.5
	定格電圧 400[V]	96.5	96.5	96.5	96.5

【備考】(1)規約効率は、JEM-TR 245「汎用インバータの規約効率」により算出した値とする。
(2)0.4kWの規約効率は、JIS C 4212「高効率低圧三相かご形誘導電動機」のIP4X、6極、50Hzの電動機を駆動したときの値とする。
(3)0.75kWの規約効率は、JIS C 4213「低圧三相かご形誘導電動機－低圧トランプナ－モータ」のIP4X、6極、50Hzの電動機を駆動したときの値とする。
壁付、壁掛形の機器等の取付高さは、図面に記載がない場合は、表－1「機器標準取付高さ」による。
図面に記載がない場合は、表－2「接地極一覧表」による。
図面に記載がない場合は、工事区分表による。ただし、これにより難い場合は監督職員と協議する。
事前調査（○ 本工事 ○ 別途）
調査項目（○ 既存資料調査 ○ 石綿事前調査（貸与資料 ○有 ○無） ○）
調査範囲（○ 図示 ○）
調査方法（○ 図示 ○）
○はつり工事及び穿孔作業を行う場合は、事前に走査式埋設物調査を行い、監督職員に報告を行うこと。
穿孔機械を使用し既存躯体に穿孔する場合は、金属探知により電源供給が停止できる附属装置等を用いて施工する。
EM－高圧架橋ポリエチレンケーブルは、JCS 4395「6600V 架橋ポリエチレンケーブル（3層押出型）」によるものとする。

呼称（図示記号）	種 類
6kV EM-CE	6600V 架橋*リジフレ絶縁耐燃性*リジフレ*ケーブル*（6600V CE/F（EE））
6kV EM-CET	6600V H7*レックス形架橋*リジフレ絶縁耐燃性*リジフレ*ケーブル*（6600V CET/F（EE））

仮電源（○ 受変電 ○ 発電）
仮設期間（○ 図示）
外部ネットワークと接続する制御システム
○ あり（対象設備）
○ なし
外部ネットワークと接続する箇所の不正アクセス防止対策
○ ファイアウォール ○ 総合脅威管理（UTM）
盤・キャビネットの錠の鍵
● 製造者の標準鍵
○ 錠の指定あり
対策機器（○分電盤 ○制御盤 ○キュービクル ○端子盤）
○通信キャビネット ○

表－1 機器標準取付高さ

名称	測点	取付高 [mm]	名称	測点	取付高 [mm]
積算計器	地上～窓中心	1,800～2,000	壁掛形観時計	床上～中心	1,500
引込開閉器（低圧）	地上～中心	1,800～2,200	子時計	〃	(天井高)×0.9
分電盤	床上～中心	1,500	壁掛形スピーカ	〃	(天井高)×0.9
			壁付アンテナ	〃	1,300
スイッチ	床上～中心	1,300			
〃（バリアフリートレイ）	〃	1,100	情報・出退表示盤	床上～中心	(天井高)×0.9
コンセント（一般）	〃	300	壁付発信機	〃	1,300
〃（和室）	〃	150	ベル、プザー、チャイム	〃	2,300
〃（台上）	台上～中心	150～200	壁付押しボタン（一般）	〃	1,300
〃（車椅子用）	床上～中心	900			
ブラケット（一般）	〃	2,100～2,300			
〃（踊場）	〃	2,000～2,500			
〃（鏡上）	鏡上端～中心	150			
			外部受付用インターホン（手機）	「標準図」による。	
			壁付インターホン（上記以外）	床上～中心	1,300
			壁付押しボタン（バリアフリートレイ）	〃	900（400）
壁掛形制御盤	床上～中心	1,500			
開閉器箱	〃	1,500	機器収容箱（室内）	天井下～上端	200
制御用スイッチ	〃	(上端1,900以下)	テレビ鑑子（一般）	床上～中心	300
			〃（和室）	〃	150
試験用接続端子箱	床上～下端	800			
			受信機・副受信機・通話制御器	床上～操作部	800～1,500
			機器収容箱	〃	800～1,500
接地端子箱	地上、床上～中心	500	発信機	床上～中心	800～1,500
			警報ベル	〃	(天井高)×0.9
			表示灯	〃	(天井高)×0.8
給油ボックス（壁掛形）	地上～注油口	1,000	ガス検知器（都市ガス用）	天井面～中心	天井面－300（盤付けの場合）
			液化石油ガス検知器	床上～上端	300
端子盤	床上～中心	1,500（上端1,900以下）			
集合保安器箱	天井下～上端	200			
壁付電話機（一般）	床上～中心	1,300	接地極埋設棒	地上～中心	600

(備考) (天井高)×0.9及び(天井高)×0.8は天井高が2,500～3,000mmの場合に適用する。
注) 天井高3,000mm以上の場合及び上記取付高さでは機器の使用に支障がある場合は、監督職員と協議する。
押しボタン（バリアフリートレイ）の取付け高さ（400）は床に転倒した時を考慮した高さを示す。

表－2 接地極一覧表

接地の種類	記号	接地抵抗値	接地極の規格・数量
○ 共用接地	E _A ・D	10Ω以下	EB（D=14、L=1,500 又は W=40、L=1,200）×3連 一 組
○ 共用接地	E _A ・C・D	10Ω以下	EB（D=14、L=1,500 又は W=40、L=1,200）×3連 一 組
○ A種	E _A	10Ω以下	EB（D=14、L=1,500 又は W=40、L=1,200）×3連 一 組
○ B種	E _B	Ω以下	EB（D=14、L=1,500 又は W=40、L=1,200）×3連 一 組
○ C種	E _C	10Ω以下	EB（D=14、L=1,500 又は W=40、L=1,200）×3連 一 組
○ D種	E _D	100Ω以下	EB（D=10、L=1,000 又は W=30、L=900）×1
○ D種	E _D	Ω以下	EB（D=14、L=1,500 又は W=40、L=1,200）×3連 一 組
○ 漏電遮断器回路用	E _D （E _{LB} ）	100Ω以下	EB（D=10、L=1,000 又は W=30、L=900）×1
○ 高圧避雷器用	E _{LA}	10Ω以下	EB（D=14、L=1,500 又は W=40、L=1,200）×3連 一 組
○ 交換装置用	E _t	10Ω以下	EB（D=14、L=1,500 又は W=40、L=1,200）×3連 一 組
○ 通信用（10Ω）	E _{A1}	10Ω以下	EB（D=14、L=1,500 又は W=40、L=1,200）×3連 一 組
○ 通信用（100Ω）	E _{D1}	100Ω以下	EB（D=10、L=1,000 又は W=30、L=900）×1
○ 電話引込口の保安器	E _{L1}	100Ω以下	EB（D=10、L=1,000 又は W=30、L=900）×1
○ 測定用	E _o		EB（D=10、L=1,000 又は W=30、L=900）×1

工事年度

令和8年(令和8年度)起工 321号

発注部署

宗像市 都市管理部 建築課

河 川 名

AE-01

工事名

田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）

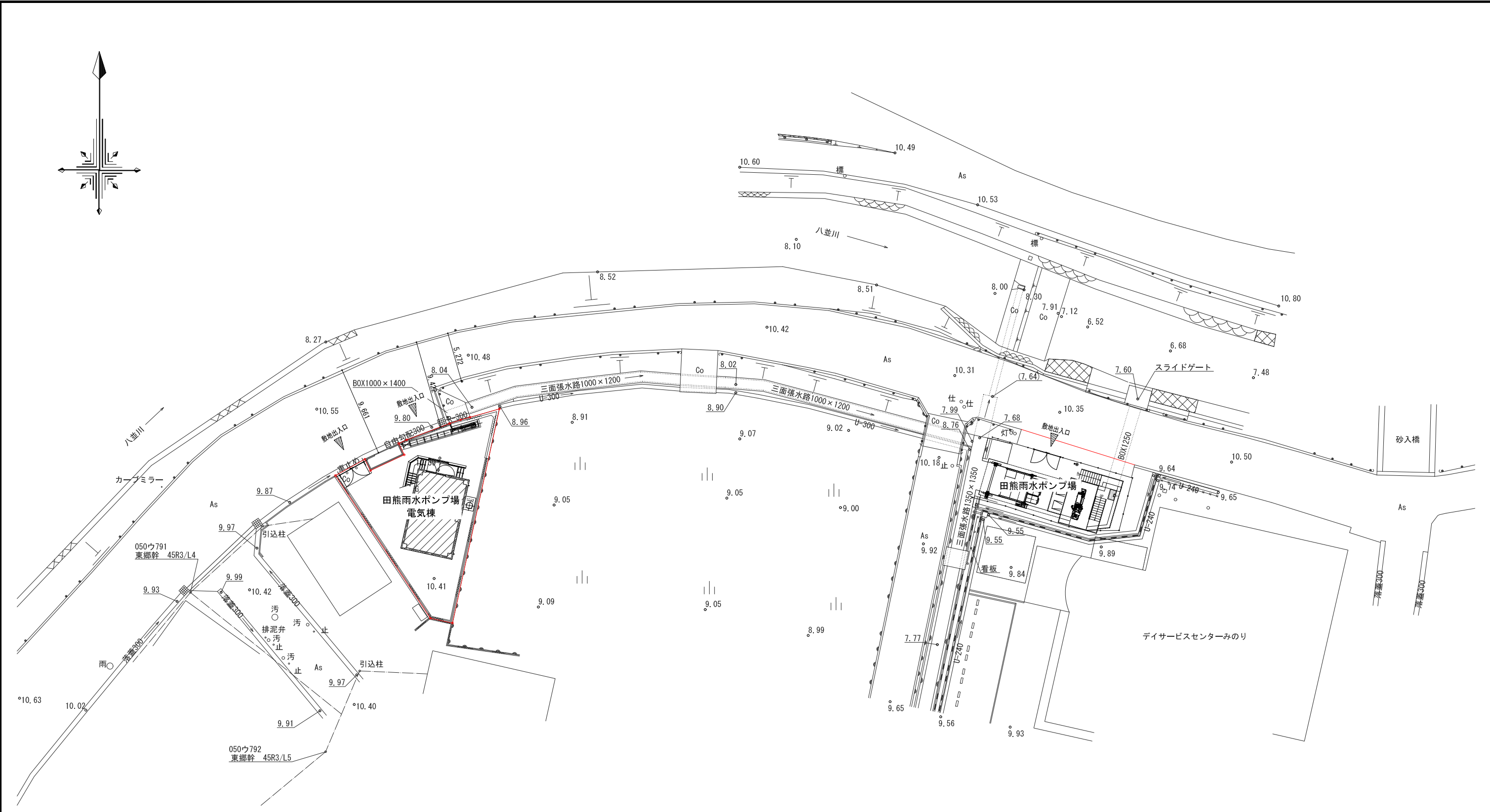
図面名

建築電気設備工事特記仕様書

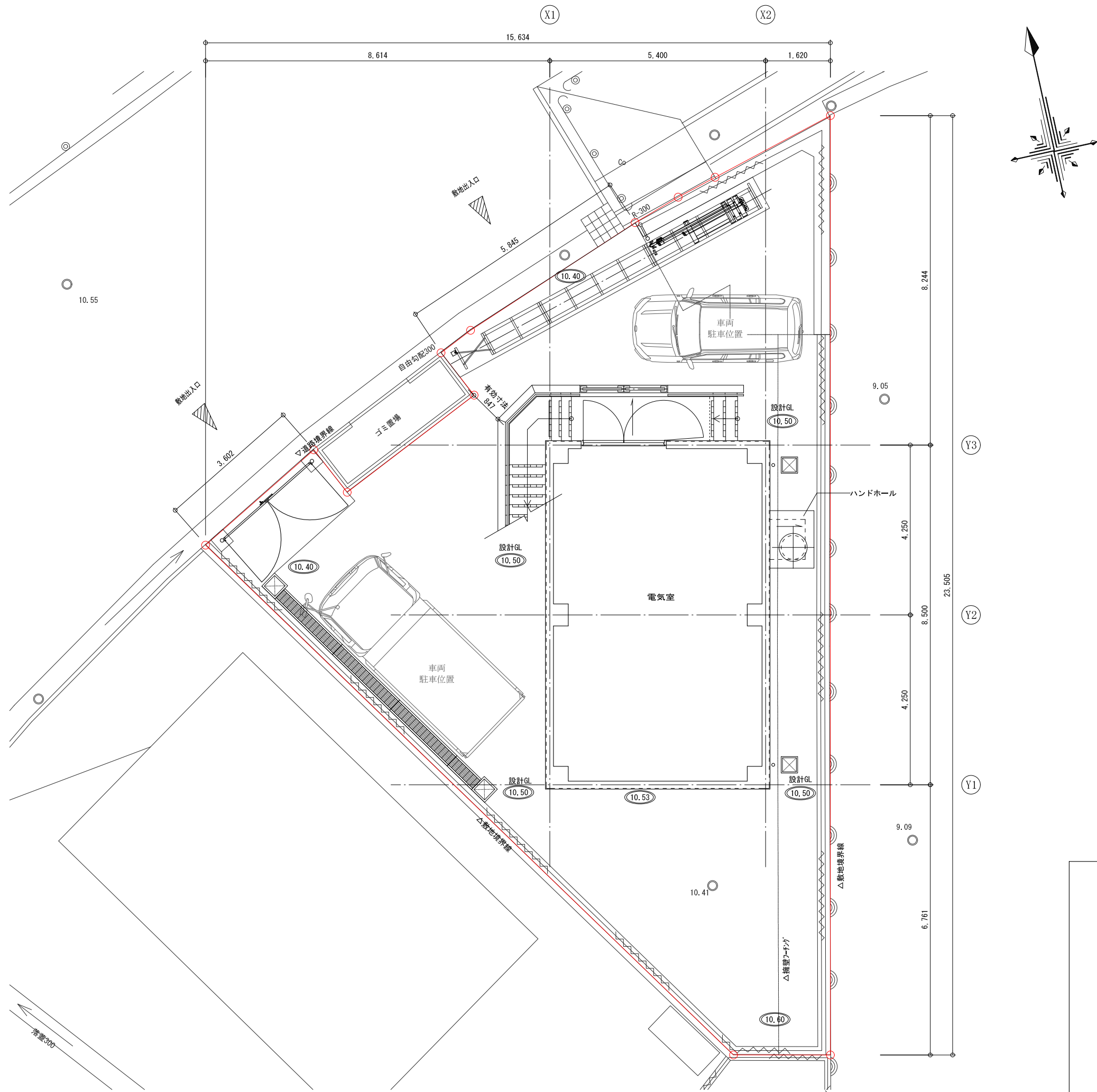
令和7年版

縮尺

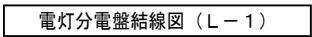
NOSCALE



福岡県宗像市			
工事年度	令和8年 （仮起工） 起工 321号 （災害定）		
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	全体配置図		
縮 尺	(A1) S=1:200 (A3) S=1:400	図面番号	AE-02



福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	（仮起工）	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	配置図		
縮 尺	(A1) S=1:50 (A3) S=1:100	図面番号	AE-03



※屋外ポール灯の設置、配線は別途工事にて実施。
(設置場所は電気棟建築地ではなくポンプ場敷地内)

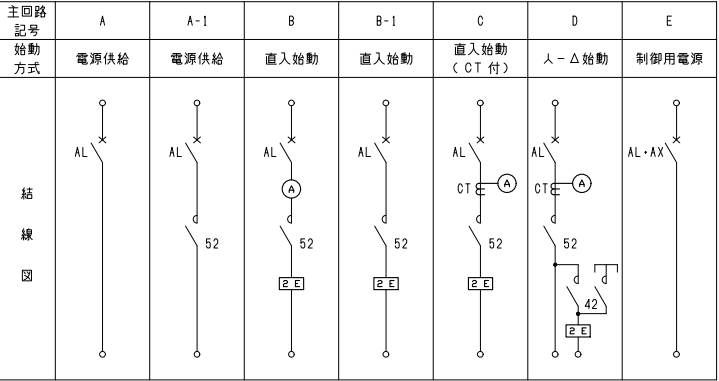
- 注) 1. 回路番号の分類は下記とする。
- | | | | | |
|---|-------------------|---|-----------|--------|
| ① | ・・・100V (AC回路) | L | ・・・電灯 | } を示す。 |
| ② | ・・・100V (AC-GC回路) | C | ・・・コンセント | |
| ③ | ・・・200V (AC回路) | S | ・・・その他の負荷 | |
| ④ | ・・・200V (AC-GC回路) | | | |

LSS1-4-37 	LPJ1N-180 
SP (人感センサ付ウォールライト縦向) LEDウォールライト 20形 Hf16形×1灯器具相当・防雨型 	SP (人感センサ付ウォールライト横向) LEDウォールライト 20形 Hf16形×1灯器具相当・防雨型 
防雨型、ひと感(熱線)センサ・Eセンサ付 (ON/OFF型) 器具光束1470lm、消費電力14.9W、電圧100~242V 5000K、Ra83、光源寿命40000時間 (光束維持率85%) 本体：ステンレス、カバー：ポリカーボネート (乳白) 設置方法 K1-LSS11-2	LED内蔵、電圧ユニット内蔵 防雨型、ひと感(熱線)センサ・Eセンサ付 (ON/OFF型) 5000K、Ra83、消費電力14.9W、電圧100~242V 器具光束1470lm、消費電力14.9W、電圧100~242V 本体：ステンレス、カバー：ポリカーボネート (乳白) 設置方法、保護等級：IP20 SH1-FBF20-C
非常灯取付要領 (参考) K1-LSS11-2 ブルボックス付 (壁付) 	
ブルボックス 250×250×250  K1-LSS11-2	

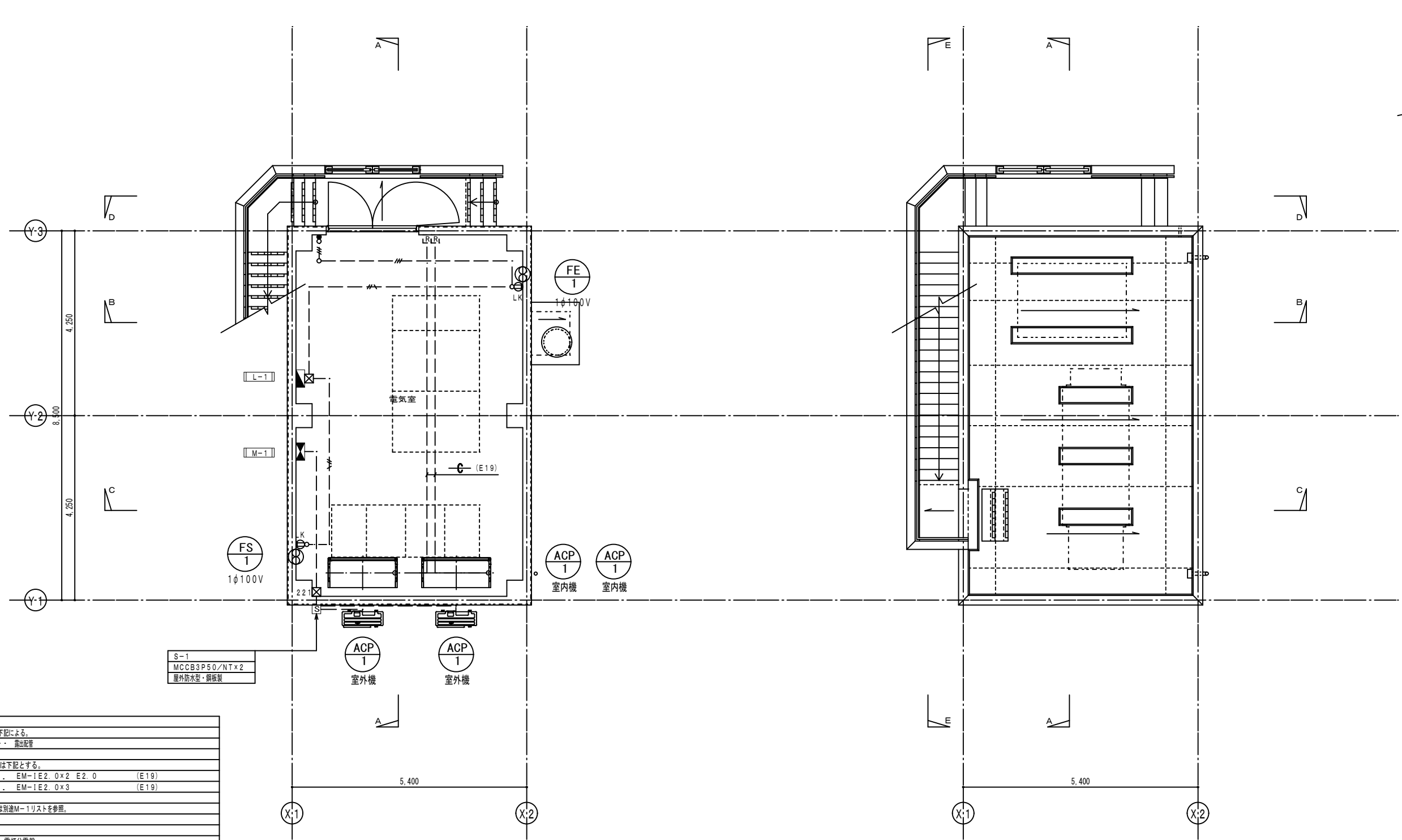
福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	第 幾 工	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	電灯分電盤結線図・照明器具姿図		
縮 尺	NOSCALE	図面番号	AE-04

幹 線	動 力 制 御 盤 (名称・形式)	主幹及び結線	機 器 仕 様			遮 断 器 種 別	結 線			インターロック	現 場 動 力 制 御 盤					中 央 監 視			備 考
			機器NO.	機 器 名 称	出力 (kW)		主回路	制御 方式	制御 スイッチ		切替SW (COS)	発停	状態 (G, R, O)	自家発 稼働時 停止	火災時 停止	発停	状態 (G, R, O)	故障	
3φ3W (PE工事) 200V 60Hz (AC) MCCB 3P 100/60	新 設 M-1 露出壁掛型	WL F CEE1.25°-3C CEE1.25°-2C																(無電圧A接点)	
	幹線定格種別 (AC) 3φ3W 210V 60Hz																		
	主幹器具 MCCB 3P 100AF 60AT																		
	自荷合計 5.6kW																		
	配管配線共 PE工事 CEE5.5°-3C		ACP-1	電気室	空調機	2.8	ELCB 3P 50/30	A	-	機制御盤									
			ACP-1	電気室	空調機	2.8	ELCB 3P 50/30	A	-	機制御盤									
	(別途PE工事) CEE1.25°-2C			一括故障警報															

(凡 例)		
1. 制御方式	2. 制御スイッチ	3. 結線図
3 ・・・手動-自動	B ・・・押釦スイッチ	AX ・・・補助スイッチ
4-1 ・・・試験-自動	TI ・・・タイムスイッチ	AL ・・・警報スイッチ
A ・・・遠方監視用接点	Th ・・・温度スイッチ	
B ・・・橙表示灯	I ・・・連動スイッチ	



福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	（仮起工） 起工 321号	
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	動力制御盤結線図		
縮 尺	NOSCALE	図面番号	AE-06



1 階 平面詳細図

屋階 平面詳細図

(注 記)	
1. 配管配線については下記による。	
---	露出配管
2. 特記なき配管配線は下記とする。	
---	EM-1E2.0×2 E2.0 (E19)
---	EM-1E2.0×3 (E19)
3. 凡例なき図中の線種は別途M-1リストを参照。	
4. 凡 例	
■	電灯分電盤
■	動力制御盤
□	手元開閉器盤
●	埋込スイッチ 1P15A + PL
○ LK	埋込コンセント 2P15A×1 抜止型
○	丸型露出ボックス
□	フルボックス
5. 図中のフルボックスサイズは下記とする。	
□ 221	200×200×100 SS

M-1リスト

記号	名 称	容量	配 線	配管	接続部分	備 考
ACP-1	電気室 空調機	2.8	EM-CE3.5sq-3C E2.0mm	E31/G28	F2-30WP	
ACP-1	電気室 空調機	2.8	EM-CE3.5sq-3C E2.0mm	E31/G28	F2-30WP	

福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	起工	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	動力設備 平面図		
縮 尺	(A1)S=1:50 (A3)S=1:100	図面番号	AE-07

田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）

工事設計図

製作日：令和 年 月

仕様書

1. 工 事 概 要

1. 工事場所福岡県宗像市田熊一丁目

2. 建物概要

建 物 名 称	構 造	階 数	建築基準法による延べ面積（㎡）	消防法施行令第15条第1項による区分	施設の分類	備考
田熊雨水ポンプ場電気棟	RC造	地上1階建（地下 階）	45.90 ㎡	(15) 項		新築

3. 工事項目（●印を付けたものを適用する）

建物別及び屋外工事種目	電気棟	工事種別	屋外
● 空調設備	新設一式		
● 換気設備	新設一式		
○ 排煙設備			
○ 自動制御設備			
○ 衛生器具設備			
● 給水設備			新設一式
○ 排水設備			
○ 給湯設備			
○ 消火設備			
○ 厨房設備			
○ ガス設備			
○ 雨水利用設備			
○ 排水処理設備			
○ 撤去工事			

4. 指定部分 ● 無し ○ 有 対象部分（ ）

指定部分工区：令和 年 月 日

5. 設備概要（●印のついたものを適用する） ※改修工事の場合は既存概要を示す。

方式及び種別	設 備	概 要
空調方式	● 空気調和 ○ 全空気方式 ○ ファンコイルユニット・ダクト併用方式 ○	
主要熱源機器	○	
自動制御方式	○ 電気式 ○ 電子式 ○ デジタル式	
給水方式	○ 高圧タンク方式 ○ ポンプ直送方式 ● 水道直結方式 ○ 水道直結増圧方式	
排水方式	建物内の汚水と雑排水（○ 合流式 ○ 分流式） ポンプ排水 ○ あり（○ 汚物 ○ 雑排水 ○ 湧水） ○ なし 建物外放流先 (1) 汚 水 ○ 直放流下水管 (2) 雑排水 ○ 直放流下水管 (3) 排水槽 ○ あり（計画容量：汚水槽 ㎡、雑排水槽 ㎡） ○ なし	
消火設備の種類	○ 屋内消火栓設備 ○ スプリンクラー設備 ○ 泡消火設備 ○ 連結放水方式 ○ 連結送水管 ○ 不活性ガス消火設備（○ ） ○ ○ 都市ガス（種別 13A、高位発熱量45.0MJ/㎡(N)、 低位発熱量40.6MJ/㎡(N) 供給圧力 Pa、供給事業者名 ）	

6. 改修内容：

2. 工 事 仕 様

1. 共通仕様

(1) 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁官庁管理種目制定の下記標準仕様書等のうち、●印の付いたものを適用する。
○公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和7年版）（以下「標準仕様書」という。）
○公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）（令和7年版）（以下「改修標準仕様書」という。）
○公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）（令和7年版）（以下「標準図」という。）

(2) 電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、電気設備工事及び建築工事は、それぞれの特記仕様書を適用する。なお、電気設備工事の工事仕様は、（ / ）図、建築工事の工事仕様は（ / ）図による。

(3) 仕様書や刊行物について、工期中に最新版が出版された場合は、最新版を適用する。

2. 特記仕様

章、項目、特記事項共に●印の付いたものを適用し、○印のものは適用しない。

○ 工事用仮設物

● 足場その他

● 建設発生土の処理

● 埋め戻し土・盛土

○ 運転操作説明板

● 機材の承認図

● 総合試運転調整

● 電動機

● 電源周波数

● 容量等の表示

● 耐震施工

○ 配管

○ 試験

○ 絶縁継手

● 地中埋設機等

● 保温

○ 塗装、仕上げ

● 電線類

○ 天井仕上区分

○ 吊り及び支持金物

○ 施工調査

● 他工事との工事区分

構内につくることが できる ○できない

● 契約の関係受注者が定置したものは無償で使用できる。
（●建築工事 ○電気設備工事 で設置する。）
○ス工事で設置する。
「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等の作業に関する基準」における2の(1)手すり据置方式又は(2)手すり先行専用足場方式により行う。
○内部足場等（○ 種 ○ 種）
○外部足場等（○ 種 ○ 種）
● 埋戻し後の建設発生土は、監督職員と協議し、構内の決定した場所に敷きならしとする。
○ 構外搬出適切処理 ○ 特記事項による。
○ 切切り土の中の水質土 ● 山砂の類
系統図、機器等の取扱い方及び重要な定期点検項目を記載したアクリル樹脂製の板を機械室に貼ける。説明板の大きさは約 ㎡とする。
機械設備工事機材承認図様式集（令和7年版）によるほか、監督職員との協議による。
● 本工事 ○ 別途
調整項目（測定箇所等は監督職員の指示による。）
○ 風量調整 ○ 水量調整 ● 室内外空気の温湿度の測定 ○ 室内気流及びじんあいの測定
○ 騒音の測定 ○ 飲料水の硬度の測定 ○ 雑用水の硬度の測定
換気扇、圧力扇及び標準仕様書に記載なく特記のないものの電動機の保護規格は、製造者規格による標準品としてよい。
○ 50Hz ● 60Hz
(1) 機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。
(2) 電動機出力、燃料消費量、圧力損失等は、原則として機器表に表示された数値以下とする。
設備機器の固定は施設の分類に応じて次による。
(1) 設計用水平地震力
設計用水平地震力は、機器の質量[kN]（水槽類は満水時の液体重量を含む設備機器総重量）に、地域係数1.0及び次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。
設計用標準水平震度

	機器種別	○ 特定の施設		● 一般の施設	
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階・屋上及び塔屋	機器	2.0	1.5	1.5	1.0
	防振支持の機器水槽類	2.0	2.0	2.0	1.5
		2.0	1.5	1.5	1.0
中間階	機器	1.5	1.0	1.0	0.6
	防振支持の機器水槽類	1.5	1.5	1.5	1.0
		1.5	1.0	1.0	0.6
地階・1階	機器	1.0	0.6	0.6	0.4
	防振支持の機器水槽類	1.0	1.0	1.0	0.6
		1.5	1.0	1.0	0.6

・上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階とする。
・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの。
・水槽類にはオイルタンクを含む。
・重要機器は次のものを示す。
(名称： 、記号：) (名称： 、記号：)
(名称： 、記号：) (名称： 、記号：)
(名称： 、記号：) (名称： 、記号：)
(2) 設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の1/2とする。
(1) ステンレス鋼管の接合は、下記による。
○呼び径60S以下（○ ○ ）
(2) 溶接部の非破壊検査 ○不要 ○要
(採取 標準仕様書（機械設備工事編）による ○ %)
(1) 各種配管の試験は、新設配管に適用する。
(2) 新設配管は、既設配管との接続前に試験を行う。
図示の位置に取り付ける。
(1) 地中埋設機 ●要（図示の箇所） ○不要
(2) 埋設表示用テープ ●要（排水管を除く） ○不要
○屋外露出部の（○機器類 ○配管類）には（○凍結防止ヒーター ○防凍保温）を行う。
なお、配管類には弁類を含むものとする。
(対象機器類： ○ ○ ○)
(対象配管類： ○ 給水配管 ○ 消火配管 ○ 膨張管 ○ ドレン管 ○)
凍結防止ヒーター： 自己サーモとし、防凍保温を施す。
防凍保温： 標準仕様書第2編3.1.4及び3.1.5による。
ただし、保温厚さは配管の呼び径25以下は50mm以上、呼び径32以上は40mm以上とする。
○共同溝、トレンチの保温は（標準仕様書第2編の施工箇所）を適用する。
○多湿箇所は下記による。（天井内共多湿箇所とする。）
(対象室名： ○ ○ ○)
●屋外露出部の（●電気室 ○ ）の保温外装は（●アルミガラスクロス ）とする。
露出機材の塗装及び仕上は下記による。
●屋外： ●ドレン管（●指定色塗装 ○ ）
○冷却水管（○指定色塗装 ○ ）
○金属電線管（○溶融亜鉛メッキ仕上げ（付着量300g/㎡）（○指定色塗装 ○ ）
○屋内： ○ダクト（○指定色塗装 ○ ）
○排水管・通気管（○指定色塗装 ○ ）
電線及びEMケーブルは標準仕様書第4編1.5.1表4.1.11による。
() 書きの室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。
(○構内 ○)の吊り金物・支持金物類はステンレス鋼製（SUS 304）とする。
事前調査 ○本工事 ○別途
調査内容
調査項目 ○既存資料調査 ○
調査範囲 ○図示 ○
調査方法 ○図示 ○
○はつり及び穿孔作業を行う場合、事前に走査式埋設物調査を行い報告すること。
○石綿含有分析調査（○本工事 ○別途工事）
図面に特記なき場合は、工事区分表による。

● 設計温湿度

○ 鋼板製煙道

○ ダクト

○ 風量測定口

○ チャンバー

○ ダンパー

○ 配管材料

○ 弁類

○ 温度計・圧力計

○ 瞬間流量計

○ 油面制御装置

○ 保温及び消音内貼

○ ダクト

○ 風量測定口

○ ダンパー

○ 排気ダクトのシール

○ チャンバー

○ 保温

○ ダクト

○ 排煙口の形式

○ 排煙口手動開放装置（開放及び復帰方式）

○ 排煙風量測定

○ 中央監視制御装置

○ システム構成・機能

○ 電気計装用配線

○ 自動洗浄装置及びその組み込み小便器

○ 自動水栓の電源供給方式

○ 衛生器具ユニット

○ 衛生器具付排水栓

○ 大便器洗浄弁

伸縮継手、排出口及びばいじん量測定口の位置は図示による。
鋼板厚（○3.2mm ○4.5mm）
○ 低圧ダクト（○コーナーボルト工法（長辺の長さが1,500mm以下の部分） ○アングルフランジ工法）とする。
○ スパイラルダクト（○低圧 ○ ）
○ 高圧ダクト（適用範囲は図示による。）とする。
○ ステンレスダクト及び強化ビニルダクトの適用範囲及び仕様は図示による。
図示した位置に取り付ける。
(1) 内貼りを施すチャンバーの表示寸法は外法を示す。
(2) 空気調和機に取り付けるサプライチャンバー、レタンチャンバー及びダクト系で消音内貼りしたチャンバーには点検口を設ける。なお、大きさは図示による。
(3) 外壁に面するガラリに直接取り付けけるチャンバー及びホッパーは雨水の溜滞のないように施工する。
(1) 防煙ダンパー 復帰方式（○遠隔復帰式 ○ ）
(2) ビストンダンパー 復帰方式（○遠隔復帰式 ○ ）
(1) 蒸気管 給気管 ○ 配管用炭素鋼鋼管（黒）
○ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒）（Sch40）
○
○ 圧力配管用炭素鋼鋼管（黒）（Sch80）
○ 一般配管用ステンレス鋼鋼管
○ 配管用炭素鋼鋼管（黒） ○
(3) 冷温水管 ○ 配管用炭素鋼鋼管（白） ○
(4) 冷却水管 ○ 配管用炭素鋼鋼管（白） ○
(5) 高温水管 ○ 一般配管用ステンレス鋼鋼管 ○
(6) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラー等への補給水管
○ 配管用炭素鋼鋼管（白） ○
(7) 冷媒管 ○ 断熱材被覆鋼管 ○
(8) ドレン管 ○ 配管用炭素鋼鋼管（白） ○
JIS又はJV（○5K ○10K（図示部分））
○ 65A以上の冷温水・冷却水用弁装置の仕切弁はバタフライ弁とする。
○ 鋼管用伸縮継手の種類は図示による。
○ ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。
図示の位置に取り付ける。
図示の位置に取り付ける。なお、瞬間流量計（○図定形 ○着脱形）とする。
制御盤には（○遠隔警報 ○ ）の端子を設ける。なおフロートスイッチ部と制御盤間の配管配線は製造者の標準仕様とする。
標準仕様書第2編3.1.4によるほか、次にによる。
○ 通りダクト（RAダクト）の保温範囲は（○図示による ○ ）
○ 外気ダクト（DAダクト）の保温範囲は（○図示による ○ ）
○ 蒸気通り管の保温不要（屋内露出は除く。）
○ 膨張管及び膨張タンクよりボイラー等への補給水管の保温は、標準仕様書第2編3.1.4の温水管の項による。
○ 建物内のエア抜き管の保温は、標準仕様書第2編3.1.4の温水管の項による。（エア抜き弁以降の配管は除く。）
○ 暗渠内（ビット内を含む）の空調用ドレン管は保温（○有 ○無）とする。
○ 冷媒管の保温外装は次による。
○ 図示による。
○ 屋内露出箇所（○合成樹脂製カバー（タイプ： ））
○ 屋外露出箇所（○ステンレス鋼板 ○ ）

○ 垂鉛鉄板 ○ 普通鋼板（○厚1.6mm ○ ）
○ 図示による。
○ 電気式（遠隔操作 ○要 ○不要） ○ワイヤー式
排煙口から手動開放装置への配管は、標準仕様書第4編1.5.1表4.1.11による耐熱・耐火ケーブルとする。
建築設備定期検査業務基準書（2023年版）（（一財）日本建築設備・昇降機センター）の排煙風量の検査方法に準じる。

○ 有り（○新設 ○既設） ○無し
別図による。
電線及びEMケーブルは、標準仕様書第4編1.5.1表4.1.11 による。
屋外・屋内露出の電線は、図面に特記がなければ金属管配線とする。
天井内隠ぺいの配線は、図面に特記がなければケーブル配線とする。

○ 個別感知フラッシュ方式（○A C電源 ○自己発電 ）
○ A C電源 ○自己発電 ○乾電池
○ 図示による。
水栓栓を使用する場合は、水栓は固定こま式とする。
○ 電気開閉式 ○ 手動式

● 給水設備

● 配管材料

● 量水器

● 量水器樹

● 弁類

● 水栓

● 管の地中埋設深さ

● 水栓柱

● 建築物導入部配管

● 引込納付金等

○ 排水設備

○ 洗面器等の排水管

○ 満水試験継手

○ 放流納付金等

○ 給湯設備

○ 保温

● 消火設備

○ 厨房設備

○ ガス設備

○ 雨水利用設備

○ 排水処理設備

○ 撤去工事

○ 排水設備

○ 配管材料

○ 弁類

○ 保温

○ 屋内消火栓種別

○ 屋内消火栓閉閉弁

○ 建築物導入部配管

○ 保温

○ 不活性ガス消火設備

○ 泡消火設備

● 消火器

○ システム

○ 機器の機能等

○ ガス設備

○ 弁類

○ 量水器

○ 仕様等

○ 設備方式

○ 撤去内容

○ 発生材の処理

別表-1

機材等名

(1) 一般配管 ○塩ビライニング鋼管（VA）（上水） ○塩ビライニング鋼管（VB）（雑用水）
○ステンレス鋼鋼管（SUS304） ○
(2) 地中埋設配管 ○塩ビライニング鋼管（VD） ○
○ステンレス鋼鋼管（SUS316）
(3) 水道直結配管 ●引き込みは水道事業者の指定により、量水器以降の地中埋設配管は
●耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管（HVP）とし、他の部分は(1)による。
●親メーター（買付品） ○現地表示式（直読式） ○遠隔表示式（○電文式 ○パルス式）
○子メーター（買取品） ○現地表示式（直読式） ○遠隔表示式（○電文式 ○パルス式）
●水道事業者指定品（○買付品 ●買取り（材質： ）） ○標準図面配管
JIS又はJV ●水道直結部分（●10K ○ ）
○その他の部分（○ 5K ○ ）
○逆止弁の衝撃吸収式はライニング不要とする。
○ ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。
○ 台所流し用の水栓は泡沫式とする。
○ 水栓栓を使用する場合、水栓は固定こま式とする。
（○ただし、屋外に設ける水栓は耐寒水栓とする）
管の上端より原則として、一般敷地は（ 30cm） 構内通路は（ 60cm）以上とする。
●合成樹脂製 ○アルミニウム合金製 ○ステンレス鋼製
●標準図（建築物導入部の変位吸収配管要領）の ○(a) ○(b) ●(c) による。
○ポリエチレン配管の施工要領は図示による。
●要（○別途工事 ●本工事） ○不要

(1) 屋 内 汚水管 ○排水用塩ビライニング鋼管 ○
雑排水管 ○排水用塩ビライニング鋼管 ○
○ 配管用炭素鋼鋼管（白）（厨房高温排水系統）
通気管 ○配管用炭素鋼鋼管（白） ○
ポンプアップ排水管 ○排水用ノットエポキシ塗装鋼管 ○
(2) 屋 外 第一樹まで ○排水用塩ビライニング鋼管 ○
○ リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（RF-VP）
排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管（REP-VU）
洗面器に直結する排水管は、器具トラップより1サイズアップとする。
台所流し等の床土部分の配管は、ビニル管（RF-VP）でもよい。
大便器、小便器、洗面器及び掃除用流しとの接続管は、ビニル管（RF-VP）とする。
図示の位置に取り付ける。
○要（○別途工事 ●本工事） ○不要

○ ステンレス鋼鋼管（SUS304） ○
JIS又はJV（○5K ○10K（図示部分））
○ ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。
湯沸器の給排気筋（二重管）の隠ぺい箇所は保温を行う。なお、保温の種別は標準仕様書第2編3.1.5表2.3.5のh・(イ)・Ⅹとする。

(1) 屋内消火栓 一般 ○ ステンレス鋼鋼管（SUS304） ○
地中 ○ ステンレス鋼鋼管（SUS316） ○
(2) 連結送水管 一般 ○ 圧力配管用炭素鋼鋼管（白）（Sch40）
地中 ○ 圧力配管用炭素鋼鋼管（白）（Sch40）
○ 広範囲型2号消火栓 ○ 易操作性1号消火栓 ○ 1号消火栓 ○ 2号消火栓
○ 10 K
○ 標準図（建築物導入部の変位吸収配管要領）の ○(a) ○(b) ○(c) による。
○ 屋外露出部分 ○あり（○ø2・(n)・Ⅶ ○ ） ○なし
別図による。
●粉末ABC10型消火器（蓄圧式）

○ ドライシステム ○
図示による。

○ 都市ガス ガス事業者の供給規定による。
○ 液化石油ガス (1) 一般配管 ○
(2) 地中配管 ○
別途（○50kg ○ ○ ） × 本
標準図（液化石油ガス容器廻り配管要領）による 本組。
標準図（液化石油ガス容器転倒防止施工要領）の ○(a) ○(b) による。
○ 親メーター（買付品） ○ 実測式 ○パルス式（パルス発信機は ○買取り）
○ 子メーター（買取品） ○ 実測式 ○パルス式
○ 本工事（図示による） ○ 別途工事
外部警報端子（○無 ○有）
○ 要 ○不要
○ 要 ○不要
○ 要 引込負担金等

○ システム構成その他
○ 配管材質
○ 弁類
○ 量水器

○ 仕様等
○ 設備方式

○ 撤去内容
○ 発生材の処理

別図による。
(1) 一般配管 ○
(2) 集水管 ○
JIS又はJV（○5K ○ ）
○ 遠隔表示式（パルス式） ○ 現地表示式（直読式）

別図による。
○ 特記事項による。

1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること。
2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。
3) 安定的な供給が可能であること。
4) 法令等で定めがある場合は、その許可、認可、認定又は免許を取得していること。
5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。
6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること。なお、システムとして機能するものにおいて、システムの構築能力があり、現場での施工体制が整えられていること。

工事年度

令和8年(平成31年) 起工 321号

宗像市 都市管理部 建築課

河 川 名

図面名

田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）

建築機械設備工事特記仕様書

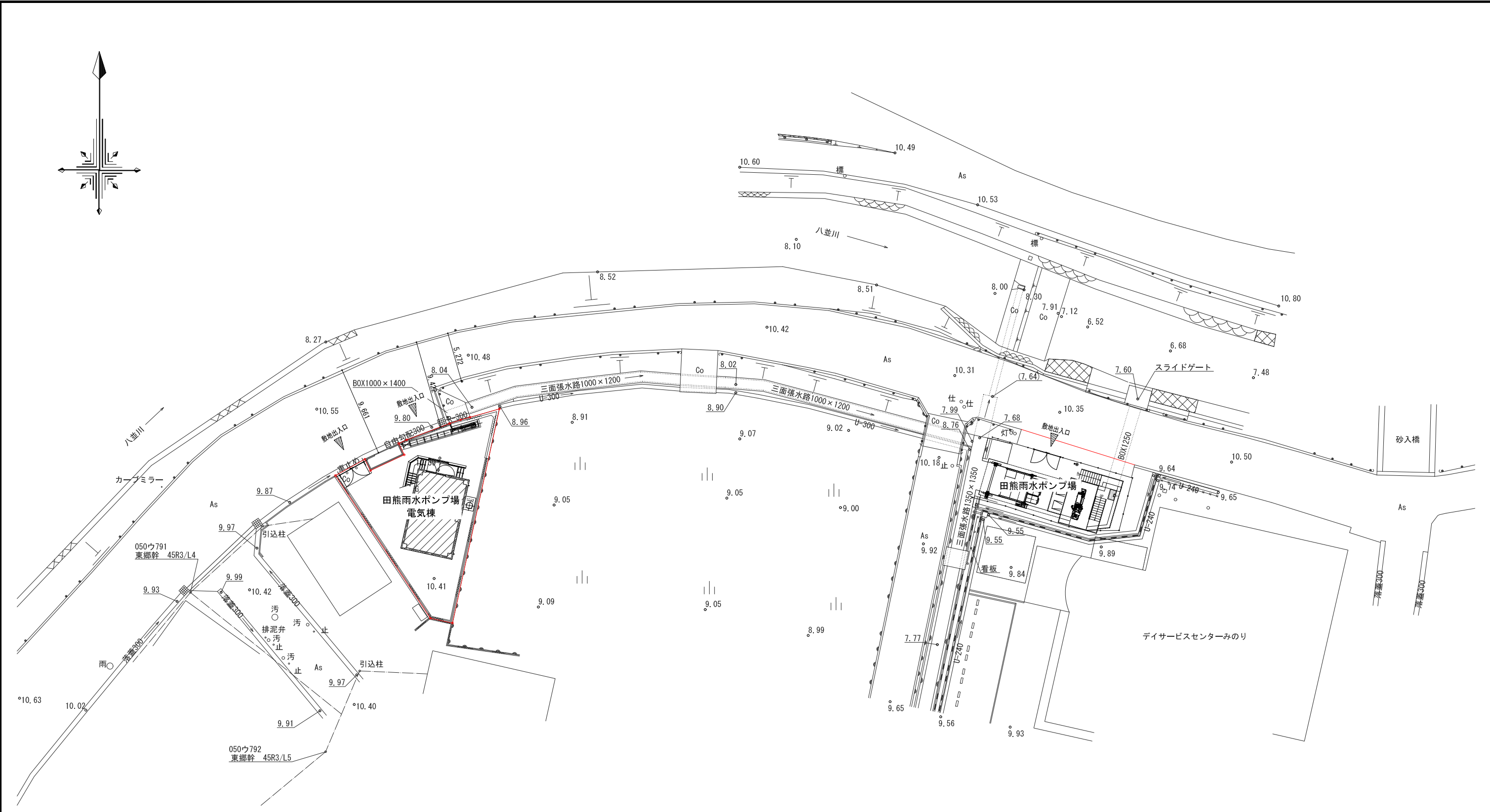
令和7年版

縮尺

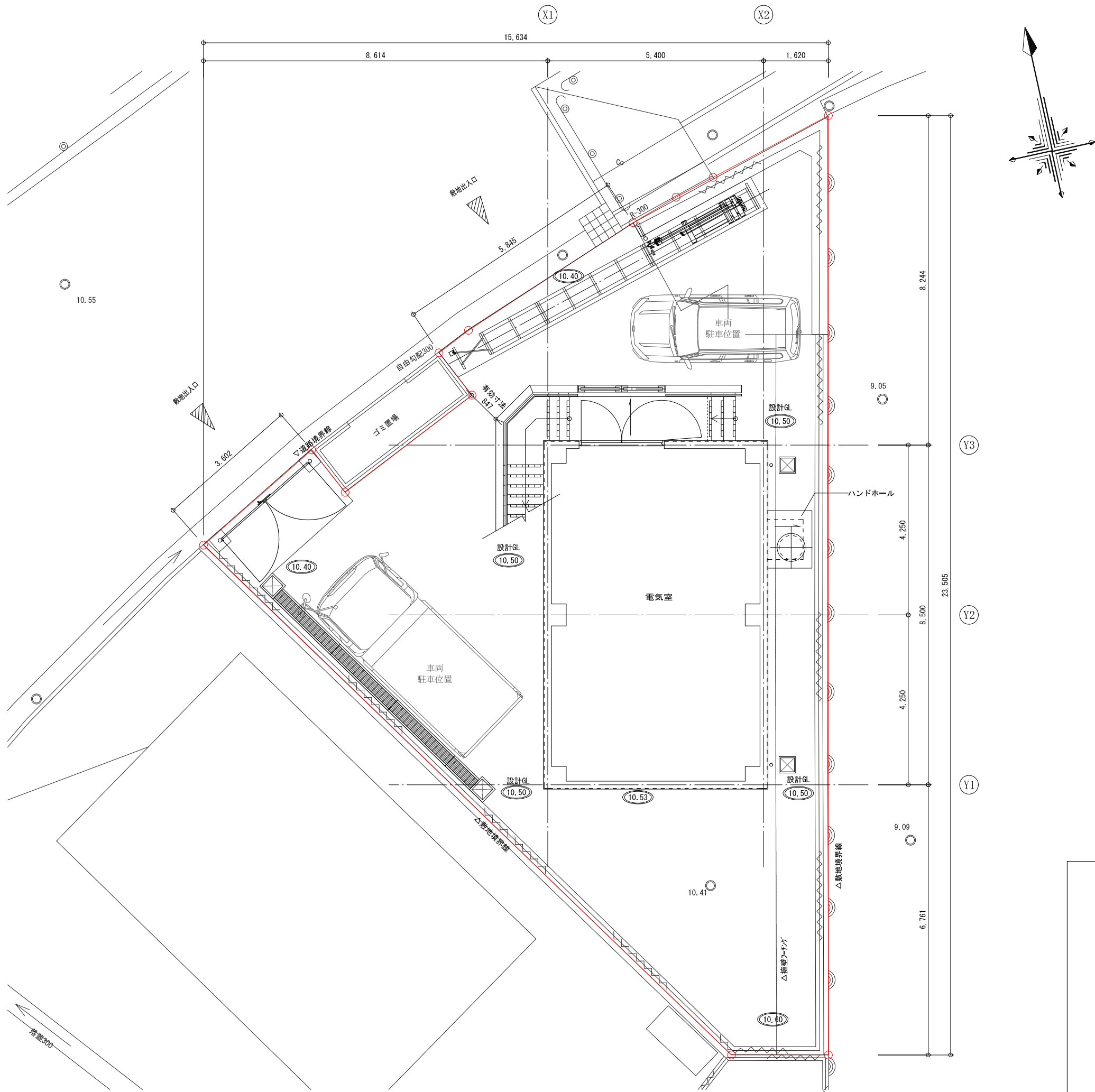
NOSCALE

図面番号

AM-01



福岡県宗像市			
工事年度	令和8年 （仮起工） 起工 321号 （以 後 定 義）		
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	全体配置図		
縮 尺	(A1) S=1:200 (A3) S=1:400	図面番号	AM-02

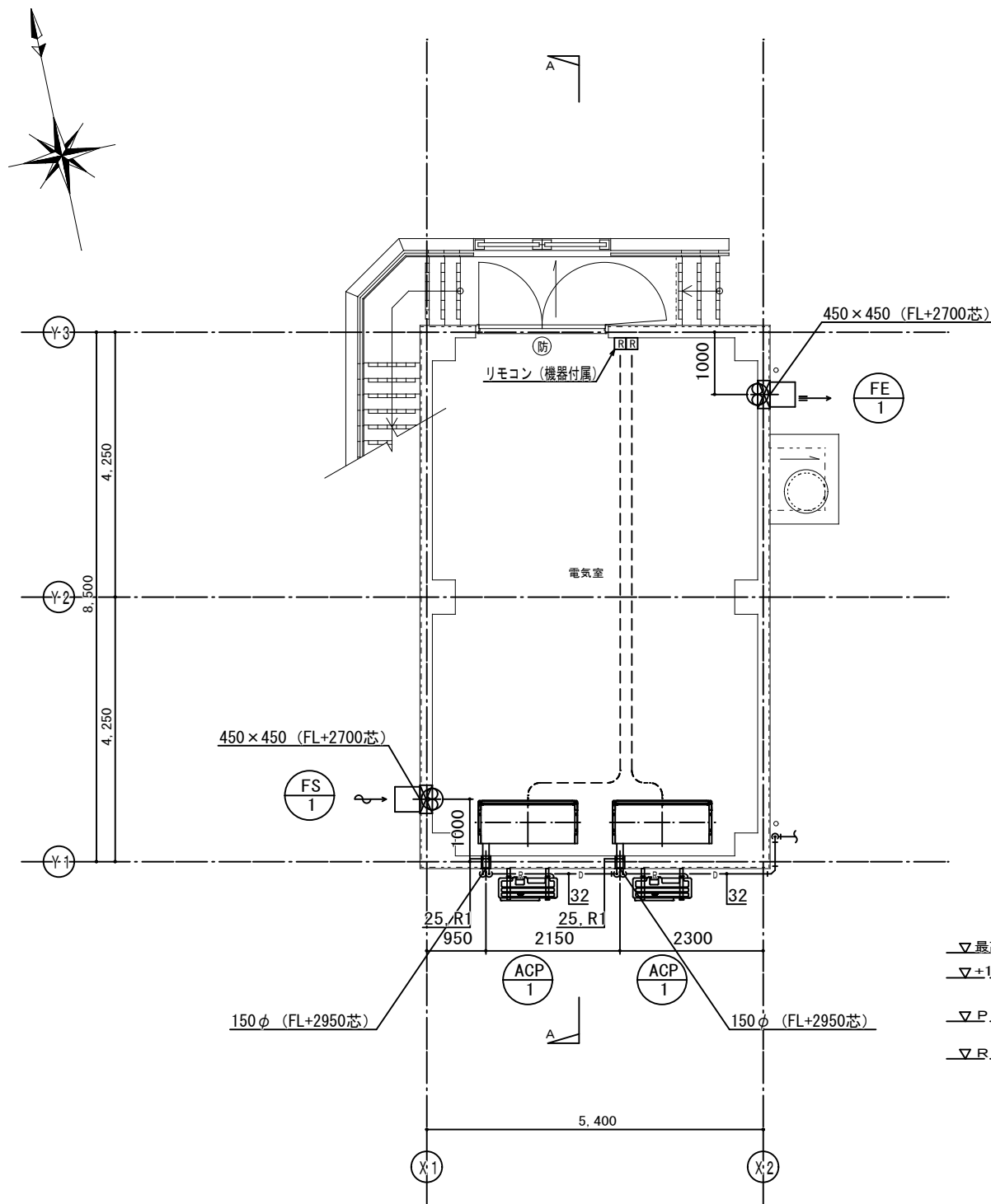


福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	（仮起工）	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	配置図		
縮 尺	(A1) S=1:50 (A3) S=1:100	図面番号	AM-03

機 器 表

記号	機 器 名 称	系 統	機 器 仕 様	電 動 機			運 転 方 式	台	設 置 場 所	備 考
				φ	V	Kw				
ACP-1	パッケージ形空調和機	電気室	形 式 天吊露出形	3	200	2.5	リモコン	2	屋外（室外機）	*一括故障警報端子付
			定格冷房能力 10.0 kW	3	200	0.1			電気室（室内機）	*停電時自動復帰機能付
			定格暖房能力 11.2 kW	3	200	0.2				
			付属品 リモコン、壁ブラケット架台 他標準付属品一式共							
FS-1	有圧換気扇（給気）	電気室	形 式 鋼板製	1	100	0.1	SW	1	電気室	
			300φ × 900m3/h × 50Pa							
			付属品 電動シャッター、SUS製深形ウェザーカバー（防虫網付）、取付枠							
FE-2	有圧換気扇（排気）	電気室	形 式 鋼板製	1	100	0.1	FS-1連動	1	電気室	
			300φ × 900m3/h × 50Pa							
			付属品 電動シャッター、SUS製深形ウェザーカバー（防虫網付）、取付枠							

福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	（ <u>年度</u> ） 以 下 起 工	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	空気調和設備 機器表		
縮 尺	NOSCALE	図面番号	AM-04



1階 平面詳細図

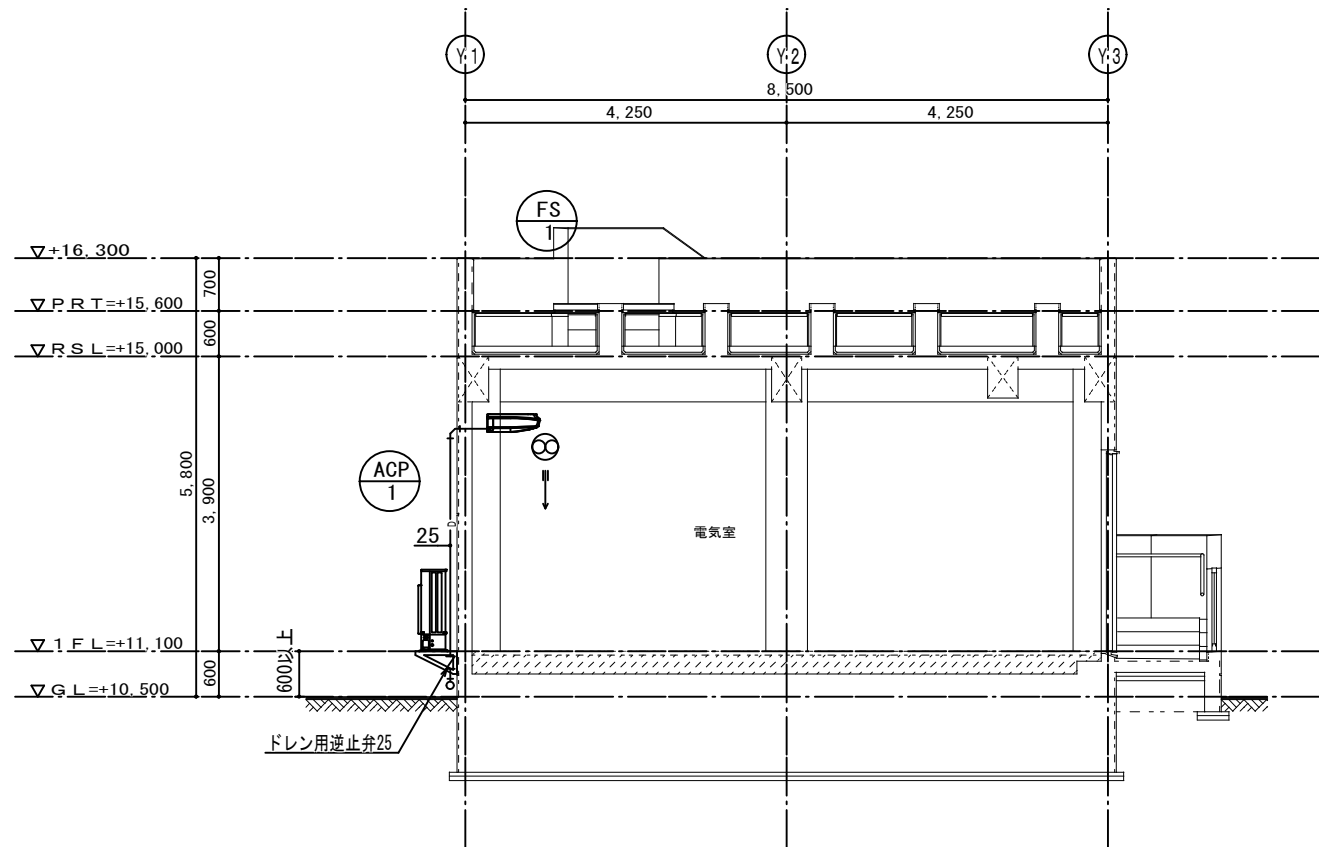
▽ 最高の高さ=+16.700
▽+16.300
▽ P.R.T.=+15.600
▽ R.S.L.=+15.000

▽ 1.F.L.=+11.100
▽ G.L.=+10.500

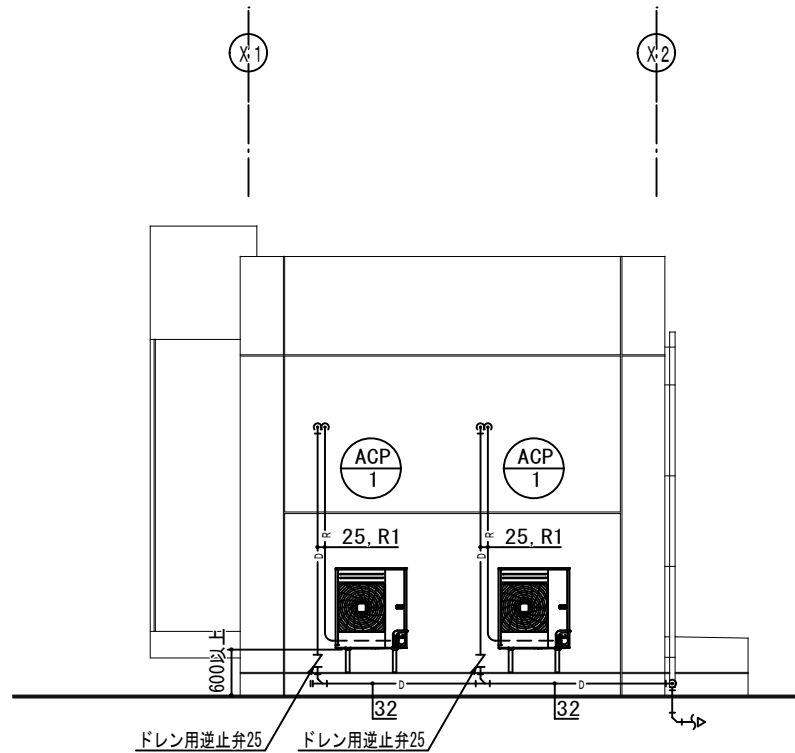
冷媒管サイズ表 (参考)

記号	液 管	ガス 管	室内外連絡配線
R1	9.5 φ	15.9 φ	EM-CE2.0sq-4C(1Cアース)
			リモコン線 : EM-CEES1.25sq-2C

- ※1. リモコン用配管ボックスはA E工事とする。
※2. 保温付被覆銅管の保温厚 : 液管10mm、ガス管20mm

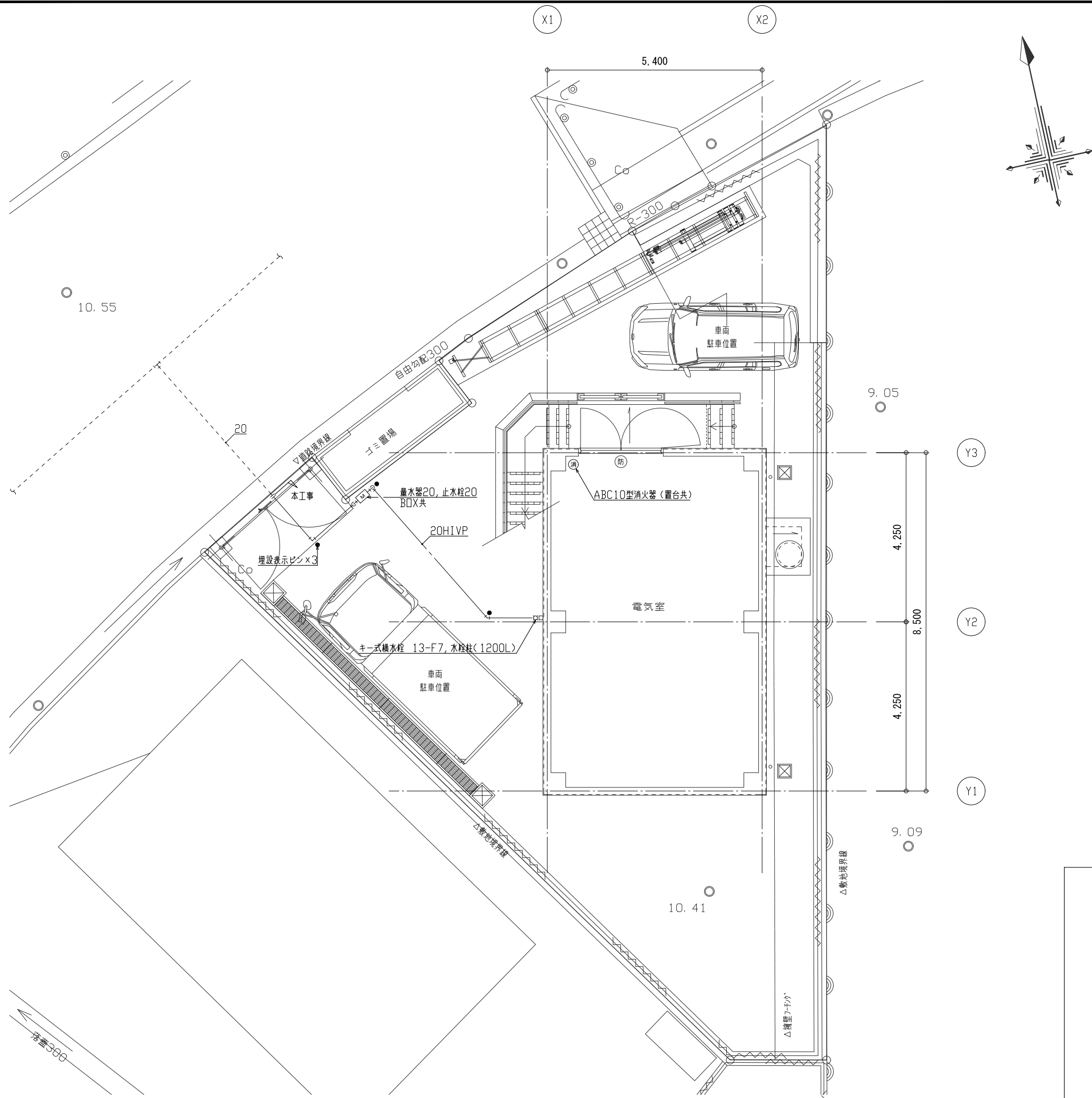


A-A断面詳細図



南 立面図

福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	起工 321号	
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事 (建築工事)		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	空調調和設備 平面・断面図		
縮 尺	(A1) S=1:50 (A3) S=1:100	図面番号	AM-05



福岡県宗像市			
工事年度	令和8年	（仮起工）	起工 321号
発注部署	宗像市 都市管理部 建築課		
工 事 名	田熊雨水ポンプ場整備工事（建築工事）		
河 川 名			
工事箇所	宗像市田熊一丁目		
図面の名称	給水設備 平面図		
縮 尺	(A1) S=1:50 (A3) S=1:100	図面番号	AM-06